



リファレンス&サポート Cloud Insights

NetApp
April 16, 2024

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/cloudinsights/concept_requesting_support.html on April 16, 2024. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

リファレンス&サポート	1
サポートをリクエストしています	1
Data Collector Reference - Infrastructure（データコレクターリファレンス - インフラストラクチャ）	6
Data Collector Reference - サービス	119
オブジェクトアイコンリファレンス	204

リファレンス&サポート

サポートをリクエストしています

Cloud Insights でサポートオプションにアクセスするには、[ヘルプ]、[サポート] の順にクリックします。利用可能なサポートオプションは、Cloud Insights エディションによって異なります。



ライブチャットサポートオプションは、Cloud Insights フェデラルエディションでは使用できません。

Cloud Insights Support NetApp Serial Number: 123456789011234567890 AWS Customer ID: AbCdEfGhI12345678990zyxWVU Support activation is required to enable support with NetApp through web ticket or phone. Activate Support at register.netapp.com . <input checked="" type="checkbox"/> Check this box to allow NetApp access to your instance of Cloud Insights.		Contact Us Need help with Cloud Insights? Technical Support: Open a Support Ticket Phone (P1) Chat Sales: Have questions regarding your subscription? Contact Sales .	
Knowledge Base Search through the Cloud Insights Knowledge Base to find helpful articles.	Documentation Center Visit the Cloud Insights Documentation Center to find step by step instructions to help you get the most out of Cloud Insights.	Communities Join the Cloud Insights Community to follow ongoing discussions or create a new one.	Feedback We value your input. Your feedback helps us improve Cloud Insights.
Learning Center <div>Cloud Insights Course List:<ul style="list-style-type: none">Hybrid Cloud Resource ManagementCloud Insights FundamentalsCloud Resource ManagementCloud Secure</div> <div>Cloud Education All-Access Pass: Visit and subscribe the Cloud Education All-Access Pass to get unlimited access to our best cloud learning resources.</div> <div>Course Catalog: Browse the Learning Services Product Catalog to find all the courses that are relevant to you.</div>			
Proxy Settings Need to setup proxy exceptions? Click here to learn more.			

サポート資格をアクティブ化しています

Cloud Insights は、試用モードで実行する場合にセルフサービスと E メールサポートを提供します。サービスに登録したら、サポート資格をアクティブ化することを強くお勧めします。サポートエンタイトルメントをアクティブにすると、オンラインチャット、Web チケット発行システム、および電話でテクニカルサポートにアクセスできます。登録が完了するまで、デフォルトのサポートモードはセルフサービスです。を参照してください ["詳細"](#) 下。

Cloud Insights インスタンスは、初回のサブスクリプションプロセスで「950」以降の 20 桁のネットアップシリアル番号を生成します。このネットアップシリアル番号は、お客様のアカウントに関連付けられた Cloud Insights サブスクリプションを表します。サポート利用資格を有効にするには、ネットアップのシリアル番号

を登録する必要があります。サポート登録には、次の 2 つのオプションがあります。

1. NetApp Support Site（NSS）の SSO アカウントをすでにお持ちのユーザ（現在ネットアップのお客様など）
2. NetApp Support Site（NSS）の SSO アカウントがない新しいネットアップのお客様

オプション 1：NetApp Support Site（NSS）の SSO アカウントを事前にお持ちのユーザ向けの手順

手順

1. ネットアップ登録用 Web サイトにアクセスします <https://register.netapp.com>
2. 「I am already registered as NetApp Customer」を選択し、製品ラインとして _ Cloud Insights _ を選択します。請求先のプロバイダ（ネットアップまたは AWS）を選択し、Cloud Insights のユーザインターフェイスで「Help > Support」メニューを参照して、シリアル番号とネットアップサブスクリプション名または AWS カスタマー ID を入力します。

Cloud Insights Support

NetApp Serial Number:	NetApp Subscription Name:
95011122233344455512	A-000012345

Support activation is required to enable support with NetApp through chat, ticket or phone.
Activate Support at register.netapp.com.

☒ Check this box to allow NetApp access to your instance of Cloud Insights.

3. 既存の顧客登録フォームに入力し、*Submit* をクリックします。

Existing Customer Registration

The fields marked with * are mandatory

First Name*	Test
Last Name*	Cloud2
Company*	NetApp Inc. (VSA Only)
Email Address*	ng-cloudvol-csd1@netapp.com
Product Line*	Cloud Insights ▼
Billing Provider *	NetApp ▼
Cloud Insights Serial # * ⓘ	<input type="text" value="e.g. 95012235021303893918"/>
NetApp Subscription Name * ⓘ	<input type="text" value="e.g. A-S0000100"/>

[Add another Serial #](#)

4. エラーが発生しない場合は、「登録が正常に送信されました」ページが表示されます。登録に使用された

NSS SSO ユーザ名に関連付けられた電子メールアドレスには、数分以内に「お使いの製品は現在サポート対象です」という電子メールが送信されます。

5. これは、Cloud Insights ネットアップシリアル番号の一時登録です。

オプション 2 : NetApp Support Site (NSS) の SSO アカウントがない新しいネットアップのお客様向けの手順


手順

1. ネットアップ登録用 Web サイトにアクセスします <https://register.netapp.com>
2. 「I am not a registered NetApp Customer」を選択し、以下の例のフォームに必要な情報を入力します。

New Customer Registration

IMPORTANT: After submitting, a confirmation email will be sent to the email address filled-in the form. Please click the validation link in that email to complete the registration.

The fields marked with * are mandatory

First Name*	<input type="text"/>
Last Name*	<input type="text"/>
Company*	<input type="text"/>
Email Address*	<input type="text"/>
Office Phone*	<input type="text"/>
Alternate Phone	<input type="text"/>
Address Line 1*	<input type="text"/>
Address Line 2	<input type="text"/>
Postal Code / City*	<input type="text"/>
State/Province / Country*	<input type="text"/> - Select - ▼
NetApp Reference SN	<input type="text"/>
If you currently own a NetApp product, please provide the Serial Number for that product here in order to speed-up the validation process	
Product Line*	<input type="text" value="Cloud Insights"/> ▼
Billing Provider *	<input type="text" value="NetApp"/> ▼
Cloud Insights Serial # * ⓘ	<input type="text" value="e.g. 95012235021303893918"/>
NetApp Subscription Name * ⓘ	<input type="text" value="e.g. A-S0000100"/>
Add another Serial #	
Security check: Enter the characters shown in the image to verify your	
	

1. プロダクトラインとして _ Cloud Insights _ を選択します。請求先のプロバイダ（ネットアップまたは AWS）を選択し、Cloud Insights のユーザインターフェイスで「Help > Support」メニューを参照して、シリアル番号とネットアップサブスクリプション名または AWS カスタマー ID を入力します。

Cloud Insights Support

NetApp Serial Number:
95011122233344455512

NetApp Subscription Name:
A-000012345

Support activation is required to enable support with NetApp through chat, ticket or phone.
Activate Support at register.netapp.com.

☒ Check this box to allow NetApp access to your instance of Cloud Insights.

2. エラーが発生しない場合は、「登録が正常に送信されました」ページが表示されます。登録に使用された NSS SSO ユーザ名に関連付けられた電子メールアドレスには、「お使いの製品はサポート対象です」という電子メールが数時間以内に送信されます。
3. ネットアップの新規のお客様の場合は、NetApp Support Site（NSS）のユーザアカウントを作成して、今後の登録や、テクニカルサポートチャットや Web チケット発行用のサポートポータルにアクセスする必要があります。このリンクはにあります <https://mysupport.netapp.com/eservice/public/now.do>。新しく登録した Cloud Insights のシリアル番号を入力しておく、プロセスを迅速に進めることができます。
4. これは、Cloud Insights ネットアップのシリアル番号への登録を 1 回だけ行うものです。

サポート情報の入手方法

ネットアップでは、さまざまな方法で Cloud Insights をサポートしています。ナレッジベース（KB）記事やネットアップコミュニティなど、幅広いセルフサポートオプションを 24 時間 365 日ご利用いただけます。いずれかの Cloud Insights エディション（Basic*、Standard、Premium）に登録している場合は、電話または Web チケットでテクニカルサポートを利用できます。Web チケットとケース管理には、NetApp Support Site（NSS）の SSO アカウントが必要です。

*すべてのネットアップストレージシステムが少なくとも Premium サポートレベル以上であれば、Basic エディションでサポートを利用できます。

セルフサービスサポート：

これらのサポートオプションはトライアルモードで利用でき、24 時間 365 日無料でご利用いただけます。

- ["ナレッジベース"](#)

このセクション内のリンクをクリックすると、ネットアップナレッジベースに移動し、関連する記事、ハウツーなどを検索できます。

- ["ドキュメント"](#)

[Documentation] リンクをクリックすると、このドキュメントセンターに移動します。

- ["コミュニティ"](#)

コミュニティのリンクをクリックすると、ネットアップの Cloud Insights コミュニティに移動し、他のユーザやエキスパートと交流できます。

また、提供するリンクもあります [xref:./"/** フィードバック */](#) Cloud Insights の改善にお役立てください。

サブスクリプションサポート

上記のセルフサポートオプションに加え、監視対象のネットアップの製品またはサービスに対する Cloud Insights サブスクリプションまたは有料サポートがある場合は、ネットアップサポートエンジニアと協力して問題を解決できます。



に登録する必要があります [サポートを有効にします](#) ネットアップのクラウド製品の場合：登録は、ネットアップの[クラウドデータサービスサポート登録](#)にアクセスしてください。

チェックボックスをオンにして、サポートセッション中にネットアップサポートエンジニアが Cloud Insights 環境にアクセスできるようにすることを強く推奨します。これにより、エンジニアが問題のトラブルシューティングを行い、問題を迅速に解決できるようになります。問題が解決されるか、サポートセッションが終了したら、チェックボックスをオフにできます。

サポートは次のいずれかの方法でリクエストできます。次のサポートオプションを使用するには、アクティブな Cloud Insights サブスクリプションが必要です。

- [** 電話 **](#)
- [** サポートチケット **](#)
- チャット- NetAppサポート担当者に連絡してサポートを受けます（平日のみ）。チャットは、Cloud Insights 画面の右上にある [* Help > Live Chat *](#) メニューオプションで利用できます。

をクリックして、セールスサポートをリクエストすることもできます [** 販売担当者 * お問い合わせください](#) リンク

Cloud Insights のシリアル番号は、サービス内で [* Help > Support *](#) メニューから確認できます。サービスへのアクセスで問題が発生し、ネットアップにシリアル番号を登録している場合は、NetApp Support Siteで次の番号の Cloud Insights シリアル番号の一覧を確認することもできます。

- [mysupport.netapp.com](#) にログインします
- [\[製品\]>\[マイ製品\]](#) メニュータブで、製品ファミリー「SaaS Cloud Insights」を使用して、登録済みのシリアル番号をすべて検索します。

View Installed Systems

Selection Criteria

- Select: **Serial Number (located on back of unit)** Then, enter Value: **Go!**
Enter the entire value, or use asterisk (*) for wildcard searches. (Wildcard search does not apply to Serial Numbers)
Wildcard searches may take some time.
Enter the Cluster Serial Number value without dashes.

- OR -

- Search Type*: **Serial Numbers for My Location** Product Family (optional): **SAAS CLOUD INSIGHTS**
City (optional): State/Province (optional): **US and Canada Only**
Postal Code (optional): Country (optional): **- Select One -** **Go!**

Details

If you see any discrepancies or errors in the information shown below, please submit [Feedback](#) and be sure to include the serial nu

Cloud Insights データコレクタのサポートマトリックス

では、サポートされているデータコレクタに関する情報や詳細を表示またはダウンロードできます * [Cloud Insights データ・コレクタ・サポート・マトリックス](#) *、[role=](#)。

ラーニングセンター

登録内容に関係なく、* [Help > Support](#) *は、Cloud Insights を最大限に活用できるよう、NetApp Universityのいくつかのコースにリンクしています。チェックアウト！

Data Collector Reference - Infrastructure（データコレクターリファレンス - インフラストラクチャ

Vendor-Specific Reference

このセクションのトピックでは、ベンダー別のリファレンス情報を提供します。ほとんどの場合、データコレクタの設定は簡単です。場合によっては、データコレクタを適切に設定するために追加情報またはコマンドが必要になることがあります。

左側のメニューで * VENDOR * をクリックすると、そのデータコレクタの情報が表示されます。

Amazon EC2 データコレクタの設定

Cloud Insights は、Amazon EC2 データコレクタを使用して、インベントリとパフォーマンスのデータを EC2 インスタンスから取得します。

要件

Amazon EC2 デバイスからデータを収集するには、次の情報が必要です。

- 次のいずれかが必要です。

- IAM ロール認証を使用している場合は、Amazon EC2 クラウドアカウント用の * IAM ロール *。IAM ロールは、Acquisition Unit が AWS インスタンスにインストールされている場合にのみ適用されます。
- IAM Access Key 認証を使用している場合は、Amazon EC2 クラウドアカウントの * IAM Access Key * ID と Secret Access Key。

- 「組織のリスト」権限が必要です
- ポート 443 HTTPS
- EC2 インスタンスは、仮想マシンまたは（自然に）ホストとしてレポートできます。EBS ボリュームは、VM で使用されている仮想ディスクと、仮想ディスクの容量を提供するデータストアの両方として報告できます。

アクセスキーは、アクセスキー ID（AKIAIOSFODNN7EXAMPLE など）とシークレットアクセスキー（wJalrXUtil/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY など）で構成されます。Amazon EC2 SDK、REST、またはクエリ API の処理を使用している場合は、アクセスキーを使用して EC2 にプログラム経由の要求に署名します。これらのキーは、Amazon の契約に付属しています。

設定

次の表に従って、データコレクタフィールドにデータを入力します。

フィールド	説明
AWS リージョン	AWS リージョンを選択します
IAM ロール	AWS の AU で取得した場合にのみ使用します。の詳細については、以下を参照してください "IAM ロール" 。
AWS IAM Access Key ID	AWS IAM Access Key ID を入力します。IAM ロールを使用しない場合は必須です。
AWS IAM Secret Access Key の略	AWS IAM Secret Access Key を入力します。IAM ロールを使用しない場合は必須です。
AWS が API 要求を課金することを理解している	このチェックボックスをオンにすると、Cloud Insights ポーリングで作成された API 要求を AWS から課金することを理解できます。

詳細設定

フィールド	説明
追加リージョンを含める	ポーリングに含める追加領域を指定します。
クロスアカウントロール	異なる AWS アカウントのリソースにアクセスするためのロール。
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは60です
「除外」または「含める」を選択して、タグによる VM のフィルタリングに適用します	データの収集時にタグを使用して VM を含めるか除外するかを指定します。「含める」が選択されている場合、タグキーフィールドを空にすることはできません。

フィールド	説明
VM をフィルタするタグキーと値	+ タグのフィルタ * をクリックして、VM のキーとタグの値に一致するキーと値をフィルタリングして、対象に含める / 除外する VM（および関連ディスク）を選択します。タグキーは必須です。タグ値はオプションです。タグ値が空の場合、タグキーと一致する限り、VM はフィルタリングされます。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは 1800 です。
CloudWatch Agent Metrics 名前空間	データの収集元である EC2/EBS のネームスペース。このネームスペース内のデフォルト指標の名前が変更されると、Cloud Insights は名前を変更したデータを収集できなくなる可能性があります。メトリック名はデフォルトのままにしておくことを推奨します。

IAM Access Key

アクセスキーは、IAM ユーザまたは AWS アカウントの root ユーザの長期的なクレデンシャルです。アクセスキーは、プログラムによる AWS CLI または AWS API への要求に（直接または AWS SDK を使用して）署名するために使用します。

アクセスキーは、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーの 2 つの部分で構成されます。IAM Role `_authentication` ではなく、`_IAM Access Key_authentication` を使用する場合は、要求の認証にアクセスキー ID とシークレットアクセスキーの両方を一緒に使用する必要があります。詳細については、の Amazon のドキュメントを参照してください "[アクセスキー](#)"。

IAM ロール

IAM Access Key 認証ではなく、`_IAM Role_authentication` を使用する場合は、作成または指定するロールにリソースへのアクセスに必要な適切な権限が割り当てられていることを確認する必要があります。

たとえば、`InstanceEc2ReadOnly` という名前の IAM ロールを作成した場合は、この IAM ロールのすべての EC2 リソースに読み取り専用リストアクセス権限を付与するようにポリシーを設定する必要があります。また、このロールがアカウント間でロールを引き受けることができるように、STS（セキュリティトークンサービス）アクセスを許可する必要があります。

IAM ロールを作成したら、新しい EC2 インスタンスまたは既存の EC2 インスタンスを作成するときに IAM ロールを接続できます。

IAM ロール `InstanceEc2ReadOnly` を EC2 インスタンスに接続すると、インスタンスメタデータから IAM ロール名で一時的なクレデンシャルを取得し、この EC2 インスタンスで実行されているすべてのアプリケーションから AWS リソースにアクセスできるようになります。

詳細については、Amazon ドキュメントを参照してください "[IAM ロール](#)"。

注：IAM ロールは、AWS インスタンスで Acquisition Unit を実行している場合にのみ使用できます。

Amazon タグを Cloud Insights アノテーションにマッピングする

Amazon EC2 データコレクタには、EC2 で設定されているタグを使用して Cloud Insights のアノテーションを入力できるオプションがあります。アノテーションには EC2 タグとまったく同じ名前を付ける必要があります。Cloud Insights では、常に同じ名前のテキスト型アノテーションが入力され、他の型（数値、ブーリア

ンなど) のアノテーションの入力が「最良の試行」となります。アノテーションのタイプが異なるためにデータコレクタにデータを入力できない場合は、アノテーションを削除してテキストタイプで再作成する必要があります。

AWS では大文字と小文字が区別され、Cloud Insights では大文字と小文字が区別されないことに注意してください。そのため、Cloud Insights で「owner」という名前のアノテーションを作成し、EC2 では「owner」、「owner」、「owner」という名前のタグを作成すると、いずれの EC2 バージョンの「owner」が Cloud Insight の「owner」アノテーションにマッピングされます。

追加リージョンを含める

AWS Data Collector * Advanced Configuration * セクションでは、* Include extra regions * フィールドを設定して、カンマまたはセミコロンで区切って追加のリージョンを含めることができます。デフォルトでは、このフィールドは * us- に設定されており、これによってすべての US AWS リージョンで収集されます。

on_all_regions を収集するには、このフィールドを * . * に設定します。

「* include extra regions *」フィールドが空の場合、「* Configuration *」セクションの指定に従って、「* AWS Region *」フィールドに指定されたアセットについてデータコレクタが収集されます。

AWS の子アカウントから収集しています

Cloud Insights では、1 つの AWS データコレクタで AWS の子アカウントの集合がサポートされます。この収集の設定は、AWS 環境で実行されます。

- 各子アカウントに AWS ロールを設定して、メインアカウント ID が子アカウントから EC2 の詳細にアクセスできるようにする必要があります。
- 各子アカウントには、同じ文字列としてロール名を設定する必要があります。
- Cloud Insights AWS Data Collector * Advanced Configuration * セクションの * Cross account role * フィールドに、このロール名の文字列を入力します。

ベストプラクティス：AWS Predefined_AmazonEC2ReadOnlyAccess_policy を EC2 メインアカウントに割り当てることを強く推奨します。また、データソースで設定したユーザが AWS に照会するには、少なくとも、Predefined_AWSOrganizationReadOnlyAccess_policy を割り当てる必要があります。

Cloud Insights が AWS の子アカウントから収集できるように環境を設定する方法については、次のドキュメントを参照してください。

["チュートリアル：IAM ロールを使用した AWS アカウント間でのアクセスの委譲"](#)

["AWS のセットアップ：自分が所有している別の AWS アカウントで IAM ユーザにアクセスを付与する"](#)

["IAM ユーザに権限を委任するためのロールを作成する"](#)

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp ONTAP データコレクタ用の Amazon FSX

このデータコレクタは、Amazon FSX for NetApp ONTAP からインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。このデータコレクタは、Cloud Insights サービスリ

ージョン全体で段階的に利用可能になります。Cloud Insights 環境にこのコレクタのアイコンが表示されない場合は、営業担当者にお問い合わせください。



このCloud Insightsコレクタには、*Filesystem-Scoped_role*を持つONTAPユーザが必要です。AWSを確認してください ["ロールとルール"](#) 使用可能なオプションのマニュアル。現時点では、AWSは*Filesystem Scope*を使用するユーザロールの1種類（*_fsxadmin*）のみをサポートしています。これは、Cloud Insightsコレクタに使用する適切なロールです。また、ユーザには、http、ontapi、sshの3つのアプリケーションすべてが割り当てられている必要があります。

用語集

Cloud Insights は、FSx-NetApp データコレクタからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
クラスタ	ストレージ
LUN	ボリューム
ボリューム	内部ボリューム

FSX - ネットアップの用語

FSx-NetApp ストレージアセットランディングページにあるオブジェクトや参考資料に関連する用語を次に示します。これらの用語の多くは、他のデータコレクタにも適用されます。

ストレージ

- model –このクラスタ内で一意のディスクリットモデル名をカンマで区切って指定します。
- ベンダー–AWS
- Serial Number –アレイのシリアル番号。
- IP –一般に、データソースで設定されている IP またはホスト名です。
- 物理容量–FSXファイルシステムに割り当てられているすべてのSSDストレージの2つの合計。
- レイテンシ–読み取りと書き込みの両方について、ワークロードが直面しているホストの状況が表示されます。Cloud Insights がこの値を直接調達するのが理想的ですが、これは多くの場合ではありません。Cloud Insights は、このアップを提供するアレイの代わりに、通常、個々の内部ボリュームの統計情報から導出される IOPS 加重計算を実行します。
- スループット–内部ボリュームから集約されたもの。
管理–デバイスの管理インターフェイスのハイパーリンクが含まれている可能性があります。Cloud Insights データソースによって、インベントリレポートの一部としてプログラムによって作成されます。

ストレージプール

- storage –このプールのストレージアレイの場所。必須。
- Type –可能性のリストから説明的な値を入力します。最も一般的な構成は、「集約」または「RAID グループ」です。

- 容量–使用済みの論理容量、使用可能な容量、および合計論理容量の値と、これらの要素で使用されている割合の値が表示されます。
- IOPS–このストレージプールに割り当てられているすべてのボリュームの合計IOPS。
- Throughput–このストレージプールに割り当てられているすべてのボリュームの合計スループット。

要件

このデータコレクタを設定して使用するための要件は次のとおりです。

- 「fsxadmin」 ロールのアカウントにアクセスする必要があります。このアカウントには、ssh、ontapi、httpの3つのアプリケーションが割り当てられています。
- アカウントの詳細には、ユーザ名とパスワードが含まれます。
- ポートの要件：443

設定

フィールド	説明
ネットアップ管理 IP	ネットアップクラスタの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	ネットアップクラスタのユーザ名
パスワード	ネットアップクラスタのパスワード

Advanced Metricsの2つのパラメータ

このデータコレクタは、NetApp ONTAP ストレージのFSXから次の高度な指標を収集します。

- FPolicy の
- NFSv3
- NFSv3：ノード
- NFSv4
- NFSv4_1
- nfsv4_1：ノード
- NFSv4：ノード
- policy_groupを開きます
- qtree
- ボリューム
- Workload _volume

FSx CLIコマンドとAPIコマンドは、Cloud Insights ZAPIで収集されない一部の容量値を取得するため、Cloud Insightsでは特定の容量値（ストレージプールの値など）がFSx自体の容量値と異なる場合があることに注意してください。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
401 HTTP 応答または 13003 ZAPI エラーコードを受信し、ZAPI から「Insufficient privileges」または「Not authorized for this command」が返される	ユーザ名とパスワード、およびユーザの権限と権限を確認してください。
ZAPI から「cluster role is not cluster_mgmt LIF」が返される	AU はクラスタ管理 IP と通信する必要があります。IP を確認し、必要に応じて別の IP に変更してください
ZAPI コマンドの再試行後に失敗する	AU でクラスタとの通信に問題があります。ネットワーク、ポート番号、および IP アドレスを確認してください。また、AU マシンのコマンドラインからもコマンドを実行しようとしています。
AU が HTTP 経由で ZAPI に接続できませんでした	ZAPI ポートでプレーンテキストが受け入れるかどうかを確認します。AU が SSL ソケットにプレーンテキストを送信しようとする、通信に失敗します。
SSLException で通信が失敗します	AU が Filer 上のプレーンテキストポートに SSL を送信しようとしています。ZAPI ポートで SSL を受け入れるか、別のポートを使用するかを確認します。
追加の接続エラー： ZAPI 応答のエラーコード 13001：「database is not open」 ZAPI エラーコードが 60 で、応答に「API did not finish on time」が含まれている ZAPI の応答に「initialize_session () returned NULL environment」が含まれる ZAPI エラーコードが 14007 で、応答に「Node is not healthy」が含まれている	ネットワーク、ポート番号、および IP アドレスを確認してください。また、AU マシンのコマンドラインからもコマンドを実行しようとしています。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Azure コンピューティングデータコレクタの設定

Cloud Insights は、Azure コンピューティングデータコレクタを使用して、Azure コンピューティングインスタンスからインベントリとパフォーマンスのデータを取得します。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- ポート要件： 443 HTTPS
- Azure OAuth 2.0 リダイレクト URI （ login.microsoftonline.com ）
- Azure Management Rest IP （ management.azure.com ）
- Azure Resource Manager IP （ management.core.windows.net ）
- Azure サービスプリンシパルアプリケーション（クライアント） ID （リーダーのロールが必要）
- Azure サービスプリンシパルの認証キー（ユーザパスワード）
- Cloud Insights 検出用の Azure アカウントを設定する必要があります。

アカウントを適切に設定し、アプリケーションを Azure に登録すると、Cloud Insights で Azure インスタンスを検出するために必要なクレデンシャルが付与されます。次のリンクでは、検出用のアカウントを設定する方法について説明します。

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory/develop/howto-create-service-principal-portal>

設定

次の表に従って、データコレクタフィールドにデータを入力します。

フィールド	説明
Azure サービスプリンシパルアプリケーション（クライアント） ID （リーダーのロールが必要）	Azure へのサインイン IDリーダーの役割アクセスが必要です。
Azure テナント ID	Microsoft テナント ID
Azure サービスプリンシパルの認証キー	ログイン認証キー
Microsoft が API リクエストを請求することを理解しています	これをチェックして、Insight のポーリングで作成された API 要求を Microsoft から課金することを理解していることを確認します。

詳細設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは60です
「除外」または「含める」を選択して、タグによる VM のフィルタリングに適用します	データの収集時にタグを使用して VM を含めるか除外するかを指定します。「含める」が選択されている場合、タグキーフィールドを空にすることはできません。
VM をフィルタするタグキーと値	+ タグのフィルタ * をクリックして、VM のキーとタグの値に一致するキーと値をフィルタリングして、対象に含める / 除外する VM （および関連ディスク）を選択します。タグキーは必須です。タグ値はオプションです。タグ値が空の場合、タグキーと一致する限り、VM はフィルタリングされます。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは300です

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Broadcom

Brocade Network Advisor データコレクタ

Cloud Insights では、Brocade Network Advisor データコレクタを使用して、Brocade スイッチからインベントリとパフォーマンスのデータを取得します。

用語集

Cloud Insights では、Brocade Network Advisor データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
スイッチ	スイッチ
ポート	ポート
仮想ファブリック、物理ファブリック	ファブリック
Logical Switch の略	Logical Switch の略

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次のものがが必要です。

- Cloud Insights Acquisition Unit は、BNA サーバの TCP ポート 443 への接続を初期化します。BNA サーバはバージョン 14.2.1 以降を実行している必要があります。
- Brocade Network Advisor サーバの IP アドレス
- 管理者アカウントのユーザ名とパスワード
- ポート要件： HTTP / HTTPS 443

設定

フィールド	説明
Brocade Network Advisor サーバ IP	Network Advisor サーバの IP アドレス
ユーザ名	スイッチのユーザ名
ユーザ名	管理者のユーザ名
パスワード	管理者パスワード

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	HTTPS（デフォルトポート 443）または HTTP（デフォルトポート 80）
接続ポートを上書きします	空白の場合は、[Connection Type] フィールドでデフォルトのポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
パスワード	スイッチのパスワード
インベントリのポーリング間隔（分）	デフォルトは40です
Report Access Gateway の略	Access Gateway モードにデバイスを含める場合にオンにします
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは 1800 です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
複数のノードが Access Gateway ポートにログインしているというメッセージを受信するか、データコレクタが Access Gateway デバイスを検出できません。	NPV デバイスが正しく動作していること、および接続されているすべての WWN が必要であることを確認します。NPV デバイスを直接取得しないでください。代わりに、コアファブリックスイッチを取得すると NPV デバイスデータが収集されます。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Brocade FC スイッチデータコレクタ

Cloud Insights では、Brocade FC Switch（SSH）データソースを使用して、Factored Operating System（FOS）ファームウェア 4.2 以降を実行している Brocade スイッチデバイス（ブランド名が変更されたスイッチデバイスも含む）のインベントリを検出します。FC スイッチとアクセスゲートウェイの両方のモードのデバイスがサポートされます。

用語集

Cloud Insights では、Brocade FC Switch データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
スイッチ	スイッチ

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ポート	ポート
仮想ファブリック、物理ファブリック	ファブリック
ゾーン	ゾーン
Logical Switch の略	Logical Switch の略
仮想ボリューム	ボリューム
LSANゾーン	IVR ゾーン

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- Cloud Insights Acquisition Unit （AU）は、Brocade スイッチの TCP ポート 22 への接続を開始してインベントリデータを収集します。AU は、パフォーマンスデータの収集用に UDP ポート 161 への接続も開始します。
- ファブリック内のすべてのスイッチへの IP 接続が必要です。[Discover all switches in the fabric] チェックボックスをオンにすると、Cloud Insights はファブリック内のすべてのスイッチを識別しますが、これらの追加のスイッチを検出するには、これらのスイッチへの IP 接続が必要です。
- ファブリック内のすべてのスイッチで、同じアカウントがグローバルに必要です。アクセスの確認には、PuTTY（オープンソースの端末エミュレータ）を使用できます。
- SNMP のパフォーマンスのポーリング用に、ファブリック内のすべてのスイッチでポート 161 および 162 を開いておく必要があります。
- SNMP 読み取り専用コミュニティストリング

設定

フィールド	説明
スイッチ IP	EFC サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	スイッチのユーザ名
パスワード	スイッチのパスワード
SNMP	SNMPバージョン
SNMP コミュニティストリング	スイッチへのアクセスに使用する SNMP の読み取り専用コミュニティストリング
SNMP ユーザ名	SNMP ユーザ名
SNMP パスワード	SNMP パスワード

高度な設定

フィールド	説明
ファブリック名	データコレクタによって報告されるファブリック名。ファブリック名を WWN としてレポートする場合は、空白のままにします。
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは15です。
除外されたデバイス	ポーリングの対象から除外するデバイスの ID をカンマで区切ったリスト
管理ドメインはアクティブです	管理ドメインを使用する場合に選択します
MPR データを取得する	マルチプロトコルルータからルーティングデータを取得する場合に選択します。
トラッピングを有効にします	デバイスからの SNMP トラップの受信時にデータ収集を有効にする場合に選択します。トラップを有効にするを選択した場合は、SNMP も有効にする必要があります。
トラップ間の最小時間（秒）	トラップでデータ収集を試行する最小間隔。デフォルトは10です。
ファブリック内のすべてのスイッチを検出します	ファブリック内のすべてのスイッチを検出する場合に選択します
HBA との優先を選択しますゾーンのエイリアス	HBA とゾーンエイリアスのどちらを優先するかを選択します
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300です。
SNMP 認証プロトコル	SNMP 認証プロトコル（SNMP v3 のみ）
SNMP プライバシーパスワード	SNMP プライバシーパスワード（SNMP v3 のみ）
SNMP 再試行回数	SNMP の再試行回数

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
<p>Brocadeデータソースのインベントリの取得が次のエラーで失敗します。</p> <p><date> <time>エラー[com.onaro.sansscreen.acquisition.framework.datasour ce.BaseDataSource]エラー2 / 2 : <datasource name>[内部エラー]-デバイス<IP>のモデルを生成できません。プロンプトの検出エラー（[Device name < name >] : デバイス <IP> のモデルを生成できません。エラー検出プロンプト）</p>	<p>問題は、デフォルトのタイムアウトである 5 秒を超えてプロンプトが表示されるまでに Brocade スイッチが時間がかかりすぎる場合に発生することがあります。</p> <p>Cloud Insightsのデータコレクタの詳細設定で、_SSH バナー待機タイムアウト（秒）_の値を大きくしてみてください。</p>

問題	次の操作を実行します
エラー：「Cloud Insights Received Invalid Chassis Role」	このデータソースで設定されているユーザにシャーシのロールの権限が付与されていることを確認します。
エラー：「シャーシの IP アドレスが一致しません」	シャーシの IP アドレスを使用するようにデータソース構成を変更します。
複数のノードが Access Gateway ポートにログインしているというメッセージを受信します	NPV デバイスが正しく動作していること、および接続されているすべての WWN が必要であることを確認します。NPV デバイスを直接取得しないでください。代わりに、コアファブリックスイッチを取得すると NPV デバイスデータが収集されます。
パフォーマンスの収集が失敗し、「Timed out during sending SNMP request」というメッセージが表示されます。	クエリー変数およびスイッチの設定によっては、一部のクエリーがデフォルトのタイムアウトを超える場合があります。 "詳細はこちら。"

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Brocade FOS RESTデータコレクタ

Cloud Insightsでは、Brocade FOS RESTコレクタを使用して、FabricOS（FOS）ファームウェア8.2以降を実行しているBrocadeスイッチデバイスのインベントリとパフォーマンスを検出します。

デフォルトでは、このコレクタは、スイッチが属するすべてのファブリックの一部であるすべてのFOSデバイスの検出を試みます。

用語集

Cloud Insightsでは、Brocade FOS RESTデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
スイッチ	スイッチ
ポート	ポート
仮想ファブリック、物理ファブリック	ファブリック
ゾーン	ゾーン
Logical Switch の略	Logical Switch の略
仮想ボリューム	ボリューム
LSANゾーン	IVR ゾーン

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- ファブリック内のすべてのスイッチへのTCP接続が確立されている必要があります。このデータコレクタタイプは、ファブリック内の各デバイスに対してHTTPとHTTPSの両方をシームレスに試行します。[Discover all switches in the fabric_]チェックボックスを選択すると、Cloud Insightsはファブリック内のすべてのスイッチを識別しますが、検出するにはこれらの追加スイッチへのTCP接続が必要です。
- ファブリック内のすべてのスイッチで、同じアカウントがグローバルに必要です。デバイスのWebインターフェイスを使用してアクセスを確認できます。

設定

フィールド	説明
スイッチ IP	FOSスイッチのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	スイッチのユーザ名
パスワード	スイッチのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
除外されたデバイス	ポーリングの対象から除外するデバイスのIPv4アドレスをカンマで区切ったリスト。
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60です。
ファブリック内のすべてのスイッチを検出します	ファブリック内のすべてのスイッチを検出する場合に選択します。
HBA との優先を選択しますゾーンのエイリアス	HBAとゾーンエイリアスのどちらを優先するかを選択します。
接続タイプ	HTTPまたはHTTPS。
この設定は、デバイスごとに最初に使用するプロトコルCIが変更されるだけであることを注意してください。デフォルトが失敗した場合、CIは自動的に反対のプロトコルを試行します。	TCP ポートを上書きします
デフォルトを使用しない場合は、ポートを指定します。	パフォーマンスポーリング間隔（秒）

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
テスト機能は、プロトコルにアクセスできないことを警告します。	特定のBrocade FOS 8.2以降のデバイスは、HTTPまたはHTTPSでのみ通信します。スイッチにデジタル証明書がインストールされている場合、暗号化されていないHTTPとHTTPSで通信しようすると、スイッチはHTTPエラーをスローします。テスト機能はHTTPとHTTPSの両方との通信を試行します。一方のプロトコルが成功したことをテストで確認した場合、もう一方のプロトコルが失敗したことを心配する必要はありません。コレクタは収集中に両方のプロトコルを試行し、どちらも機能しない場合にのみ失敗します。
エラー：「Cloud Insights Received Invalid Chassis Role」	このデータソースで設定されているユーザにシャーシのロールの権限が付与されていることを確認します。
エラー：「シャーシの IP アドレスが一致しません」	シャーシの IP アドレスを使用するようにデータソース構成を変更します。
複数のノードが Access Gateway ポートにログインしているというメッセージを受信します	NPV デバイスが正しく動作していること、および接続されているすべての WWN が必要であることを確認します。NPV デバイスを直接取得しないでください。代わりに、コアファブリックスイッチを取得すると NPV デバイスデータが収集されます。
パフォーマンスの収集が失敗し、「Timed out during sending SNMP request」というメッセージが表示されます。	クエリー変数およびスイッチの設定によっては、一部のクエリーがデフォルトのタイムアウトを超える場合があります。 "詳細はこちら。"

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Cisco MDS ファブリックスイッチデータコレクタ

Cloud Insights では、Cisco MDS ファブリックスイッチデータコレクタを使用して、Cisco MDS ファブリックスイッチのインベントリ、および FC サービスが有効になっている各種の Cisco Nexus FCoE スイッチを検出します。

また、このデータコレクタを使用して、NPV モードで実行されている多くのモデルの Cisco デバイスを検出できます。

用語集

Cloud Insights では、Cisco FC Switch データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
スイッチ	スイッチ
ポート	ポート
VSAN (仮想 SAN)	ファブリック

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ゾーン	ゾーン
Logical Switch の略	Logical Switch の略
ネームサーバエントリ	ネームサーバエントリ
Inter-VSAN Routing （IVR）ゾーン	IVR ゾーン

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- ・ ファブリック内の 1 つのスイッチまたは個々のスイッチの IP アドレス
- ・ シャーシ検出。ファブリック検出をイネーブルにします
- ・ SNMP V2 を使用している場合は、読み取り専用コミュニティストリングが必要です
- ・ ポート 161 はデバイスへのアクセスに使用されます

設定

フィールド	説明
Cisco スイッチ IP	スイッチの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
SNMPバージョン	V1、V2、または V3 を選択します。パフォーマンスの収集には v2 以降が必要です。
SNMP コミュニティストリング	スイッチへのアクセスに使用する SNMP の読み取り専用コミュニティストリング（SNMP v3 は対象外）
ユーザ名	スイッチのユーザ名（SNMP v3 のみ）
パスワード	スイッチのパスワード（SNMPv3 のみ）

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔（デフォルトは 40 分）
SNMP 認証プロトコル	SNMP 認証プロトコル（SNMPv3 のみ）
SNMP プライバシープロトコル	SNMP プライバシープロトコル（SNMPv3 のみ）
SNMP プライバシーパスワード	SNMP プライバシーパスワード
SNMP 再試行回数	SNMP の再試行回数
SNMP タイムアウト（ミリ秒）	SNMP タイムアウト（デフォルトは 5、000 ミリ秒）
トラッピングを有効にします	トラップを有効にする場合に選択します。トラッピングを有効にする場合は、SNMP 通知も有効にする必要があります。

フィールド	説明
トラップ間の最小時間（秒）	トラップでデータ収集を試行する最小間隔（デフォルトは 10 秒）
すべてのファブリックスイッチを検出します	ファブリック内のすべてのスイッチを検出する場合に選択します
除外されたデバイス	ポーリングの対象から除外するデバイスの IP をカンマで区切ったリスト
含まれるデバイス	ポーリングの対象に含めるデバイスの IP をカンマで区切ったリスト
デバイスタイプを確認します	Cisco デバイスとして明示的にアドバタイズされたデバイスのみを受け入れる場合に選択します
First Alias Type （最初のエイリアスタイプ）	<p>エイリアスの解決で最初に優先する情報を指定します。次のいずれかを選択します。</p> <p>デバイス Alais *</p> <p>これは、ポート WWN（pWWN）のフレンドリ名であり、必要に応じてすべてのコンフィギュレーションコマンドで使用できます。Cisco MDS 9000 ファミリのすべてのスイッチは、Distributed Device Alias Services（デバイスエイリアス）をサポートしています。</p> <p>* なし *</p> <p>エイリアスは報告しないでください。</p> <p>*ポート概要 *</p> <p>ポートのリストでポートを識別するための概要。</p> <p>*ゾーンエイリアス（すべて）</p> <p>アクティブな構成でのみ使用できるポートのフレンドリ名。これがデフォルトです。</p>
2 番目のエイリアスタイプ	エイリアスの解決で 2 番目に優先する情報を指定します
3 番目のエイリアスタイプ	エイリアスの解決で 3 番目に優先する情報を指定します
SANTap プロキシモードサポートをイネーブルにします	Cisco スイッチで SANTap のプロキシモードを使用している場合に選択。EMC RecoverPoint を使用している場合は、SANTap を使用していると考えられます。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔（デフォルトは300秒）

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
エラー：シャージを検出できませんでした - スイッチが検出されていません	<ul style="list-style-type: none"> •IPを設定してデバイスにpingを実行します •Cisco Device Manager GUIを使用してデバイスにログインします •CLIを使用してデバイスにログインします •SNMP Walkを実行してみます
エラー：デバイスが Cisco MDS スイッチではありません	<ul style="list-style-type: none"> •デバイスに設定されているデータソースIPが正しいことを確認します •Cisco Device Manager GUIを使用してデバイスにログインします •CLIを使用してデバイスにログインします
エラー：Cloud Insights はスイッチの WWN を取得できません。	このスイッチは FC スイッチまたは FCoE スイッチではない可能性があります、サポートされていない場合もあります。データソースに設定された IP / FQDN が、本当に FC / FCoE スイッチであることを確認してください。
エラー：複数のノードが NPV スイッチポートにログインしています	NPV スイッチの直接取得をディセーブルにします
エラー：スイッチに接続できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> •デバイスが起動していることを確認します •IPアドレスとリスニングポートを確認します •デバイスにpingを実行します •Cisco Device Manager GUIを使用してデバイスにログインします •CLIを使用してデバイスにログインします •SNMP Walkを実行します

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
エラー：Performance acquisition not supported by SNMP v1	<ul style="list-style-type: none"> •データソースを編集し、スイッチパフォーマンスを無効にします •SNMP v2以上を使用するように、データソースとスイッチの設定を変更します

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Cohesity SmartFilesデータコレクタ

このREST APIベースのコヒリティ・クラスターを取得し、「ビュー」（Cloud Insights 内部ボリュームとして）、さまざまなノードを検出し、パフォーマンスメトリックを収集します。

設定

フィールド	説明
Cohesity Cluster IPの略	CohesityクラスタのIPアドレス
ユーザ名	Cohesityクラスタのユーザ名
パスワード	Cohesityクラスタに使用するパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCPポート	CohesityクラスタとのTCP通信に使用するポート
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスポーリング間隔（分）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは900秒です。

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

デル

Dell EMC XC シリーズデータコレクタ

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して、Dell EMC XC シリーズストレージレイのインベントリおよびパフォーマンス情報を検出します。

設定

フィールド	説明
プリズム外部 IP アドレス	XCサーバのIPアドレス
ユーザ名	XC サーバーのユーザー名
パスワード	XC サーバのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCPポート	XC サーバーとの TCP 通信に使用されるポート
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスポーリング間隔（分）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC

Dell EMC Data Domain データコレクタ

このデータコレクタは、Dell EMC Data Domain 重複排除ストレージシステムからインベントリとパフォーマンスの情報を収集します。このデータコレクタを設定するには、特定の設定手順と使用に関する推奨事項に従う必要があります。

用語集

Cloud Insights では、Data Domain データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
配列	ストレージ
FC ポート	ポート
File System の略	内部ボリューム
クォータ	クォータ
NFS 共有および CIFS 共有	ファイル共有

注意：これらは一般的な用語のマッピングのみであり、このデータ照合のすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- Data Domain デバイスの IP アドレス
- Data Domain ストレージに対する読み取り専用のユーザ名とパスワード
- SSHポート22

設定

フィールド	説明
IP アドレス	Data Domain ストレージアレイの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	Data Domain ストレージアレイのユーザ名
パスワード	Data Domain ストレージアレイのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20です。
SSHポート	SSH サービスポート

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

EMC ECS データコレクタの設定

このデータコレクタは、EMC ECS ストレージシステムからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。データコレクタを設定するには、ECSクラスタのIPアドレスまたはホスト名、およびユーザ名とパスワードが必要です。



Dell EMC ECSでは、raw TBから管理ユニットへの異なるレートが使用されます。未フォーマットのECS容量の40 TBごとに、1として課金されます ["管理ユニット \(MU\)"](#)。

用語集

Cloud Insights は、ECS データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
クラスタ	ストレージ
テナント	ストレージプール
バケット	内部ボリューム
ディスク	ディスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- ECSクラスタのIPアドレスまたはホスト名
- ECSシステムのユーザ名とパスワード
- ポート4443（HTTPS）。ECSシステムのTCPポート4443へのアウトバウンド接続が必要です。

設定

フィールド	説明
ECSホスト	ECS システムの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ECS ホストポート	ECS ホストとの通信に使用されるポート
ECSユーザーID	ECSのユーザID
パスワード	ECS のパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは360分です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー：ユーザ認証に失敗しました。	このデバイスのクレデンシャルが正しいことを確認してください。

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
エラー：十分なデータが収集されていません。	<ul style="list-style-type: none"> ログファイルの収集タイムスタンプを確認し、それに応じてポーリング間隔を変更します 長時間待ちます
エラー：パフォーマンスのポーリング間隔が長すぎます。	ログファイル \$ { logfile } の収集タイムスタンプを確認し、それに応じてポーリング間隔を変更してください

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC PowerScale データコレクタ

Cloud Insights は、Dell EMC PowerScale（以前の Isilon）SSH データコレクタを使用して、PowerScale スケールアウト NAS ストレージからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ドライブ	ディスク
クラスタ	ストレージ
ノード	ストレージノード
File System の略	内部ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- PowerScale ストレージへの管理者権限
- PowerScale クラスタの IP アドレス
- ポート 22 への SSH アクセス

設定

フィールド	説明
IP アドレス	PowerScale クラスタの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	PowerScale クラスタのユーザ名
パスワード	PowerScale クラスタのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20です。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300です。
SSHポート	SSH サービスポートデフォルトは22です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
「Invalid login credentials」というエラーメッセージが表示されます。「Commands not enabled for role-based administration require root user access」	*ユーザーがデバイス上で次のコマンドを実行する権限を持っていることを確認します。 > isiバージョンosrelease > isi status -q > isi status -n > isiデバイス-d %s > isiライセンス *ウィザードで使用されている認証情報がデバイスの認証情報と一致することを確認します
「Command <Your Command> run failed with permission : <your current permissive>」というエラーメッセージが表示されて「Internal Error」が表示されます。sudo コマンド run permission 問題」	ユーザにデバイスで次のコマンドを実行するためのsudo 権限があることを確認します

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC Isilon / PowerScale RESTデータコレクタ

Cloud Insights は、Dell EMC Isilon / PowerScale RESTデータコレクタを使用して、Dell EMC IsilonまたはPowerScaleストレージからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。このコレクタは、OneFS 8.0.0以降を実行しているアレイをサポートします。

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ドライブ	ディスク
クラスタ	ストレージ
ノード	ストレージノード
OneFSファイルシステム	内部ボリューム
OneFSファイルシステム	ストレージプール
qtree	qtree

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- ユーザアカウントとパスワード。このアカウントは、adminまたはrootである必要はありませんが、サー

ビスアカウントに相当数の読み取り専用権限を付与する必要があります。以下の表を参照してください

- Dell EMC Isilon / PowerScale クラスターのIPアドレス/完全修飾ドメイン名
- ポート8080へのHTTPSアクセス
- OneFS 8.0.0以降を実行しているIsilon/PowerScaleクラスター

権限名	説明	R（読み取り）またはRW（読み取りと書き込み）
ISI_PRIV_LOGI_PAPI	プラットフォームAPI	R
ISI_PRIV_SYS_TIME	時間	R
ISI_PRIV_AUTH	認証	R
ISI_PRIV_ROLE	権限	R
ISI_PRIV_devicesのことです	デバイス	R
ISI_PRIV_EVENT	イベント	R
ISI_PRIV_HDFS	HDFS	R
ISI_PRIV_NDMP	NDMP	R
ISI_PRIV_NETWORK	ネットワーク	R
ISI_PRIV_NFS	NFS	R
ISI_PRIV_PAPI_CONFIG	プラットフォームAPIを設定します	R
ISI_PRIV_quota（ISI_PRIV_quota）	クォータ	R
ISI_PRIV_SmartPools	SmartPools	R
ISI_PRIV_SMB	SMB	R
ISI_PRIV_STATISTICS	統計情報	R
ISI_PRIV_SWIFT	Swift	R
ISI_PRIV_JOB_ENGINE	ジョブエンジン	R

設定

フィールド	説明
IsilonのIPアドレス	IsilonストレージのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	Isilonのユーザ名
パスワード	Isilonのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
HTTPSポート	デフォルトは8080です。

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20です。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
「Invalid login credentials」というエラーメッセージが表示されます。「Commands not enabled for role-based administration require root user access」	<p>*ユーザーがデバイス上で次のコマンドを実行する権限を持っていることを確認します。</p> <pre>> isiバージョン osrelease > isi status -q > isi status -n > isi デバイス -d %s > isi ライセンス</pre> <p>*ウィザードで使用されている認証情報がデバイスの認証情報と一致することを確認します</p>
「Command <Your Command> run failed with permission : <your current permissive>」というエラーメッセージが表示されて「Internal Error」が表示されます。sudo コマンド run permission 問題」	ユーザにデバイスで次のコマンドを実行するための sudo 権限があることを確認します

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC PowerStore データコレクタ

EMC PowerStore データ・コレクタは 'EMC PowerStore ストレージからインベントリ情報を収集しますデータコレクタを設定するには、ストレージプロセッサの IP アドレス、および読み取り専用のユーザ名とパスワードが必要です。

EMC PowerStore データ・コレクタは 'PowerStore が他のストレージ・アレイ間で調整するボリューム間レプリケーション関係を収集しますCloud Insights は各 PowerStore クラスタのストレージアレイを表示し、そのクラスタ上のノードとストレージポートのインベントリデータを収集します。ストレージプールまたはボリュームのデータは収集されません。

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ホスト	ホスト

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
host_volume_mapping	host_volume_mapping
ハードウェア（「extra_details」オブジェクトにドライブが含まれています）：ドライブ	ディスク
アプライアンス	ストレージプール
クラスタ	ストレージアレイ
ノード	ストレージノード
FC ポート	ポート
ボリューム	ボリューム
内部ボリューム	ファイルシステム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- ストレージプロセッサの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード

設定

フィールド	説明
PowerStore ゲートウェイ	PowerStore ストレージの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	PowerStore のユーザー名
パスワード	PowerStore のパスワード

高度な設定

フィールド	説明
HTTPSポート	デフォルトは443です
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。

Cloud Insight の PowerStore パフォーマンスコレクションは、PowerStore の 5 分間のきめ細かいソースデータを利用しています。そのため、Cloud Insights は 5 分ごとにそのデータをポーリングし、設定はできません。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC RecoverPoint データコレクタ

EMC RecoverPoint データコレクタの主な用途は、RecoverPoint ストレージアプライアンスによって促進されるボリューム間レプリケーション関係を検出することです。このコレクタは、RecoverPoint アプライアンス自体も検出します。Dell/EMC では、VM 用の VMware バックアップ解決策「RecoverPoint for VMS」を販売していますが、このコレクタではサポートされていません

データコレクタを設定するには、ストレージプロセッサの IP アドレス、および読み取り専用のユーザ名とパスワードが必要です。

EMC RecoverPoint データコレクタは、RecoverPoint が他のストレージレイ間で調整するボリューム間レプリケーション関係を収集します。Cloud Insights は各 RecoverPoint クラスタのストレージレイを表示し、そのクラスタ上のノードとストレージポートのインベントリデータを収集します。ストレージプールまたはボリュームのデータは収集されません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- ストレージプロセッサの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード
- ポート 443 経由での REST API へのアクセス

設定

フィールド	説明
RecoverPoint のアドレス	RecoverPoint クラスタの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	RecoverPoint クラスタのユーザ名
パスワード	RecoverPoint クラスタのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCPポート	RecoverPoint クラスタへの接続に使用する TCP ポート
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20分です。
除外クラスタ	ポーリング時に対象から除外するクラスタの ID または名前をカンマで区切ったリスト。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC ScaleIO/PowerFlexデータコレクタ

ScaleIO/PowerFlexデータコレクタは、ScaleIOおよびPowerFlexストレージからインベントリ情報を収集します。このデータコレクタを設定するには、ScaleIO/PowerFlexゲートウェイアドレス、および管理者ユーザー名とパスワードが必要です。

用語集

Cloud Insightsは、ScaleIO/PowerFlexデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
MDM （ Meta Data Manager ） クラス	ストレージ
SDS （ScaleIO/PowerFlexデータサーバー）	ストレージノード
ストレージプール	ストレージプール
ボリューム	ボリューム
デバイス	ディスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- Admin ユーザアカウントへの読み取り専用アクセス
- ポート要件： HTTPS ポート 443

設定

フィールド	説明
ScaleIO/PowerFlexゲートウェイ	ScaleIO/PowerFlexゲートウェイのIPアドレスまたはFQDN（カンマ（,）またはセミコロン（;）で区切ったもの
ユーザ名	ScaleIO/PowerFlexデバイスへのログインに使用する管理者ユーザー名
パスワード	ScaleIO/PowerFlexデバイスへのログインに使用するパスワード

高度な設定

Inventory チェックボックスをクリックして、インベントリ収集を有効にします。

フィールド	説明
HTTPSポート	443年
インベントリのポーリング間隔（分）	デフォルトは60です。

フィールド	説明
接続タイムアウト（秒）	デフォルトは60です。

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

EMC Unity データコレクタの設定

Dell EMC Unity（旧 VNXe）データコレクタは、VNXe ユニファイドストレージアレイのインベントリサポートを提供します。Cloud Insights は現在、iSCSI プロトコルと NAS プロトコルをサポートしています。

要件

- Unity データコレクタは CLI ベースです。VNXe データコレクタが存在する Acquisition Unit に Unisphere for Unity CLI（uemcli.exe）をインストールする必要があります。
- uemcli.exe は HTTPS を転送プロトコルとして使用するため、Acquisition Unit から Unity への HTTPS 接続を開始できる必要があります。
- Unity デバイスの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
- データコレクタで使用するためには、読み取り専用ユーザが少なくとも 1 人必要です。
- ポート 443 での HTTPS が必要です
- EMC Unity データコレクタは、NAS および iSCSI でインベントリをサポートしています。ファイバチャネルボリュームは検出されますが、Cloud Insights では FC マッピング、マスキング、ストレージポートに関するレポートは作成されません。

用語集

Cloud Insights は、Unity データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ストレージアレイ	ストレージ
プロセッサ	ストレージノード
ストレージプール	ストレージプール
全般的なiSCSIブロック情報、VMware VMFS	共有
Replication Remote System の略	同期
iSCSI ノード	iSCSI ターゲットノード
iSCSI イニシエータ	iSCSI ターゲットイニシエータ

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータソースのすべてのケースを表している

とは限りません。

設定

フィールド	説明
Unity ストレージ	Unity デバイスの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	Unity デバイスのユーザ名
パスワード	Unity デバイスのパスワード
実行可能 UEMCLI への完全パス	_uemcli.exe_executable を含むフォルダへの完全パス

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です
Unity CLI ポート	Unity CLI に使用するポート
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）	デフォルトは300です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
「Failed to execute external utility」というエラーメッセージが表示され、「Failed to find Unisphere executable uemcli」	<ul style="list-style-type: none">* IPアドレス、ユーザ名、パスワードが正しいことを確認します* Unisphere CLIがCloud Insights Acquisition Unitにインストールされていることを確認します* データソース構成でUnisphere CLIのインストールディレクトリが正しいことを確認します* VNXeのIPがデータソースの構成で正しいことを確認します。Cloud Insights Acquisition Unit から CMD を開き、設定したインストールディレクトリに移動します。\$ {INSTALLDIR.次のように入力して、VNXe デバイスとの接続を試みます。 uemcli -d <your ip>-u <your ID>/sys/general show

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC VMAX および PowerMax ファミリのデバイスデータコレクタ

Cloud Insights は、Solutions Enabler symcli コマンドを使用して、環境内の既存の Solutions Enabler サーバと連携して EMC VMAX および PowerMax ストレージアレイを検出します。既存の Solutions Enabler サーバは、ゲートキーパーボリュームへのアクセ

スを通じて VMAX/PowerMax ストレージアレイに接続できます。

要件

このデータコレクタを設定 Cloud Insights する前に、既存の Solutions Enabler サーバのポート 2707 への TCP 接続が確立されていることを確認してください。Cloud Insights は 'サーバからの symcfg list の出力で示されているように ' このサーバに対してローカルなすべての Symmetrix アレイを検出します

- EMC Solutions Enabler (CLI) と SMI-S プロバイダアプリケーションが Acquisition Unit サーバにインストールされている必要があります。 Solutions Enabler サーバで実行されているバージョンと同じかそれよりも前のバージョンが必要です。
- 適切に設定された {installdir}\EMC\SYMAPI\config\netcnfg ファイルが必要です。このファイルでは、Solutions Enabler サーバのサービス名とアクセス方法 (SECURE / NOSECURE / ANY) を定義します。
- ストレージノードレベルで読み取り / 書き込みレイテンシが必要な場合、SMI-S プロバイダは Unisphere for VMAX アプリケーションの実行中のインスタンスと通信する必要があります。
- 管理用 Solutions Enabler サーバの IP アドレス
- Solutions Enabler (SE) サーバに対する管理者権限が必要です
- SE ソフトウェアに対する読み取り専用のユーザ名とパスワード
- UNISPHERE for VMAX アプリケーションを実行して、SMI-S プロバイダのインストールで管理される EMC VMAX および PowerMax ストレージアレイの統計を収集する必要があります
- パフォーマンスのためのアクセスの検証: Acquisition UnitのWebブラウザで、_ \ https : //<SMI-S Hostname or IP> : 5989/ecomconfig_ に移動します。「SMI-S Hostname or IP」は、SMI-SサーバのIPアドレスまたはホスト名です。このURLは'EMC SMI-S (ECOM) サービスの管理ポータル用であり'ログイン・ポップアップが表示されます
- 権限はSolutions Enablerサーバのデーモン構成ファイルで宣言する必要があります。通常は次の場所にあります。/var/symapi/config/demon_users

次に、適切なciscysアクセス権を持つサンプルファイルを示します。

```
root@cernciaukc101:/root
14:11:25 # tail /var/symapi/config/daemon_users
###
###      Refer to the storrdfd(3) man page for additional details.
###
###      As noted above, only authorized users can perform stord daemon
control
###      operations (e.g., shutdown).
#####
#####
# smith          storrdfd
ciscys storapid <all>
```

用語集

Cloud Insights では、EMC VMAX/PowerMax データソースから次のインベントリ情報を取得します。取得し

たアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ディスクグループ	ディスクグループ
ストレージ	アレイストレージ
ディレクター	ストレージノード
デバイスプール、 Storage Resource Pool （ SRP ； ストレージリソースプール）	ストレージプール
デバイス TDev	ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

設定

- ・注： * SMI-S ユーザー認証が有効になっていない場合、 Cloud Insights データコレクタのデフォルト値は無視されます。

フィールド	説明
サービス名	_netcnfG_file で指定されたサービス名
CLI の完全パス	Symmetrix CLI を含むフォルダへのフル・パス
SMI-S ホストの IP アドレス	SMI-S ホストの IP アドレス

詳細設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です。
「除外」または「含める」を選択してリストを指定します	下のリストに表示されたアレイをデータの収集時に対象に含めるか除外するかを指定します。
インベントリフィルタデバイスリスト	対象に含めるか除外するデバイスの ID をカンマで区切ったリスト

フィールド	説明
接続のキャッシュ	<p>接続のキャッシュ方法を選択：</p> <p>*LOCALとは、Cloud Insights取得サービスがSolutions Enablerサーバ上で実行されていることを意味します。サーバは検出対象のSymmetrixアレイにファイバチャネルで接続されており、ゲートキーパーボリュームにアクセスできることを意味します。このオプションは、一部の Remote Acquisition Unit （RAU）構成で使用されます。</p> <p>* REMOTE_CACHED はデフォルトの設定であり、ほとんどの状況でこのオプションを使用します。このオプションでは、NETCNFG ファイルの設定に基づいて、IP を使用して Solutions Enabler サーバに接続します。サーバは検出対象の Symmetrix アレイにファイバチャネルで接続されていて、ゲートキーパーボリュームにアクセスできる必要があります。</p> <p>* REMOTE_CACHED オプションで CLI コマンドが失敗する場合は、REMOTE オプションを使用します。データ収集プロセスが遅くなることに注意してください（数時間から場合によっては数日かかることがあります）。検出対象の Symmetrix アレイにファイバチャネルで接続された Solutions Enabler サーバへの IP 接続には、引き続き NETCNFG ファイルの設定が使用されます。</p> <p>* 注：この設定は 'symcfg list' の出力で REMOTE と表示されたアレイに対する Cloud Insights の動作を変更しませんCloud Insights は、このコマンドで LOCAL と表示されたデバイスのデータのみを収集します。</p>
SMI-S プロトコル	SMI-S プロバイダへの接続に使用するプロトコル。使用されているデフォルトのポートも表示されます。
SMIS-Port をオーバーライドします	空白の場合は、[Connection Type] フィールドでデフォルトのポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
SMI-S ユーザー名	SMI-S プロバイダホストのユーザ名
SMI-S のパスワード	SMI-S プロバイダホストのユーザ名
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔（デフォルトは 1000 秒）
リストを指定するには、「除外」または「含める」を選択します	下のリストに表示されたアレイをパフォーマンスデータの収集時に対象に含めるか除外するかを指定します
パフォーマンスフィルタのデバイスリスト	対象に含めるか除外するデバイスの ID をカンマで区切ったリスト

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
エラー：要求されている機能のライセンスがありません	SYMAPI サーバ・ライセンスをインストールします
エラー：デバイスが見つかりませんでした	SymmetrixデバイスがSolutions Enablerサーバによって管理されるように構成されていることを確認します - symcfg list -vを実行して'構成されているSymmetrix デバイスのリストを表示します
エラー：要求されたネットワークサービスがサービスファイルで見つかりませんでした	Solutions Enabler サービス名が Solutions Enabler 用の netcnfg ファイルとして定義されていることを確認します。このファイルは通常 'Solutions Enabler クライアントのインストールの SYMAPI\config\ にあります
エラー：リモートクライアント / サーバハンドシェイクに失敗しました	検出しようとしている Solutions Enabler ホストの最新の storsrvd.log * ファイルを確認します
エラー：クライアント証明書の共通名が無効です	Solutions Enabler サーバの _hosts_file を編集して、Acquisition Unit のホスト名が Solutions Enabler サーバの storsrvd.log で報告された IP アドレスに解決されるようにします。
エラー：機能がメモリを取得できませんでした	Solutions Enabler を実行するための十分な空きメモリがシステムにあることを確認してください
エラー： Solutions Enabler は必要なすべてのデータを提供できませんでした。	Solutions Enabler の正常性ステータスとロードプロファイルを調査します
エラー： •Solutions Enablerサーバ8.xからSolutions Enabler 7.xを使用して収集した場合、CLIコマンドsymcfg list -tdevが誤ったデータを返すことがあります •Solutions Enabler 8.1.0以前でSolutions Enabler 8.3以降からSolutions Enabler 8.1.0以前を使用して収集した場合、CLIコマンド「symcfg list-srp」から誤ったデータが返されることがあります。	Solutions Enabler のメジャーリリースが同じであることを確認してください

問題	次の操作を実行します
「unknown code」というメッセージが表示され、データ収集エラーが発生しました。	<p>Solutions Enablerサーバのデーモン構成ファイルで権限が宣言されていない場合は、このメッセージが表示されることがあります（を参照） 要件 上記を参照）。これは、SEクライアントのバージョンがSEサーバのバージョンと一致していることを前提としています。</p> <p>このエラーは'Solutions Enablerコマンドを実行する_cisys_userが/var/symapi/config/demon_users構成ファイルに必要なデーモン権限で構成されていない場合にも発生することがあります</p> <p>これを修正するには、/var/symapi/config/demonファイルを編集し、cisysユーザにstorapidデーモンに対して指定された<all> 権限があることを確認します。</p> <p>例</p> <pre>14:11:25 #tail /var/symapi/config/demonユーザ な...何だ? cisys storapid <all>の略</pre>

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC VNX Block Storage （NaviCLI）データコレクタ

Cloud Insights では、Dell EMC VNX Block Storage （NaviSec）データコレクタ（旧称 CLARiiON）を使用してインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。

用語集

Cloud Insights は、EMC VNX Block Storage データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ストレージ	ストレージ
ストレージプロセッサ	ストレージノード
このプール 'RAID グループ	ストレージプール
LUN	ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータソースのすべてのケースを表しているとは限りません。

要件

データを収集するには、次の要件を満たしている必要があります。

- 各 VNX ブロックストレージプロセッサの IP アドレス
- VNX ブロックストレージアレイに対する読み取り専用の Navisphere ユーザー名とパスワード
- navisecli は Cloud Insights AU にインストールする必要があります
- アクセスの検証：ユーザ名とパスワードを使用して、Cloud Insights AU から各アレイに navisecli を実行します。
- ポート要件： 80 、 443
- navisecli のバージョンは ' アレイ上の最新の FLARE コードに対応している必要があります
- パフォーマンスを収集するには、統計のログを有効にする必要があります。

Navisphere コマンドラインインタフェースの構文

NaviSECCLI.exe -h <IP address>-user <user>-password <password>-scope.
<scope,use 0 for global scope>- port <use 443 by default>コマンド

設定

フィールド	説明
VNX Block Storage の IP アドレス	VNX ブロックストレージの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	VNX ブロックストレージデバイスへのログインに使用する名前。
パスワード	VNX ブロックストレージデバイスへのログインに使用するパスワード。
CLI から navisecli.exe へのパス	_navisecli.exe_executable を含むフォルダへの完全パス

詳細設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です。
適用範囲	セキュアなクライアントの範囲デフォルトは Global です。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
<p>エラー：</p> <ul style="list-style-type: none"> • エージェントが実行されていません • naviseccliが見つかりませんでした • コマンドの実行に失敗しました 	<ul style="list-style-type: none"> • Navisphere CLIがCloud Insight Acquisition Unitにインストールされていることを確認します • データコレクタ設定ウィザードで[セキュアクライアントを使用する]オプションを選択しておらず、セキュアでないバージョンのNavisphere CLIがインストールされていない。 • データコレクタ構成で、Navisphere CLIのインストールディレクトリが正しいことを確認します • データコレクタ構成でVNXブロックストレージのIPが正しいことを確認します。 • Cloud Insights Acquisition Unitから： <ul style="list-style-type: none"> - CMDを開きます。 - ディレクトリを設定済みのインストールディレクトリに変更します - 「navicli -h {ip} getagent」と入力して、VNXブロックストレージデバイスとの接続を試行します（{ip}を実際のIPに置き換えます）。
<p>エラー： 4.29 emc235848 emc241018 getAll Failed to parse host alias info</p>	<p>これは 'アレイ自体のホスト・イニシエータ・データベースの問題が FLARE 29 によって破損したことが原因で発生する可能性がありますEMC ナレッジベースの記事 emc235848、 emc241018 を参照してください。チェックすることもできます</p> <p>https://now.netapp.com/Knowledgebase/solutionarea.asp?id=kb58128</p>
<p>エラー：メタデータ LUN を取得できません。java -jar navicli.jar の実行中にエラーが発生しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> • セキュアクライアントを使用するようにデータコレクタの設定を変更する（推奨） • navicli.exeまたはnaviseccli.exeへのCLIパスにnavicli.jarをインストールします • 注：navicli.jarはEMC Navisphereバージョン6.26で廃止されました • navicli.jarは入手できる場合があります http://powerlink.emc.com
<p>エラー：ストレージプールから、設定された IP アドレスのサービスプロセッサのディスクが報告されません</p>	<p>サービスプロセッサの両方の IP をカンマで区切ってデータコレクタを設定します</p>

問題	次の操作を実行します
エラー：リビジョン不一致エラー	<ul style="list-style-type: none"> •これは通常、VNXブロックストレージデバイス上のファームウェアの更新が原因で発生しますが、NaviCLI.exeのインストールは更新されません。ファームウェアが異なる複数のデバイスがあっても、インストールされている CLI が 1 つだけ（ファームウェアバージョンが異なる）の場合にも、この問題が発生する可能性があります。 •デバイスとホストの両方で同じバージョンのソフトウェアが実行されていることを確認します。 - Cloud Insights Acquisition Unitで、コマンドラインウィンドウを開きます -ディレクトリを設定済みのインストールディレクトリに変更します - 「navicli -h \$ {ip} getagent」と入力して、CLARiX デバイスとの接続を確立します。 -最初の2行でバージョン番号を探します。例： ：「Agent Rev： 6.16.2 (0.1) インチ -最初の行でバージョンを探して比較します。例： Navisphere CLI Revision 6.07.00.04.07
エラー：サポート対象外の構成 - Fibre Channel ポートがありません	<p>デバイスにファイバチャネルポートが設定されていない。現在サポートされているのは FC 構成のみです。このバージョン / ファームウェアがサポートされていることを確認してください。</p>

追加情報はから入手できます "[サポート](#)" ページまたはを参照してください "[Data Collector サポートマトリックス](#)"。

Dell EMC VNX File（旧 Celerra Unified Storage System）データコレクタ

このデータコレクタは、VNX File Storage System からインベントリ情報を取得します。このデータコレクタを設定するには、ストレージプロセッサの IP アドレス、および読み取り専用のユーザ名とパスワードが必要です。

用語集

Cloud Insights は、VNX File データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
Celerra Network Server/Celerra ストレージ・プール	ストレージプール
File System の略	内部ボリューム
データムーバー	コントローラ
データムーバーにマウントされたファイルシステム	ファイル共有
CIFS および NFS エクスポート	共有
ディスクボリューム	バックエンド LUN

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- ストレージプロセッサの IP アドレス
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード
- SSHポート22

設定

フィールド	説明
VNX ファイルの IP アドレス	VNX File デバイスの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	VNX File デバイスへのログインに使用する名前
パスワード	VNX File デバイスへのログインに使用するパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20分です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー： DART の更新の実行中は処理を続行できません	Possible 解決策：データコレクタを一時停止し、DART のアップグレードが完了するのを待ってから、別の取得要求を実行します。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC VNX Unified データコレクタの設定

Dell EMC VNX Unified （SSH）データコレクタを設定するには、Control Station の IP アドレス、および読み取り専用のユーザ名とパスワードが必要です。

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ディスクフォルダ	ディスクグループ
ファイルシステム	内部ボリューム
ストレージ	ストレージ
ストレージプロセッサ	ストレージノード
ストレージプール、 RAID グループ	ストレージプール
LUN	ボリューム
データムーバー	コントローラ
データムーバーにマウントされたファイルシステム	ファイル共有
CIFS および NFS エクスポート	共有
ディスクボリューム	バックエンド LUN

要件

VNX（SSH）データコレクタを構成するには、次のものがが必要です。

- VNX IP アドレスと資格情報を Celerra Control Station に追加します。
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード
- データコレクタは 'DART OS NAS ヘッドを使用して ' バックエンド・アレイに対して NaviCLI/naviseccli コマンドを実行できます

設定

フィールド	説明
VNX IP アドレス	VNX Control Station の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	VNX Control Station のユーザー名
パスワード	VNX Control Station のパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です。

フィールド	説明
パフォーマンスポーリング間隔（秒）。	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

EMC VPLEXデータコレクタの設定

このデータコレクタは、EMC VPLEXストレージシステムからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。データコレクタを設定するには、VPLEXサーバのIPアドレスと管理者レベルのドメインアカウントが必要です。



VPLEX クラスタからの Cloud Insights のパフォーマンス収集では、Cloud Insights が SCP ベースのファイルコピーを介して取得する .csv ファイルとログを入力するために、パフォーマンスアーカイブサービスが動作可能である必要があります。VPLEX ファームウェアのアップグレード / 管理ステーションの更新の多くが、この機能を動作不能にすることが確認されています。このようなアップグレードを計画しているお客様は、計画しているアップグレードによってこの機能が動作不能になる場合は、Dell/EMC に事前に問い合わせてください。問題が発生した場合、パフォーマンスの可視性のギャップを最小限に抑えるために、どのように IT を再有効化できますか。Cloud Insight の VPLEX パフォーマンスコードは、予想されるすべてのファイルが存在するかどうかを各ポーリングで評価し、ファイルが適切に更新されているかどうかを判断します。不足しているか古い場合、Cloud Insights はパフォーマンス収集の失敗をログに記録します。

用語集

Cloud Insightst では、VPLEX データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
クラスタ	ストレージ
エンジン	ストレージノード
デバイス、システムエクステンツ	バックエンドストレージプール
仮想ボリューム	ボリューム
フロントエンドポート、バックエンドポート	ポート
分散デバイス	ストレージ同期
ストレージビュー	ボリュームマップ、ボリュームマスク
ストレージボリューム	バックエンド LUN
ITL	バックエンドパス

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表してい

るわけではありません。

要件

- VPLEX Management ConsoleのIPアドレス
- VPLEX サーバの管理者レベルのドメインアカウント
- ポート 443 （ HTTPS ）： VPLEX 管理ステーションの TCP ポート 443 へのアウトバウンド接続が必要です。
- パフォーマンスを確保するには、 ssh/scp アクセス用の読み取り専用のユーザ名とパスワードを使用します。
- パフォーマンスを確保するには、ポート 22 が必要です。

設定

フィールド	説明
VPLEX Management Console の IP アドレス	VPLEX Management Console の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	VPLEX CLIのユーザ名
パスワード	VPLEX CLIに使用するパスワード
パフォーマンスリモート IP アドレス	VPLEX Management Console のパフォーマンスリモートの IP アドレス
パフォーマンスリモートユーザ名	VPLEX Management Console のパフォーマンスリモートのユーザ名
パフォーマンスリモートパスワード	VPLEX Management Console のパフォーマンスリモートのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
通信ポート	VPLEX CLI に使用するポート。デフォルトは443です。
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは20分です。
接続の再試行回数	デフォルトは3です。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは600秒です。
再試行回数	デフォルトは2です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー：ユーザ認証に失敗しました。	このデバイスのクレデンシャルが正しいことを確認してください。

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
エラー：バージョン 5.3 より前の VPLEX パフォーマンスはサポートされていません。	VPLEX を 5.3 以上にアップグレードします
エラー：十分なデータが収集されていません。	<ul style="list-style-type: none"> ログファイルの収集タイムスタンプを確認し、それに応じてポーリング間隔を変更します 長時間待ちます
エラー：恒久的なログファイルは更新されていません。	永続ログファイルの更新を有効にするには、EMC サポートにお問い合わせください
エラー：パフォーマンスのポーリング間隔が長すぎます。	ログファイル \$ {logfile} の収集タイムスタンプを確認し、それに応じてポーリング間隔を変更してください
エラー：VPLEX Management Console のパフォーマンスリモートの IP アドレスが設定されていません。	データソースを編集して、VPLEX Management Console のパフォーマンスリモート IP アドレスを設定します。
エラー：ディレクトリからパフォーマンスデータが報告されていません	<ul style="list-style-type: none"> システムパフォーマンスモニタが正しく動作していることを確認します システムパフォーマンスモニタログファイルの更新を有効にするには、EMCサポートにお問い合わせください

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Dell EMC XtremIO データコレクタ

EMC XtremIO データコレクタは、EMC XtremIO ストレージシステムからインベントリとパフォーマンスのデータを取得します。

要件

EMC XtremIO（HTTP）データコレクタを設定するには、次のものがが必要です。

- XtremIO Management Server（XMS）ホストのアドレス
- 管理者権限を持つアカウント
- ポート 443 へのアクセス（HTTPS）

用語集

Cloud Insights は、EMC XtremIO データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータソースを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク (SSD)	ディスク
クラスタ	ストレージ
コントローラ	ストレージノード
ボリューム	ボリューム
LUN マップ	ボリュームマップ
ターゲット FC イニシエータ	ボリュームマスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータソースのすべてのケースを表しているとは限りません。

要件

- XtremIO Management Server (XMS) ホストの IP アドレス
- XtremIO の管理者のユーザ名とパスワード

設定

フィールド	説明
XMSホスト	XtremIO Management Server の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	XtremIO Management Server のユーザ名
パスワード	XtremIO Management Server のパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCP ポート	XtremIO Management Server への接続に使用する TCP ポート。デフォルトは443です。
インベントリのポーリング間隔 (分)	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスのポーリング間隔 (秒)	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Fujitsu Eternus データコレクタ

Fujitsu Eternus データコレクタは、管理者レベルのストレージシステムアクセスを使用してインベントリデータを取得します。

用語集

Cloud Insights では、Fujitsu ETERNUS ストレージから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ストレージ	ストレージ
シンプール、フレキシブル階層プール、RAID グループ	ストレージプール
標準ボリューム、スナップデータボリューム（SDV）、スナップデータプールボリューム（SDPV）、シンプロビジョニングボリューム（TPV）、フレキシブル階層ボリューム（FTV）、ワイドストライピングボリューム（WSV）	ボリューム
チャンネルアダプタ	コントローラ

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータ照合のすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次のものがが必要です。

- Eternus ストレージの IP アドレス。カンマで区切って指定することはできません
- SSH 管理レベルのユーザ名とパスワード
- ポート22
- ページスクロールが無効になっていることを確認します（`clienv -show -more-scroll disable`）。

設定

フィールド	説明
Eternus ストレージの IP アドレス	Eternus ストレージの IP アドレス
ユーザ名	Eternus ストレージのユーザ名
パスワード	Eternus ストレージのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは20分です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
「 Error Retrieving data 」というエラーメッセージが表示され、「 Error Finding Prompt CLI 」または「 Error Finding prompt at the end of shell results 」が表示されます。	考えられる原因：ストレージシステムでページスクロールが有効になっています。 可能性のある解決策： * 次のコマンドを実行して、ページのスクロールを無効にしてみてください。 clientv-show-more-scroll disableを設定します
「 Connecting error 」とエラーメッセージ「 Failed to instantiate an SSH connection to storage 」または「 Failed to instantiate a connection to VirtualCenter 」が表示されます。	考えられる原因： * 認証情報が正しくありません。 * IP アドレスが正しくありません。 * ネットワークの問題。 * ストレージが停止しているか、応答しない可能性があります 考えられる解決策： * 入力された資格情報と IP アドレスを確認してください。 * SSH クライアントを使用してストレージと通信してみてください。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp Google Compute データコレクタ

このデータコレクタは、Google Compute クラウドプラットフォーム構成からのインベントリとパフォーマンスの収集をサポートします。このコレクタは、1つのGoogle組織内のすべてのプロジェクト内のすべてのコンピューティングリソースを検出しようとします。Cloud Insights で検出したいGoogle組織が複数ある場合は、組織ごとに1つのCloud Insights コレクタを導入します。

設定

フィールド	説明
組織 ID	このコレクタで検出する組織 ID。サービスアカウントが複数の組織を表示できる場合は、このフィールドが必要です
GCP プロジェクトを ID でフィルタリングするには、 [除外] または [含める] を選択します	Cloud Insights に移行するプロジェクトのリソースを制限する場合
プロジェクト ID	「除外する」値の値に応じて、フィルタするプロジェクト ID または検出から除外するプロジェクト ID のリスト。デフォルトリストは空です
クライアント ID	Google Cloud Platform 構成のクライアント ID
Google 資格情報ファイルの内容をここにコピーして 貼り付けます	Cloud Platform アカウントの Google クレデンシャルをこのフィールドにコピーします

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは60分です
VM をラベルでフィルタリングするには、「除外」または「含める」を選択します	データの収集時に VM をラベルで含めるか除外するかを指定します。「含める」が選択されている場合は、「ラベルキー」フィールドを空白にすることはできません。
VM をフィルタリングするキーと値を指定します	VM のキーとラベルの値に一致するキーと値でフィルタリングして、対象に含める VM（および関連するディスク）を選択するには、「* + フィルタラベル *」をクリックします。ラベルキーは必須です。ラベル値はオプションです。ラベル値が空の場合、VM はラベルキーと一致するかぎりフィルタリングされます。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルト値は 1800 秒です

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

HP エンタープライズ

HP Enterprise Alletra 9000/Primera Storage データコレクタ

Cloud Insightsは、HP Enterprise Alletra 9000/HP Enterprise Primera（以前の3PAR）データコレクタを使用して、インベントリとパフォーマンスを検出します。

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

フィールド	説明
物理ディスク	ディスク
ストレージシステム	ストレージ
コントローラノード	ストレージノード
Common Provisioning Group の 1 つ	ストレージプール
仮想ボリューム	ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータ照合を設定するには、次のものがが必要です。

- InServ クラスタの IP アドレスまたは FQDN
- インベントリの場合は、StoreServ サーバへの読み取り専用のユーザ名とパスワード
- パフォーマンスを確保するために、StoreServ サーバへの読み取り / 書き込みユーザ名とパスワード
- ポート要件： 22（インベントリ収集）、5988、5989（パフォーマンス収集）[注：StoreServ OS 3.x + ではパフォーマンスがサポートされます]
- パフォーマンス収集を行うには、SSH を使用してアレイにログインし、SMI-S が有効になっていることを確認します。

設定

フィールド	説明
ストレージ IP アドレス	StoreServ クラスタのストレージ IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	StoreServ サーバのユーザ名
パスワード	StoreServ サーバのパスワード
SMI-S ユーザー名	SMI-S プロバイダホストのユーザ名
SMI-S のパスワード	SMI-S プロバイダホストのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です。
SMI-S 接続	SMI-S プロバイダへの接続に使用するプロトコル
SMI-S のデフォルトポートを上書きします	空白の場合は、SMI-S Connectivity のデフォルトポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
"showsys" コマンドを実行しても結果は返されません。	コマンドラインから「showsys」と「showversion-a」を実行し、バージョンがアレイでサポートされているかどうかを確認します。

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
接続またはログインに失敗しました。プロバイダの初期化に失敗しました	すべて数値のアレイ名は、SMI-S サーバで原因の問題が発生する可能性があります。アレイ名を変更してください。
SMI-S ユーザが設定されていますが、ドメインがありません	構成した SMI-S ユーザに適切なドメイン権限を付与します
Cloud Insights は、SMI-S サービスに接続 / ログインできないと表示しています。	<p>CI AU とアレイの間に、CI AU と TCP 接続をブロックするファイアウォールがないことを確認します。これが完了し、ファイアウォールがないことを確認したら、アレイに SSH 接続し、「showcim」コマンドを使用して確認する必要があります。</p> <p>以下を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> *サービスは有効です * HTTPSが有効です * HTTPSポートは5989にする必要があります <p>その場合は、「stopcim」を実行してから「startcim」を実行してCIM（SMI-Sサービスなど）を再起動します。</p>

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

HP Enterprise Command View データコレクタ

HP Enterprise Command View Advanced Edition データコレクタは、Command View Advanced Edition (CVAE) サーバーを使用した XP アレイと P9500 アレイの検出をサポートしています。Cloud Insights は、標準のコマンドビュー API を使用して CVAE と通信し、インベントリデータとパフォーマンスデータを収集します。

用語集

Cloud Insightsでは、HP Enterprise Command Viewデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
PDEV	ディスク
ジャーナルプール	ディスクグループ
ストレージアレイ	ストレージ
Port Controller の略	ストレージノード
アレイグループ、DPプール	ストレージプール

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
論理ユニット、 LDEV	ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

インベントリの要件

インベントリデータを収集するには、次の情報が必要です。

- CVAEサーバのIPアドレス
- CVAE ソフトウェアおよびピア特権の読み取り専用ユーザ名とパスワード
- ポート要件： 2001

パフォーマンス要件

パフォーマンスデータを収集するには、次の要件を満たしている必要があります。

- HDS USP、USP V、および VSP のパフォーマンス
 - Performance Monitor のライセンスが必要です。
 - 監視スイッチが有効になっている必要があります。
 - エクスポートツール（Export.exe）を Cloud Insights AU にコピーして、場所に抽出する必要があります。CI Linux AUS で、「ciscys」に読み取りおよび実行権限があることを確認します。
 - エクスポートツールのバージョンとターゲットアレイのマイクロコードのバージョンが一致している必要があります。
- AMS のパフォーマンス：
 - Performance Monitor のライセンスが必要です。
 - Storage Navigator Modular 2（SNM2）CLI ユーティリティが Cloud Insights AU にインストールされている必要があります。
- ネットワーク要件
 - エクスポートツールは Java ベースであり、RMI を使用してアレイと通信します。これらのツールは、呼び出しごとに送信元と宛先の TCP ポートを動的にネゴシエートするため、ファイアウォールとの親和性がない場合があります。また、異なるモデルアレイのエクスポートツールがネットワーク全体で異なる動作をする場合があります。ご使用のモデルの要件については、HPE にお問い合わせください

設定

フィールド	説明
Command View Server の順にクリックします	Command View サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	Command View サーバのユーザ名。
パスワード	Command View サーバのパスワード

フィールド	説明
デバイス - VSP G1000 (R800)、VSP (R700)、HUS VM (HM700)、および USP ストレージ	<p>VSP G1000 (R800)、VSP (R700)、HUS VM (HM700)、および USP ストレージのデバイスリスト。各ストレージには以下が必要です。</p> <p>*アレイのIP：ストレージのIPアドレス *ユーザー名：ストレージのユーザー名 *パスワード：ストレージのパスワード *エクスポートユーティリティJARファイルを含むフォルダ</p>
SNM2Devices - WMS/SMS/AMS ストレージ	<p>WMS / SMS / AMS ストレージのデバイスリスト。各ストレージには以下が必要です。</p> <p>*アレイのIP：ストレージのIPアドレス * Storage Navigator CLI Path：SNM2 CLIパス * Account Authentication Valid：有効なアカウント認証を選択する場合に選択します *ユーザー名：ストレージのユーザー名 *パスワード：ストレージのパスワード</p>
「 Tuning Manager 」を「 Performance 」に選択します	他のパフォーマンスオプションよりも優先されます
Tuning Manager Host (ホストのチューニング)	Tuning Manager の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
Tuning Manager ポート	Tuning Manager に使用するポート
Tuning Manager のユーザ名	Tuning Manager のユーザ名
Tuning Manager パスワード	Tuning Manager のパスワード

注：HDS USP、USP V、および VSP では、どのディスクも複数のアレイグループに属することができます。

高度な設定

フィールド	説明
Command View Server のポート	Command View Server に使用するポート
HTTPs が有効です	HTTPS を有効にする場合に選択します
インベントリポーリング間隔 (分)	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40です。
「除外」または「含める」を選択してリストを指定します	下のリストに表示されたアレイをデータの収集時に対象に含めるか除外するかを指定します。
デバイスを除外または含める	対象に含めるか除外するデバイスの ID またはアレイ名をカンマで区切ったリスト
ホストマネージャを照会します	ホストマネージャを照会する場合に選択します
パフォーマンスポーリング間隔 (秒)	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300です。

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー：ユーザに十分な権限がありません	別のユーザアカウントを使用して、権限を追加するか、データコレクタで設定されているユーザアカウントの権限を増やします
エラー：ストレージリストが空です。デバイスが設定されていないか、ユーザに十分な権限がありません	<ul style="list-style-type: none"> *デバイスが設定されているかどうかを確認するには、DeviceManagerを使用します。 *より多くの権限を持つ別のユーザーアカウントを使用するか、ユーザーアカウントの権限を増やしてください
エラー：HDS ストレージアレイが数日間更新されませんでした	HP CommandView AE でこのアレイが更新されない理由を確認してください。

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
エラー： *エクスポートユーティリティの実行中にエラーが発生しました *外部コマンド実行中にエラーが発生しました	<ul style="list-style-type: none"> *エクスポートユーティリティがCloud Insights Acquisition Unitにインストールされていることを確認します *データコレクタ設定でエクスポートユーティリティの場所が正しいことを確認します *USP/R600アレイのIPがデータコレクタの設定で正しいことを確認します *データコレクタの設定で、ユーザ名とパスワードが正しいことを確認します *エクスポートユーティリティのバージョンがストレージアレイのマイクロコードのバージョンと互換性があることを確認してください *Cloud Insights Acquisition UnitからCMDプロンプトを開き、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> -ディレクトリを設定済みのインストールディレクトリに変更します -バッチファイルrunWin.batを実行して、設定されているストレージアレイとの接続を試行します
エラー：ターゲット IP のエクスポートツールのログインに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> *ユーザー名/パスワードが正しいことを確認します *主にこのHDSデータコレクタのユーザIDを作成します *このアレイを取得するように他のデータコレクタが設定されていないことを確認します
エラー：「Unable to get time range for monitoring」というメッセージが表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> *アレイでパフォーマンス監視が有効になっていることを確認します。 *Cloud Insights の外部でエクスポートツールを起動して、問題がCloud Insights の外部にあることを確認してください。

問題	次の操作を実行します
<p>エラー：</p> <p>*構成エラー：ストレージアレイはエクスポートユーティリティでサポートされていません</p> <p>*構成エラー：ストレージアレイはStorage Navigator Modular CLIでサポートされていません</p>	<p>* サポートされているストレージアレイのみを構成します。</p> <p>* サポートされていないストレージ・アレイを除外するには ' フィルタ・デバイス・リストを使用します</p>
<p>エラー：</p> <p>*外部コマンド実行中にエラーが発生しました</p> <p>*構成エラー：ストレージアレイがインベントリで報告されていません</p> <p>*設定エラー：エクスポートフォルダにjarファイルが含まれていません</p>	<p>* エクスポートユーティリティの場所を確認します。</p> <p>*対象のストレージアレイがCommand Viewサーバで設定されているかどうかを確認してください</p> <p>*パフォーマンスのポーリング間隔を60秒の倍数に設定します。</p>
<p>エラー：</p> <p>*ストレージナビゲータCLIでエラーが発生しました</p> <p>* auperformコマンドの実行中にエラーが発生しました</p> <p>*外部コマンド実行中にエラーが発生しました</p>	<p>* Cloud Insights Acquisition UnitにStorage Navigator Modular CLIがインストールされていることを確認します</p> <p>*データコレクタ設定で、Storage Navigator Modular CLIの場所が正しいことを確認します</p> <p>*データコレクタの設定で、WMS/SMS/SMSアレイのIPが正しいことを確認します</p> <p>* Storage Navigator Modular CLIバージョンが、データコレクタに設定されたストレージアレイのマイクロコードバージョンと互換性があることを確認してください</p> <p>* Cloud Insights Acquisition UnitからCMDプロンプトを開き、次の手順を実行します。</p> <p>-ディレクトリを設定済みのインストールディレクトリに変更します</p> <p>- 「auunitref.exe」 コマンドを実行して、設定済みのストレージアレイとの接続を試行します。</p>
<p>エラー：設定エラー：ストレージアレイがインベントリから報告されません</p>	<p>Command View サーバで、該当するストレージアレイが設定されているかどうかを確認します</p>
<p>エラー：</p> <p>* Storage Navigator Modular 2 CLIに登録されているアレイがありません</p> <p>*アレイがStorage Navigator Modular 2 CLIに登録されていません</p> <p>*構成エラー：ストレージアレイがStorage Navigator Modular CLIに登録されていません</p>	<p>*コマンドプロンプトを開き、設定したパスにディレクトリを変更します</p> <p>* 「SET=STONAVM_HOME=」 コマンドを実行します。</p> <p>* 「auunitref」 コマンドを実行します。</p> <p>*コマンド出力にIPを持つアレイの詳細が含まれていることを確認します</p> <p>*出力にアレイの詳細が含まれていない場合は、ストレージナビゲータCLIにアレイを登録します。</p> <p>-コマンドプロンプトを開き、設定したパスにディレクトリを変更します</p> <p>- 「SET=STONAVM_HOME=」 コマンドを実行します。</p> <p>-コマンド 「auunitaddauto-ip\$ {ip} 」を実行します。\$ { IP } を実際の IP に置き換えてください</p>

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

HPE Alletra 6000 データコレクタ

HP Enterprise Alletra 6000（以前の Nimble）データコレクタは、Alletra 6000 ストレージアレイのインベントリデータとパフォーマンスデータをサポートしています。

用語集

Cloud Insights では、このコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
配列	ストレージ
ディスク	ディスク
ボリューム	ボリューム
プール	ストレージプール
イニシエータ	ストレージホストのエイリアス
コントローラ	ストレージノード
Fibre Channel インターフェイス	コントローラ

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

ストレージアレイからインベントリデータと構成データを収集するには、次の情報が必要です。

- アレイがインストールおよび設定されていて、クライアントから完全修飾ドメイン名（FQDN）またはアレイ管理 IP アドレスを使用して到達できる必要があります。
- アレイで NimbleOS 2.3.x 以降が実行されている必要があります。
- アレイに対する有効なユーザ名とパスワードが「Operator」レベル以上のロールで設定されている必要があります。「ゲスト」ロールには、イニシエータの設定を理解するための十分なアクセス権がありません。
- アレイのポート 5392 が開いている必要があります。

ストレージアレイからパフォーマンスデータを収集するには、次の情報が必要です。

- アレイが NimbleOS 4.0.0 以降を実行している必要があります
- アレイにはボリュームが設定されている必要があります。NimbleOS がボリュームに対して実行できるパフォーマンス API は 1 つだけであり、Cloud Insights の統計レポートはボリュームの統計から導き出されます

設定

フィールド	説明
アレイ管理 IP アドレス	Fully Qualified Domain Name （ FQDN ； 完全修飾ドメイン名）またはアレイ管理 IP アドレスです。
ユーザ名	アレイのユーザ名
パスワード	アレイのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
ポート	Nimble REST API が使用するポート。デフォルトは5392です。
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。

注：デフォルトのパフォーマンスのポーリング間隔は 300 秒で、変更することはできません。HPE Alletra 6000 でサポートされている唯一の間隔です。

Hitachi Data Systems の略

Hitachi Vantara Command Suite データコレクタ

Hitachi Vantara コマンドスイートのデータコレクタは、HiCommand Device Manager サーバをサポートします。Cloud Insights は、標準の HiCommand API を使用して HiCommand Device Manager サーバと通信します。

用語集

Cloud Insights は、Hitachi Vantara Command Suite データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
PDEV	ディスク
ジャーナルプール	ディスクグループ
ストレージアレイ	ストレージ
Port Controller の略	ストレージノード
アレイグループ 'HDS プール	ストレージプール
論理ユニット、LDEV	ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

ストレージ

HDS ストレージアセットランディングページにあるオブジェクトや参考資料に関連する用語を次に示します。これらの用語の多くは、他のデータコレクタにも適用されます。

- 名前- HDS HiCommand Device Manager の「name」属性から GetStorageArray XML API 呼び出しを介して直接取得されます
- Model : HDS HiCommand Device Manager の「arrayType」属性から GetStorageArray XML API 呼び出しを使用して直接取得します
- ベンダー- HDS (Hitachi)
- Family - GetStorageArray XML API 呼び出しを使用して、HDS HiCommand Device Manager の「arrayFamily」属性から直接取得します
- IP-アレイの管理 IP アドレスであり、アレイ上のすべての IP アドレスの完全なリストではありません
- 物理容量-ディスクの役割に関係なく、このシステム内のすべてのディスクの合計容量を表す base2 値。

ストレージプール

HDS ストレージプールのアセットランディングページにあるオブジェクトや参照に関連する用語を次に示します。これらの用語の多くは、他のデータコレクタにも適用されます。

- タイプ：値は次のいずれかになります。
 - 予約済み：このプールがデータボリューム以外の目的専用の場合（ジャーナリング、スナップショット）
 - シンプロビジョニング- HDP プールの場合
 - RAID グループ-次のような理由が考えられません。

Cloud Insights は、あらゆるコストで容量の二重カウントを回避するために強いスタンスを取っています。HDS では、通常、ディスクから RAID グループを作成し、それらの RAID グループにプールボリュームを作成し、それらのプールボリュームからプール（多くの場合 HDP を作成しますが、特別な目的にすることもあります）を構築する必要があります。Cloud Insights が、基盤となる RAID グループとプールの両方をそのまま報告した場合、それぞれの物理容量の合計がディスクの合計を大幅に超えてしまいます。

Cloud Insights の HDS Command Suite データコレクタは、RAID グループのサイズをプールボリュームの容量で任意に縮小します。これにより、Cloud Insights が RAID グループをまったく報告しない場合があります。さらに、作成された RAID グループには、Cloud Insights Web UI には表示されないようにフラグが設定されますが、Cloud Insights Data Warehouse (DWH) にフローします。これらの決定の目的は、ほとんどのユーザーが気にしないことを UI の混乱から回避することです。HDS アレイに 50 MB の空きがある RAID グループがある場合は、その空きスペースを有効な結果に使用できない可能性があります。

- HDS プールは 1 つの特定のノードに関連付けられないため、ノードなし
- Redundancy - プールの RAID レベル。複数の RAID タイプで構成される HDP プールには、複数の値が含まれる可能性があります
- Capacity % - プールでデータ使用に使用されている割合。プールの使用済み GB と合計論理 GB サイズです
- オーバーコミット容量 - 「このプールの論理容量は、プールの論理容量をこの割合で超えている論理ボリ

ュームの合計により、この割合でオーバーサブスクライブされる」ことを示す派生値

- snapshot - このプールでの Snapshot の使用用にリザーブされている容量が表示されます

ストレージノード

HDS ストレージノードのアセットランディングページにあるオブジェクトや参照に関連する用語を次に示します。これらの用語の多くは、他のデータコレクタにも適用されます。

- 名前-モノリシックアレイのフロントエンドディレクタ（FED）またはチャネルアダプタの名前、またはモジュラーアレイのコントローラの名前。1つのHDSアレイに2つ以上のストレージノードがある
- volumes - このストレージノードが所有するポートにマッピングされているボリュームが Volume テーブルに表示されます

インベントリの要件

インベントリデータを収集するには、次の情報が必要です。

- HiCommand Device Manager サーバの IP アドレス
- HiCommand Device Manager ソフトウェアおよびピアの権限に対する読み取り専用のユーザ名とパスワード
- ポート要件：2001（http）または2443（https）
- ユーザ名とパスワードを使用して HiCommand Device Manager ソフトウェアにログインします
- HiCommand Device Manager へのアクセスを確認します http://<HiCommand_Device_Manager_IP>:2001/service/StorageManager

パフォーマンス要件

パフォーマンスデータを収集するには、次の要件を満たしている必要があります。

- HDS USP、USP V、および VSP のパフォーマンス
 - Performance Monitor のライセンスが必要です。
 - 監視スイッチが有効になっている必要があります。
 - エクスポートツール（Export.exe）を Cloud Insights AU にコピーする必要があります。
 - エクスポートツールのバージョンとターゲットアレイのマイクロコードのバージョンが一致している必要があります。
- AMS のパフォーマンス：
 - Cloud Insights でパフォーマンスデータの取得に使用する場合は、AMS アレイ上に専用のサービスアカウントを作成することを強く推奨します。Storage Navigator では、ユーザーアカウントでアレイへの同時ログインが1つだけ許可されています。Cloud Insights で管理スクリプトまたは HiCommand と同じユーザーアカウントを使用すると、1つのユーザーアカウントの同時ログイン制限により、Cloud Insights、管理スクリプト、または HiCommand がアレイと通信できなくなることがあります
 - Performance Monitor のライセンスが必要です。
 - Storage Navigator Modular 2（SNM2）CLI ユーティリティが Cloud Insights AU にインストールされている必要があります。

設定

フィールド	説明
HiCommand サーバ	HiCommand Device Manager サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	HiCommand Device Manager サーバのユーザ名
パスワード	HiCommand Device Manager サーバのパスワード
デバイス - VSP G1000 (R800)、VSP (R700)、HUS VM (HM700)、および USP ストレージ	<p>VSP G1000 (R800)、VSP (R700)、HUS VM (HM700)、および USP ストレージのデバイスリスト。各ストレージには以下が必要です。</p> <p>*アレイのIP：ストレージのIPアドレス *ユーザ名：ストレージのユーザ名 *パスワード：ストレージのパスワード *エクスポートユーティリティJARファイルを含むフォルダ</p>
SNM2Devices - WMS/SMS/AMS ストレージ	<p>WMS / SMS / AMS ストレージのデバイスリスト。各ストレージには以下が必要です。</p> <p>*アレイのIP：ストレージのIPアドレス * Storage Navigator CLI Path：SNM2 CLIパス * Account Authentication Valid：有効なアカウント認証を選択する場合に選択します *ユーザ名：ストレージのユーザ名 *パスワード：ストレージのパスワード</p>
「Tuning Manager」を「Performance」に選択します	他のパフォーマンスオプションよりも優先されます
Tuning Manager Host (ホストのチューニング)	Tuning Manager の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
Tuning Manager ポートを上書きします	空白の場合は、Choose Tuning Manager for Performance フィールドのデフォルトポートを使用します。それ以外の場合は、使用するポートを入力します
Tuning Manager のユーザ名	Tuning Manager のユーザ名
Tuning Manager パスワード	Tuning Manager のパスワード

注：HDS USP、USP V、および VSP では、どのディスクも複数のアレイグループに属することができます。

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	HTTPS または HTTP では、デフォルトのポートも表示されます
HiCommand Server ポート	HiCommand Device Manager に使用するポート

インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40です。
「除外」または「含める」を選択してリストを指定します	下のリストに表示されたアレイをデータの収集時に対象に含めるか除外するかを指定します。
デバイスリストをフィルタリングします	対象に含めるか除外するデバイスのシリアル番号をカンマで区切ったリスト
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300です。
エクスポートのタイムアウト（秒）	エクスポートユーティリティがタイムアウトしました。デフォルトは300です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー：ユーザに十分な権限がありません	別のユーザアカウントを使用して、権限を追加するか、データコレクタで設定されているユーザアカウントの権限を増やします
エラー：ストレージリストが空です。デバイスが設定されていないか、ユーザに十分な権限がありません	*デバイスが設定されているかどうかを確認するには、DeviceManagerを使用します。 *より多くの権限を持つ別のユーザーアカウントを使用するか、ユーザーアカウントの権限を増やしてください
エラー：HDS ストレージアレイが数日間更新されませんでした	HDS HiCommand でこのアレイが更新されない理由を確認します。

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
エラー： *エクスポートユーティリティの実行中にエラーが発生しました *外部コマンド実行中にエラーが発生しました	*エクスポートユーティリティがCloud Insights Acquisition Unitにインストールされていることを確認します *データコレクタ設定でエクスポートユーティリティの場所が正しいことを確認します * USP/R600アレイのIPがデータコレクタの設定で正しいことを確認します *データコレクタの設定で、ユーザ名とパスワードが正しいことを確認します *エクスポートユーティリティのバージョンがストレージアレイのマイクロコードのバージョンと互換性があることを確認してください * Cloud Insights Acquisition UnitからCMDプロンプトを開き、次の手順を実行します。 -ディレクトリを設定済みのインストールディレクトリに変更します -バッチファイルrunWin.batを実行して、設定されているストレージアレイとの接続を試行します
エラー：ターゲット IP のエクスポートツールのログインに失敗しました	*ユーザー名/パスワードが正しいことを確認します *主にこのHDSデータコレクタのユーザIDを作成します *このアレイを取得するように他のデータコレクタが設定されていないことを確認します
エラー：「 Unable to get time range for monitoring 」というメッセージが表示されます。	* アレイでパフォーマンス監視が有効になっていることを確認します。 * Cloud Insights の外部でエクスポートツールを起動して、問題が Cloud Insights の外部にあることを確認してください。
エラー： *構成エラー：ストレージアレイはエクスポートユーティリティでサポートされていません *構成エラー：ストレージアレイはStorage Navigator Modular CLIでサポートされていません	* サポートされているストレージアレイのみを構成します。 * サポートされていないストレージ・アレイを除外するには' フィルタ・デバイス・リストを使用します
エラー： *外部コマンド実行中にエラーが発生しました *構成エラー：ストレージアレイがインベントリで報告されていません *設定エラー：エクスポートフォルダにjarファイルが含まれていません	* エクスポートユーティリティの場所を確認します。 *問題のストレージアレイがHiCommandサーバで設定されているかどうかを確認してください *パフォーマンスのポーリング間隔を60秒の倍数に設定します。

問題	次の操作を実行します
エラー： *ストレージナビゲータCLIでエラーが発生しました * auperformコマンドの実行中にエラーが発生しました *外部コマンド実行中にエラーが発生しました	* Cloud Insights Acquisition UnitにStorage Navigator Modular CLIがインストールされていることを確認します *データコレクタ設定で、Storage Navigator Modular CLIの場所が正しいことを確認します *データコレクタの設定で、WMS/SMS/SMSアレイのIPが正しいことを確認します * Storage Navigator Modular CLIバージョンが、データコレクタに設定されたストレージアレイのマイクロコードバージョンと互換性があることを確認してください * Cloud Insights Acquisition UnitからCMDプロンプトを開き、次の手順を実行します。 -ディレクトリを設定済みのインストールディレクトリに変更します -「auunitref.exe」 コマンドを実行して、設定済みのストレージアレイとの接続を試行します。
エラー：設定エラー：ストレージアレイがインベントリから報告されません	HiCommand サーバで該当するストレージアレイが設定されているかどうかを確認します
エラー： * Storage Navigator Modular 2 CLIに登録されているアレイがありません *アレイがStorage Navigator Modular 2 CLIに登録されていません *構成エラー：ストレージアレイがStorageNavigator Modular CLIに登録されていません	*コマンドプロンプトを開き、設定したパスにディレクトリを変更します *「SET=STONAVM_HOME=」 コマンドを実行します。 *「auunitref」 コマンドを実行します。 *コマンド出力にIPを持つアレイの詳細が含まれていることを確認します *出力にアレイの詳細が含まれていない場合は、ストレージナビゲータCLIにアレイを登録します。 -コマンドプロンプトを開き、設定したパスにディレクトリを変更します -「SET=STONAVM_HOME=」 コマンドを実行します。 -コマンド「auunitaddauto-ip\$ {ip} 」を実行します。 \$ { IP } を実際の IP に置き換えてください

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Hitachi Vantara NAS データコレクタの設定

Hitachi Vantara NASデータコレクタは、HDS NASクラスタの検出をサポートするインベントリおよび設定データコレクタです。Cloud Insights では、NFS 共有と CIFS 共有、ファイルシステム（内部ボリューム）、SPAN（ストレージプール）の検出がサポートされます。

用語集

Cloud Insights では、HNAS データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
階層	ディスクグループ
クラスタ	ストレージ
ノード	ストレージノード
スパン (Span)	ストレージプール
システムドライブ	バックエンド LUN
ファイルシステム	内部ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- デバイスの IP アドレス
- ポート 22、SSH プロトコル
- ユーザ名とパスワードの権限レベル： Supervisor
- 注：このデータコレクタはSSHベースなので、ホストするAUは、HNAS自体またはクラスタが接続されているSystems Management Unit (SMU) のTCP 22へのSSHセッションを開始できる必要があります。

設定

フィールド	説明
HNAS ホスト	HNAS 管理ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	HNAS CLI のユーザ名
パスワード	HNAS CLI のパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔 (分)	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは30分です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
「 Error connecting 」 with error messages 「 Error setting up shell channel : 」 または 「 Error opening shell channel 」 というエラーメッセージが表示されます。	ネットワーク接続に問題があるか、SSH の設定ミスが原因である可能性があります。代替 SSH クライアントとの接続を確認します

問題	次の操作を実行します
「 Command : XXX has timed out 」というエラーメッセージが表示され、「 Timeout 」または「 Error Retrieving data 」というエラーが表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> *別のSSHクライアントを使用してコマンドを実行してください *タイムアウトを増やします
" 接続エラー " または " 無効なログイン認証情報 " のエラーメッセージ " デバイスと通信できませんでした " :	<ul style="list-style-type: none"> * IPアドレスを確認します *ユーザー名とパスワードを確認してください *代替SSHクライアントとの接続を確認してください

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Hitachi Ops Center データコレクタ

このデータコレクタは、Hitachi Ops Center の統合されたアプリケーションスイートを使用して、複数のストレージデバイスのインベントリとパフォーマンスのデータにアクセスします。インベントリと容量を検出するには、Operations Center のインストールに「Common Services」と「Administrator」の両方のコンポーネントを含める必要があります。パフォーマンス収集では、さらに「Analyzer」を導入する必要があります。

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ストレージシステム	ストレージ
ボリューム	ボリューム
パリティグループ	ストレージプール（RAID）、ディスクグループ
ディスク	ディスク
ストレージプール	ストレージプール（シン、スナップ）
外部パリティグループ	ストレージプール（バックエンド）、ディスクグループ
ポート	ストレージノード→コントローラノード→ポートの順にクリックします
ホストグループ	ボリュームのマッピングとマスキング
ボリュームペア	ストレージ同期

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

インベントリの要件

インベントリデータを収集するには、次の情報が必要です。

- 「Common Services」コンポーネントをホストするOps CenterサーバのIPアドレスまたはホスト名
- ルート/ sysadminユーザアカウントとパスワード。Ops Centerコンポーネントをホストするすべてのサーバに存在します。HDSでは、Ops Center 10.8以降まで、LDAP/SSOユーザによるREST APIサポートは実装されていませんでした

パフォーマンス要件

パフォーマンスデータを収集するには、次の要件を満たしている必要があります。

HDS Ops Centerの「Analyzer」モジュールがインストールされている必要があります
ストレージレイがOps Centerの「Analyzer」モジュールにデータを供給している必要があります

設定

フィールド	説明
Hitachi Ops Center の IP アドレス	「Common Services」コンポーネントをホストするOps Center サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	Ops Center サーバのユーザ名。
パスワード	Ops Center サーバのパスワード。

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	デフォルトは HTTPS （ポート 443 ） です
TCP ポートを上書きします	デフォルト以外の場合に使用するポートを指定します
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40です。
「除外」または「含める」を選択してリストを指定します	下のリストに表示されたアレイをデータの収集時に対象に含めるか除外するかを指定します。
デバイスリストをフィルタリングします	対象に含めるか除外するデバイスのシリアル番号をカンマで区切ったリスト
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300です。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Infinidat InfiniBox データコレクタ

Infinidat InfiniBox（HTTP）データコレクタは、Infinidat InfiniBoxストレージシステムからインベントリ情報を収集するために使用します。

用語集

Cloud Insights では、Infinidat InfiniBox データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud

Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ストレージプール	ストレージプール
ノード	コントローラ
ファイルシステム	内部ボリューム
ファイルシステム	ファイル共有
ファイルシステムエクスポート	共有

要件

このデータコレクタを設定する際の要件は次のとおりです。

- InfiniBox 管理ノードの IP アドレスまたは FQDN
- 管理者のユーザ ID とパスワード
- ポート 443 - REST API を使用

設定

フィールド	説明
InfiniBox ホスト	InfiniBox 管理ノードの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	InfiniBox 管理ノードのユーザ名
パスワード	InfiniBox 管理ノードのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCPポート	InfiniBox サーバへの接続に使用する TCP ポート。デフォルトは443です。
インベントリのポーリング間隔	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Huawei OceanStor データコレクタ

Cloud Insights では、Huawei OceanStor（REST/HTTPS）データコレクタを使用して、Huawei OceanStor および OceanStor Dorado ストレージのインベントリとパフォーマンスを検出します。

用語集

Cloud Insights は、Huawei OceanStor から次のインベントリ情報とパフォーマンス情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ストレージプール	ストレージプール
File System の略	内部ボリューム
コントローラ	ストレージノード
FC ポート（マッピング済み）	ボリュームマップ
ホスト FC イニシエータ（マッピング済み）	ボリュームマスク
NFS / CIFS 共有	共有
iSCSI リンクターゲット	iSCSI ターゲットノード
iSCSI リンクイニシエータ	iSCSI イニシエータノード
ディスク	ディスク
LUN	ボリューム

要件

このデータコレクタを設定するには、次の要件が必要です。

- デバイスの IP アドレス
- OceanStor デバイスマネージャにアクセスするためのクレデンシャル
- ポート 8088 が使用可能であることが必要です

設定

フィールド	説明
OceanStor Host IP アドレス	OceanStor Device Manager の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	OceanStor Device Manager へのログインに使用するユーザ名
パスワード	OceanStor Device Manager へのログインに使用するパスワード

詳細設定

フィールド	説明
TCPポート	OceanStor Device Manager への接続に使用する TCP ポート。デフォルトは8088です。

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）。	デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

IBM 社

IBM Cleversafe データコレクタ

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して IBM Cleversafe ストレージシステムのインベントリデータとパフォーマンスデータを検出します。



IBM Cleversafeは、管理ユニットに対して異なるRaw TBで測定されています。フォーマットされていないIBM Cleversafeの容量は40TBごとに1が充電されます ["管理ユニット \(MU\)"](#)。

用語集

Cloud Insights では、IBM Cleversafe データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ストレージプール	ストレージプール
コンテナ	内部ボリューム
コンテナ	ファイル共有
NFS 共有	共有

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- クラスタの外部データサービスの IP アドレス
- 管理者のユーザ名とパスワード
- ポート 9440

設定

フィールド	説明
Manager の IP 名またはホスト名	管理ノードの IP アドレスまたはホスト名

フィールド	説明
ユーザ名	スーパーユーザまたはシステム管理者のロールを持つユーザアカウントのユーザ名
パスワード	スーパーユーザまたはシステム管理者のロールを持つユーザアカウントのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリのポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。
HTTP 接続タイムアウト（秒）	HTTP タイムアウト（秒）。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

IBM CS データコレクタ

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して IBM CS ストレージシステムのインベントリデータとパフォーマンスデータを検出します。

用語集

Cloud Insights では、IBM CS データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ストレージプール	ストレージプール
コンテナ	内部ボリューム
コンテナ	ファイル共有
NFS 共有	共有

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- クラスタの外部データサービスの IP アドレス
- 管理者のユーザ名とパスワード
- ポート 9440

設定

フィールド	説明
プリズム外部 IP アドレス	クラスタの外部データサービスの IP アドレス
ユーザ名	管理者アカウントのユーザ名
パスワード	管理者アカウントのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCP ポート	IBM CS アレイへの接続に使用する TCP ポート。デフォルトは 9440. です。
インベントリのポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

IBM System Storage DS8000 シリーズデータコレクタ

IBM DS （ CLI ） データコレクタは、 DS6xxx および DS8xxx のデバイスのインベントリデータとパフォーマンスデータの収集をサポートします。

DS3xxx 、 DS4xxx 、 および DS5xxx デバイスは、でサポートされています ["NetApp E シリーズのデータコレクタ"](#)。サポートされるモデルとファームウェアバージョンについては、 Cloud Insights のサポートマトリックスを参照してください。

用語集

Cloud Insightsは、IBM DSデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスクドライブモジュール	ディスク
ストレージイメージ	ストレージ
エクステンツプール	ストレージノード
固定ブロックボリューム	ボリューム
ホスト FC イニシエータ（マッピング済み）	ボリュームマスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータ照合のすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- 各 DS アレイの IP アドレス
- 各 DS アレイの読み取り専用のユーザ名とパスワード
- Cloud Insights AU にサードパーティ製ソフトウェア IBM_dscli_ がインストールされている
- アクセスの検証：ユーザ名とパスワードを使用して Run_dscli_ コマンドを実行します
- ポートの要件： 80 、 443 、および 1750

設定

フィールド	説明
DS ストレージ	DS デバイスの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	DS CLI のユーザ名
パスワード	DS CLI のパスワード
_dscli 実行可能ファイルのパス	dscli_executable のフルパス

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔（分）。デフォルトは40です。
ストレージ表示名	IBM DS ストレージアレイの名前
インベントリ除外デバイス	インベントリ収集の対象から除外するデバイスのシリアル番号をカンマで区切ったリスト
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは300です。
パフォーマンスフィルタタイプ	Include ：リストのデバイスからのみデータを収集します。Exclude ：リストのデバイスからデータを収集しません
パフォーマンスフィルタのデバイスリスト	パフォーマンス収集の対象に含めるか除外するデバイスの ID をカンマで区切ったリスト

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
CMUC00192E、CMUC00191E、またはCMUC00190Eを含むエラーです	<ul style="list-style-type: none"> * 入力された資格情報と IP アドレスを確認してください。 * Web 管理コンソールを使用してアレイと通信してみてください https://\$ip:8452/DS8000/Console。\$ { IP } をデータコレクタが設定した IP に置き換えてください。
エラー： *プログラムを実行できません *コマンドの実行エラー	<ul style="list-style-type: none"> * Cloud Insights Acquisition UnitからCMDを開きます * CLIのホームディレクトリ/libでcli.cfgファイルを開き'プロパティjava_installを確認して'環境に合わせて値を編集します *このマシンにインストールされているJavaのバージョンを表示します。「java-version」と入力します。 * CLIコマンドで指定されたIBMストレージデバイスのIPアドレスにpingを実行します。 * 上記のすべてが正常に動作した場合は、CLI コマンドを手動で実行します

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

IBM PowerVM データコレクタの設定

IBM PowerVM（SSH）データコレクタは、ハードウェア管理コンソール（HMC）で管理される IBM POWER ハードウェアインスタンスで実行されている仮想パーティションに関する情報を収集するために使用されます。

用語集

Cloud Insights は、IBM POWER ハードウェアインスタンスで実行されている仮想パーティションからインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
hdisk	仮想ディスク
Managed System の略	ホスト
LPAR、VIO サーバ	仮想マシン
ボリュームグループ	データストア
物理ボリューム	LUN

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定して使用するには、次の要件を満たしている必要があります。

- ハードウェア管理コンソール（HMC）の IP アドレス
- SSH を使用してハードウェア管理コンソール（HMC）にアクセスするためのユーザ名とパスワード
- ポート要件は SSH-22 です
- すべての管理システムおよび論理パーティションセキュリティドメインに対する表示権限

ユーザには、HMC の設定に対する表示権限も必要であり、HMC コンソールセキュリティグループの VPD 情報を収集できる必要があります。ユーザは、論理パーティションセキュリティグループの Virtual IO Server コマンドへのアクセスも許可されている必要があります。オペレータのロールから開始し、すべてのロールを削除することを推奨します。HMC の読み取り専用ユーザには、AIX ホストでプロキシされたコマンドを実行する権限はありません。

- IBM のベストプラクティスは、2 台以上の HMI でデバイスを監視することです。これにより、原因 OnCommand Insight で重複したデバイスが報告される場合があるため、このデータコレクタの詳細設定の [デバイスを除外する] リストに冗長デバイスを追加することを強くお勧めします。

設定

フィールド	説明
ハードウェア管理コンソール（HMC）の IP アドレス	PowerVM ハードウェア管理コンソールの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
HMC ユーザ	ハードウェア管理コンソールのユーザ名
パスワード	ハードウェア管理コンソールのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20分です。
SSHポート	PowerVM への SSH に使用するポート
パスワード	ハードウェア管理コンソールのパスワード
再試行回数	インベントリの再試行回数
デバイスを除外します	対象から除外するデバイスの ID または表示名をカンマで区切ったリスト

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

IBM SAN Volume Controller データコレクタの設定

IBM SVC データコレクタは、SSH を使用してインベントリとパフォーマンスのデータを収集し、SVC オペレーティングシステムを実行するさまざまなデバイスをサポートします。

サポートされるデバイスには、SVC、v7000、v5000、v3700などのモデルが含まれます。サポートされるモデルとファームウェアバージョンについては、Cloud Insights サポートマトリックスを参照してください。

用語集

Cloud Insightsは、IBM SVCデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ドライブ	ディスク
クラスタ	ストレージ
ノード	ストレージノード
mdisk グループ	ストレージプール
仮想ディスク	ボリューム
mdisk	バックエンド LUN とパス

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

インベントリの要件

- 各 SVC クラスタの IP アドレス
- ポート 22 を使用できます
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード

パフォーマンス要件

- SVC コンソールはすべての SVC クラスタに必須であり、SVC 検出基本パッケージに必要です。
- クレデンシャルには、クラスタノードから構成ノードにパフォーマンスファイルをコピーするためだけに管理アクセスレベルが必要になります。
- データ収集を有効にするには、SSH を使用して SVC クラスタに接続し、次のコマンドを実行します。
`svctask startstats -interval 1_`

注：データ収集は SVC 管理ユーザインターフェイスを使用して有効にすることもできます。

設定

フィールド	説明
クラスタ IP アドレス	SVC ストレージの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
Inventory User Name の略	SVC CLIのユーザ名
Inventory Password （インベントリパスワード）	SVC CLIのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です。
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。
ダンプされた統計情報ファイルをクリーンアップする場合	ダンプされた統計情報ファイルをクリーンアップするには'このチェックボックスをオンにします

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
エラー："構成ノードで実行されていないため、コマンドを開始できません。"	このコマンドは構成ノードで実行する必要があります。

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
エラー："構成ノードで実行されていないため、コマンドを開始できません。"	このコマンドは構成ノードで実行する必要があります。

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

IBM XIV / A9000 データコレクタの設定

IBM XIV および A9000（CLI）データコレクタでは、XIV コマンドラインインターフェイスを使用してインベントリデータを収集します。また、パフォーマンス収集は、ポート 7778 で SMI-S プロバイダを実行する XIV / A9000 アレイを SMI-S から呼び出して実行します。

用語集

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ストレージシステム	ストレージ
ストレージプール	ストレージプール
ボリューム	ボリューム

要件

このデータコレクタを設定して使用するには、次の要件を満たしている必要があります。

- ポート要件： TCP ポート 7778
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード
- XIV CLI が AU にインストールされている必要があります

パフォーマンス要件

パフォーマンス収集の要件は次のとおりです。

- SMI-S Agent 1.4 以降
- SMI-S 互換の CIMService がアレイ上で実行されています。ほとんどの XIV アレイにはデフォルトで cimserver がインストールされています。
- cimserver にはユーザログインを指定する必要があります。ログインには、アレイの構成とプロパティに対する完全な読み取りアクセス権が必要です。
- SMI-S ネームスペース。デフォルトは root/IBM です。これは cimserver で設定できます。
- ポート要件： HTTP の場合は 5988 、 HTTPS の場合は 5989 。
- SMI-S パフォーマンス収集用のアカウントの作成方法については、次のリンクを参照してください。
http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/tivihelp/v4r1/index.jsp?topic=%2Fcom.ibm.tpc_V41.doc%2Fqz0_t_adding_cim_agent.html

設定

フィールド	説明
XIV IP アドレス	XIV ストレージの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	XIV ストレージのユーザ名
パスワード	XIV ストレージのパスワード
XIV CLI ディレクトリの完全パス	XIV CLI を含むフォルダの完全パス
SMI-S ホストの IP アドレス	SMI-S ホストの IP アドレス

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは40分です。
SMI-S プロトコル	SMI-S プロバイダへの接続に使用するプロトコル。デフォルトのポートも表示されます。
SMI-S ポートを上書きします	空白の場合は、[Connection Type] フィールドでデフォルトのポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
ユーザ名	SMI-S プロバイダホストのユーザ名
パスワード	SMI-S プロバイダホストのパスワード

フィールド	説明
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔 デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Lenovo データコレクタ

Cloud Insights は 'Lenovo のデータコレクタを使用して 'Lenovo HX ストレージ・システムのインベントリとパフォーマンス・データを検出します

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- プリズム外部 IP アドレス
- 管理者のユーザ名とパスワード
- TCP ポート要件： 9440

設定

フィールド	説明
プリズム外部 IP アドレス	クラスタの外部データサービスの IP アドレス
ユーザ名	管理者アカウントのユーザ名
パスワード	管理者アカウントのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCP ポート	アレイへの接続に使用する TCP ポート。デフォルトは 9440. です。
インベントリのポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Microsoft 社

Azure NetApp Files データコレクタの設定

Cloud Insights は、Azure NetApp Files データコレクタを使用してインベントリとパフォーマンスのデータを収集します。

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- ポート要件： 443 HTTPS
- Azure Management Rest IP （ management.azure.com ）
- Azure サービスプリンシパルクライアント ID （ユーザアカウント）
- Azure サービスプリンシパルの認証キー（ユーザパスワード）
- Cloud Insights 検出用の Azure アカウントを設定する必要があります。

アカウントを適切に設定し、アプリケーションを Azure に登録すると、Cloud Insights で Azure インスタンスを検出するために必要なクレデンシャルが付与されます。次のリンクでは、検出用のアカウントを設定する方法について説明します。

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory/develop/howto-create-service-principal-portal>

設定

次の表に従って、データコレクタフィールドにデータを入力します。

フィールド	説明
Azure サービスプリンシパルクライアント ID	Azure へのサインイン ID
Azure テナント ID	Azure テナント ID
Azure サービスプリンシパルの認証キー	ログイン認証キー
Microsoft が API リクエストを請求することを理解しています	これをチェックして、Insight のポーリングで作成された API 要求を Microsoft から課金することを理解していることを確認します。

詳細設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは60です

トラブルシューティング

- ANF データコレクタで使用するクレデンシャルに、ANF ボリュームを含む Azure サブスクリプションへのアクセス権がないことを確認してください。
- Reader へのアクセスによってパフォーマンス収集が失敗する場合は、リソースグループレベルで貢献者アクセスを許可してみてください。

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Microsoft Hyper-V データコレクタ

Microsoft Hyper-V データコレクタは、仮想サーバコンピューティング環境からインベントリとパフォーマンスのデータを取得します。このデータコレクタは、スタンドアロンの Hyper-V ホストを検出することも、クラスタ全体を検出して、スタンドアロンのホストまたはクラスタごとにコレクタを1つ作成することもできます。

用語集

Cloud Insights では、Microsoft Hyper-V（WMI）から次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
仮想ハードディスク	仮想ディスク
ホスト	ホスト
仮想マシン	仮想マシン
Cluster Shared Volume（CSV；クラスタ共有ボリューム）、パーティションボリューム	データストア
Internet SCSI Device、Multi Path SCSI LUN の略	LUN
ファイバチャネルポート	ポート

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次のものがが必要です。

- Hyper-V では、データ収集とリモートアクセス / 管理用にポート 5985 が開いている必要があります。
- クラスタまたはスタンドアロンハイパーバイザーの IP アドレスまたは FQDN。フローティングクラスタのホスト名または IP を使用する方法は、コレクタをクラスタ内の1つの特定のノードだけに指定する方法ではない可能性があります。
- クラスタ内のすべてのハイパーバイザーで機能する管理者レベルのユーザアカウント。
- WinRM を有効にし、すべてのハイパーバイザーでリスンする必要があります
- ポート要件：WMI 経由のポート 135 および Windows 2003 以前の場合は 1024~65535、Windows 2008 の場合は 49152~65535 の動的 TCP ポート。
- データコレクタが IP アドレスだけを参照している場合でも、DNS 解決は成功する必要があります
- 各 Hyper-V ハイパーバイザーでは、各ホスト上のすべての VM に対して「リソース計測」をオンにする必要があります。これにより、各ハイパーバイザーは、各ゲストで Cloud Insights に使用できるデータを増やすことができます。この値を設定しない場合は、各ゲストのパフォーマンスメトリックが取得される回数が少なくなります。リソース計測の詳細については、Microsoft の次のドキュメントを参照してください

い。

["Hyper-V のリソース計測の概要"](#)

["Enable - VMResourceMetering"](#)



Hyper-V データコレクタには Windows Acquisition Unit が必要です。

設定

フィールド	説明
クラスタIPアドレスまたはフローティングクラスタFQDN	クラスタのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名、またはスタンドアロンの非クラスタハイパーバイザー
ユーザ名	ハイパーバイザーの管理者のユーザ名です
パスワード	ハイパーバイザーのパスワードです
DNSドメインサフィックス	ハイパーバイザーのFQDNをレンダリングするために単純なホスト名と組み合わせたホスト名サフィックス

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは20分です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

ネットアップ

ONTAP 9.9 以上のデータコレクタ向けのネットアップクラウド接続

このデータコレクタは、ONTAP 9.9 以上の CVO 、 AFF 、 FAS システムからのデータ収集をサポートするクラウド接続を作成します。



このデータコレクタは、2023年4月4日をもってCloud Insightsにインストールできなくなり、2023年7月にすべてのCloud Insightsインストールから削除される予定です。AUベースのデータ収集への移行については、を参照してください ["ナレッジベース"](#)。

NetApp Cloud Volumes ONTAP データコレクタ

このデータコレクタは、Cloud Volumes ONTAP 構成からのインベントリ収集をサポートします。

設定

フィールド	説明
ネットアップ管理 IP アドレス	クラウドボリューム ONTAP の IP アドレス
ユーザ名	Cloud Volumes ONTAP のユーザ名
パスワード	上記のユーザのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	HTTPS を推奨。にはデフォルトのポートも表示されます。
通信ポートをオーバーライドします	デフォルト以外の場合に使用するポート。
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは 60 分です。
インベントリの同時スレッド数	同時スレッド数。
HTTPS に TLS を強制します	HTTPS 経由で TLS を強制します
ネットグループを自動的に検索する	ネットグループを自動的に検索する
ネットグループの拡張	シェルまたはファイルを選択します
HTTP 読み取りタイムアウト秒数	デフォルトは 30 秒です
応答を UTF-8 として強制実行します	応答を UTF-8 として強制実行します
パフォーマンスポーリング間隔（分）	デフォルト値は 900 秒です。
パフォーマンス同時スレッド数	同時スレッド数。
高度なカウンタデータ収集	Cloud Insights が以下のリストから詳細な指標を収集するように設定するには、このチェックボックスをオンにします。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp Cloud Volume Services for AWS データコレクタ

このデータコレクタは、NetApp Cloud Volume Services for AWS 構成からのインベントリ収集をサポートします。

設定

フィールド	説明
Cloud Volume リージョン	NetApp Cloud Volume Services for AWS のリージョン
API キー	Cloud Volume API キー

フィールド	説明
シークレットキー	Cloud Volume シークレットキー

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは60分です

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
<p>次のようなエラーが表示されました。 '要求を実行できませんでした：<AWS region endpoint>：8080 [AWS <AWS region endpoint>/リージョンエンドポイントIP>]への接続に失敗しました：接続がタイムアウトしました：GET <a href="https://<AWSリージョンエンドポイントFQDN>：8080/v1/Storage/IPRanges HTTP/1.1">https://<AWSリージョンエンドポイントFQDN>：8080/v1/Storage/IPRanges HTTP/1.1</p>	<p>。"プロキシ" Cloud Insights がAcquisition Unitとの通信に使用するCloud Insights とData Collector自体との通信は行われません。ここでは、いくつかの方法を試すことができます。</p> <p>Acquisition UnitがFQDNを解決し、必要なポートに到達できることを確認します。 エラーメッセージに示されたエンドポイントにアクセスするためにプロキシが必要でないことを確認します。</p> <p>cURLを使用して、Acquisition Unitとエンドポイント間の通信をテストできます。このテストにプロキシを使用していない*ことを確認してください。</p> <p>例</p> <pre>root@acquisitionunit#curl -s -H accept: application/json -H "Content-type: application/json" -H api-key:<api key used in the data collector credentials> -H secret-key:<secret key used in the data collector credentials> -X get https://<AWSリージョンナルエンドポイント>：8080 / v1 /ストレージ/ IP範囲</pre> <p>を参照してください "ネットアップの技術情報アーティクル"。</p>

この Data Collector の追加情報は、から入手できます "[サポート](#)" ページまたはを参照してください "[Data Collector サポートマトリックス](#)"。

NetApp ONTAP データ管理ソフトウェアのデータコレクタ

このデータコレクタは、ONTAP アカウントからの読み取り専用の API 呼び出しを使用して、ONTAP を実行しているストレージシステムからインベントリとパフォーマンスのデータを取得します。このデータコレクタは、サポートを高速化するために、クラスターアプリケーションレジストリにレコードを作成します。

Cloud Insights は、ONTAP データコレクタからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
RAID グループ	ディスクグループ
クラスタ	ストレージ
ノード	ストレージノード
アグリゲート	ストレージプール
LUN	ボリューム
ボリューム	内部ボリューム

ONTAP データ管理の用語

ONTAP データ管理ストレージのアセットランディングページにあるオブジェクトや参考資料に関連する用語を次に示します。これらの用語の多くは、他のデータコレクタにも適用されます。

ストレージ

- **model** –このクラスタ内で一意のディスクリットノードのモデル名をカンマで区切って指定します。クラスタ内のすべてのノードのモデルタイプが同じ場合、表示されるモデル名は 1 つだけです。
- **Vendor** –新しいデータソースを設定する場合に表示されるベンダー名と同じです。
- **Serial Number** –アレイのシリアル番号。ONTAP データ管理などのクラスタアーキテクチャストレージシステムでは、このシリアル番号は個々の「ストレージノード」のシリアル番号よりも有用性が低い場合があります。
- **IP** –一般に、データソースで設定されている IP またはホスト名です。
- **マイクロコードバージョン** –ファームウェア。
- **raw 容量** –システム内のすべての物理ディスクの合計 2 進数で、役割に関係なく加算されます。
- **レイテンシ** –読み取りと書き込みの両方について、ワークロードが直面しているホストの状況が表示されます。Cloud Insights がこの値を直接調達するのが理想的ですが、これは多くの場合ではありません。Cloud Insights は、このアップを提供するアレイの代わりに、通常、個々の内部ボリュームの統計情報から導出される IOPS 加重計算を実行します。
- **スループット** –内部ボリュームから集約されたもの。
管理 –デバイスの管理インターフェイスのハイパーリンクが含まれている可能性があります。Cloud Insights データソースによって、インベントリレポートの一部としてプログラムによって作成されます。

ストレージプール

- **storage** –このプールのストレージアレイの場所。必須。
- **Type** –可能性のリストから説明的な値を入力します。最も一般的な構成は、「集約」または「RAID グループ」です。

- ノード：プールが特定のストレージノードに属するようなストレージアレイのアーキテクチャの場合、その名前は、そのストレージアレイのランディングページへのハイパーリンクとして表示されます
- Flash Pool を使用–値はあり / いいえ–この SATA / SAS ベースのプールでは、SSD をキャッシュ高速化に使用していますか？
- 冗長性– RAID レベルまたは保護方式。raid_dp はデュアルパリティ、raid_dp はトリプルパリティです。
- 容量–使用済みの論理容量、使用可能な容量、および合計論理容量の値と、これらの要素で使用されている割合の値が表示されます。
- オーバーコミット容量–効率化テクノロジーを使用して、ストレージプールの論理容量よりも大きいボリュームまたは内部ボリュームの容量の合計を割り当てている場合、この割合は 0% よりも大きくなります。
- スナップショット–スナップショット専用のセグメント領域にストレージプールアーキテクチャが容量の一部を割り当てている場合に使用されるスナップショット容量と合計容量。MetroCluster 構成の ONTAP はこのような構成を示しますが、それ以外の ONTAP 構成はそうではありません。
- 利用率–このストレージプールに容量を追加しているディスクのビジー率の最大値を示した割合。ディスク利用率にアレイのパフォーマンスとの間に大きな相関関係があるとは限りません。ホストベースのワークロードがない場合は、ディスクのリビルドや重複排除処理などが原因で、利用率が高くなる可能性があります。また、多くのアレイのレプリケーション実装では、内部ボリュームやボリュームのワークロードとしては表示されずにディスク使用率が向上する場合があります。
- IOPS –このストレージプールに容量の要因となっているすべてのディスクの合計 IOPS。
Throughput –このストレージプールの容量の要因となっているすべてのディスクの合計スループット。

ストレージノード

- Storage –このノードが属するストレージアレイ。必須。
- HA パートナー–通常、一方のノードだけにフェイルオーバーするプラットフォームでは、この画面が表示されます。
- State –ノードの健全性。アレイが正常な状態でデータソースでインベントリを作成できる場合にのみ使用できます。
- model - ノードのモデル名。
- Version : デバイスのバージョン名。
- シリアル番号–ノードのシリアル番号。
- メモリ–ベース 2 のメモリがあればそれ。
- 使用率– ONTAP では、これは独自のアルゴリズムのコントローラ応力インデックスです。パフォーマンスポーリングが行われるたびに、WAFL ディスクの競合率または平均 CPU 利用率の値が 0 ~ 100% の範囲で報告されます。継続的に測定される値が 50% を超えている場合は、サイジングが不十分であることを示します。コントローラやノードのサイズが十分でないか、書き込みワークロードを吸収するのに十分な回転式ディスクが足りない可能性があります。
- IOPS –ノードオブジェクトの ONTAP ZAPI コールから直接取得されます。
- レイテンシー–ノードオブジェクトの ONTAP ZAPI コールから直接取得されます。
- スループット–ノードオブジェクトの ONTAP ZAPI コールから直接取得されます。
- プロセッサ–CPU 数。

要件

このデータコレクタを設定して使用するための要件は次のとおりです。

- 読み取り専用の API 呼び出し用に設定された管理者アカウントへのアクセス権が必要です。
- アカウントの詳細には、ユーザ名とパスワードが含まれます。
- ポートの要件： 80 または 443
- アカウントの権限：
 - デフォルトの SVM の ONTAPI アプリケーションに対する読み取り専用のロール名
 - オプションの書き込み権限が追加で必要になる場合があります。以下の「アクセス権に関する注意」を参照してください。
- ONTAP ライセンスの要件：
 - ファイバチャネル検出に必要な FCP ライセンスおよびマッピング / マスクされたボリューム

設定

フィールド	説明
ネットアップ管理 IP	ネットアップクラスタの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	ネットアップクラスタのユーザ名
パスワード	ネットアップクラスタのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	HTTP（デフォルトポート 80）または HTTPS（デフォルトポート 443）を選択します。デフォルトは HTTPS です
通信ポートをオーバーライドします	デフォルト以外のポートを使用する場合は、別のポートを指定します
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは 60 分です。
TLS では HTTPS を使用します	HTTPS を使用する場合にのみ TLS をプロトコルとして許可します
ネットグループを自動的に検索する	エクスポートポリシーのネットグループの自動検索を有効にします
ネットグループの拡張	ネットグループ拡張戦略： <code>FILE_</code> または <code>_SHELL_</code> を選択します。デフォルトは <code>_shell</code> です。
HTTP 読み取りタイムアウト秒数	デフォルトは 30 です
応答を UTF-8 として強制実行します	データコレクタコードに、CLI からの応答を UTF-8 であると解釈させます
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルト値は 900 秒です。

フィールド	説明
高度なカウンタデータ収集	ONTAP の統合を有効にします。ONTAP 詳細カウンタデータをポーリングに含める場合に選択します。リストから目的のカウンタを選択します。
クラスタスイッチ指標	Cloud Insightsでクラスタスイッチのデータを収集できるようにします。Cloud Insights側でこれを有効にするだけでなく、次の機能を提供するようにONTAPシステムを設定する必要があります。" スイッチ情報 "、およびが正しいことを確認します。 権限 は、スイッチデータをCloud Insightsに送信できるように設定されています。下記の「権限に関する注意事項」を参照してください。

ONTAPの電力メトリック

いくつかのONTAPモデルは、監視やアラートに使用できるCloud Insightsの電力メトリックを提供します。以下のサポートされているモデルとサポートされていないモデルのリストは包括的ではありませんが、いくつかのガイダンスを提供する必要があります。一般的に、モデルがリストのものと同じファミリーに属している場合、サポートは同じである必要があります。

サポートされるモデル：

A200
 A220
 A250
 A300 の比較
 A320
 A400
 A700
 A700s
 A800
 A900
 C190
 FAS2240-4
 FAS2552
 FAS2650
 FAS2720
 FAS2750
 FAS8200
 FAS8300
 FAS8700
 FAS9000

サポートされていないモデル：

FAS2620
 FAS3250
 FAS3270
 FAS500f
 FAS6280
 FAS / AFF 8020
 FAS / AFF 8040

アクセス権に関する注意事項

多くの Cloud Insights の ONTAP ダッシュボードは高度な ONTAP カウンタに依存するため、データコレクタの詳細設定セクションで * 高度なカウンタデータ収集 * を有効にする必要があります。

また、ONTAP API への書き込み権限が有効になっていることも確認する必要があります。通常は、必要な権限を持つアカウントがクラスタレベルで必要になります。

クラスタレベルで Cloud Insights のローカルアカウントを作成するには、クラスタ管理者のユーザ名とパスワードを使用して ONTAP にログインし、ONTAP サーバで次のコマンドを実行します。

1. 作業を開始する前に、_Administrator_account および _diagnostic-level コマンド _ を使用して ONTAP にサインインする必要があります。
2. 次のコマンドを使用して、読み取り専用ロールを作成します。

```
security login role create -role ci_readonly -cmddirname DEFAULT -access  
readonly  
security login role create -role ci_readonly -cmddirname security  
-access readonly  
security login role create -role ci_readonly -access all -cmddirname  
{cluster application-record create}
```

3. 次のコマンドを使用して、読み取り専用ユーザを作成します。create コマンドを実行すると、このユーザのパスワードを入力するように求められます。

```
security login create -username ci_user -application ontapi  
-authentication-method password -role ci_readonly
```

AD / LDAP アカウントを使用する場合は、コマンドをに設定します

```
security login create -user-or-group-name DOMAIN\aduser/adgroup  
-application ontapi -authentication-method domain -role ci_readonly  
クラスタスイッチのデータを収集する場合は、次の作業を行います。
```

```
security login rest-role create -role ci_readonly -api  
/api/network/ethernet -access readonly  
作成されるロールとユーザログインは次のようになります。実際の出力は以下のように異なる場合  
があります
```

```

Role Command/ Access
Vserver Name Directory Query Level
-----
cluster1 ci_readonly DEFAULT read only
cluster1 ci_readonly security readonly

```

```

cluster1::security login> show
Vserver: cluster1
Authentication Acct
UserName      Application      Method      Role Name      Locked
-----
ci_user       ontapi           password    ci_readonly    no

```



ONTAPアクセス制御が正しく設定されていないと、Cloud Insights REST呼び出しが失敗し、デバイスのデータにギャップが生じる可能性があります。たとえば、Cloud Insightsコレクタで有効にしている、ONTAPで権限を設定していない場合、取得は失敗します。また、ロールが以前にONTAPで定義されていて、残りのAPI機能を追加する場合は、_http_がロールに追加されていることを確認してください。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
401 HTTP 応答または 13003 ZAPI エラーコードを受信し、ZAPI から「Insufficient privileges」または「Not authorized for this command」が返される	ユーザ名とパスワード、およびユーザの権限と権限を確認してください。
クラスタバージョンが 8.1 より前である必要があります	クラスタでサポートされる最小バージョンは 8.1 です。サポートされる最小バージョンにアップグレードしてください。
ZAPI から「cluster role is not cluster_mgmt LIF」が返される	AU はクラスタ管理 IP と通信する必要があります。IP を確認し、必要に応じて別の IP に変更してください
エラー：「7-Mode のストレージシステムはサポートされていません」	この問題は、このデータコレクタを使用して 7-Mode ファイラーを検出した場合に発生することがあります。IP を変更して、代わりに cdot クラスタを指すようにします。
ZAPI コマンドの再試行後に失敗する	AU でクラスタとの通信に問題があります。ネットワーク、ポート番号、および IP アドレスを確認してください。また、AU マシンのコマンドラインからもコマンドを実行しようとします。

問題	次の操作を実行します
AU が HTTP 経由で ZAPI に接続できませんでした	ZAPI ポートでプレーンテキストが受け入れられるかどうかを確認します。AU が SSL ソケットにプレーンテキストを送信しようとする、通信に失敗します。
SSLException で通信が失敗します	AU が Filer 上のプレーンテキストポートに SSL を送信しようとしています。ZAPI ポートで SSL を受け入れるか、別のポートを使用するかを確認します。
追加の接続エラー： ZAPI 応答のエラーコード 13001：「database is not open」 ZAPI エラーコードが 60 で、応答に「API did not finish on time」が含まれている ZAPI の応答に「initialize_session () returned NULL environment」が含まれる ZAPI エラーコードが 14007 で、応答に「Node is not healthy」が含まれている	ネットワーク、ポート番号、および IP アドレスを確認してください。また、AU マシンのコマンドラインからもコマンドを実行しようとします。

パフォーマンス

問題	次の操作を実行します
「ZAPI からパフォーマンスを収集できませんでした」というエラーが表示される	これは通常、perf stat が実行されていないことが原因です。各ノードで次のコマンドを実行します。 <pre>>_system node systemshell -node *-command"spmctl -h cmd-stop ; spmctl -h cmd-exec"__</pre>

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp Data ONTAP 7-Mode データコレクタ

Data ONTAP 7-Mode を使用するストレージシステムでは、7-Mode のデータコレクタを使用します。このコレクタでは、CLI を使用して容量とパフォーマンスのデータを取得します。

用語集

Cloud Insights では、NetApp 7-Mode データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。



このデータコレクタはです **"非推奨"**。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
RAID グループ	ディスクグループ
ストレージシステム	ストレージ
ストレージシステム	ストレージノード
アグリゲート	ストレージプール
LUN	ボリューム
ボリューム	内部ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定して使用するには、次の情報が必要です。

- FAS ストレージコントローラおよびパートナーの IP アドレス。
- ポート443
- 7-Mode 用の次のロール権限を持つコントローラとパートナーコントローラのカスタムの管理者レベルのユーザ名とパスワードです。
 - 「api- *」：すべてのネットアップストレージ API コマンドの実行を OnCommand Insight に許可します。
 - 「login-http-admin」：HTTP 経由で OnCommand Insight がネットアップストレージに接続できるようにします。
 - 「security-api-vfiler」：vFiler ユニットの情報を取得する NetApp ストレージ API コマンドの実行を OnCommand Insight に許可します。
 - 「cli-options」：ストレージシステムオプションを読み取るために使用します。
 - 「cli-lun」：LUN 管理用コマンドにアクセスします。指定した LUN または LUN のクラスのステータス（LUN のパス、サイズ、オンライン / オフライン状態、共有状態）が表示されます。
 - 「cli-df」：空きディスクスペースを表示する場合に使用します。
 - 「cli-ifconfig」：インターフェイスと IP アドレスを表示します。

設定

フィールド	説明
ストレージシステムのアドレス	ネットアップストレージシステムの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
ユーザ名	ネットアップストレージシステムのユーザ名
パスワード	ネットアップストレージシステムのパスワード
クラスターの HA パートナーのアドレス	HA パートナーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名

フィールド	説明
クラスタの HA パートナーのユーザ名	HA パートナーのユーザ名
クラスタ内の HA パートナーファイラーのパスワード	HA パートナーのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは20分です。
接続タイプ	HTTPS または HTTP では、デフォルトのポートも表示されます
接続ポートを上書きします	空白の場合は、[Connection Type] フィールドでデフォルトのポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

ストレージシステム接続

このデータコレクタにデフォルトの管理ユーザを使用する代わりに、NetApp ストレージシステムに対する管理者権限を持つユーザを設定して、このデータコレクタがネットアップストレージシステムからデータを取得できるようにすることができます。

ネットアップストレージシステムに接続するには、メインの pfiler（ストレージシステムが存在する pfiler）の取得時に次の条件を満たすユーザを指定する必要があります。

- ユーザは vfiler0（ルートファイラー / pfiler）に属している必要があります。

メインの pfiler を取得するときにストレージシステムが取得されます。

- 次のコマンドで、ユーザロールの機能を定義します。
 - 「api-＊」：すべてのネットアップストレージ API コマンドの実行を Cloud Insights に許可します。

このコマンドは、ZAPI を使用する場合は必須です。

- 「login-http-admin」：HTTP 経由で Cloud Insights がネットアップストレージに接続できるようにします。このコマンドは、ZAPI を使用する場合は必須です。
- 「security-api-vfiler」：vFiler ユニットの情報を取得する NetApp ストレージ API コマンドの実行を Cloud Insights に許可します。
- 「cli-options」：「options」コマンドで、パートナーの IP と有効なライセンスを取得するために使用されます。
- 「cli-lun」：LUN 管理用コマンドにアクセスします。指定した LUN または LUN のクラスのステータス（LUN のパス、サイズ、オンライン / オフライン状態、共有状態）が表示されます。
- 「cli-df」：「df -s」、「df -r」、「df -A -r」コマンドで、空きスペースを表示するために使用されます。
- 「cli-ifconfig」：「ifconfig -a」コマンドで、ファイラーの IP アドレスを取得するために使用されま

す。

- 「cli-rdfile」：「rdfile /etc/netgroup」コマンドで、ネットグループを取得するために使用されます。
- 「cli-date」：「date」コマンドで、Snapshot コピーを取得する完全な日付を取得するために使用されます。
- 「cli-snap」：「snap list」コマンドで、Snapshot コピーを取得するために使用されます。

cli-date または cli-snap の権限が付与されていない場合、データ収集は完了できますが、Snapshot コピーは報告されません。

7-Mode データソースを正常に取得し、ストレージシステムで警告が生成されないようにするには、次のいずれかのコマンド文字列を使用してユーザロールを定義する必要があります。2 つ目の文字列は、1 つ目の文字列を簡潔に表したものです。

- login-http-admin、api-*、security-api-vFile、cli-rdfile、cli-options、cli-df、cli-lun、cli-ifconfig、cli-date、cli-snap、_
- login-http-admin、api-*、security-api-vFile、cli-

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
401 HTTP 応答または 13003 ZAPI エラーコードを受信し、ZAPI から「Insufficient privileges」または「Not authorized for this command」が返される	ユーザ名とパスワード、およびユーザの権限と権限を確認してください。
「コマンドの実行に失敗しました」エラー	ユーザーがデバイスに対して次の権限を持っているかどうかを確認します。 <ul style="list-style-type: none">•API-*•cli-date•cli-df•cli-ifconfig•CLI - LUN•CLI操作•cli-rdfile•CLISナップ•login-http-admin•security-api-vfiler また、ONTAPバージョンがCloud Insightsでサポートされているかどうかを確認し、使用するクレデンシャルがデバイスのクレデンシャルと一致するかどうかを確認します
クラスタバージョンが 8.1 より前である必要があります	クラスタでサポートされる最小バージョンは 8.1 です。サポートされる最小バージョンにアップグレードしてください。

問題	次の操作を実行します
ZAPI から「 cluster role is not cluster_mgmt LIF 」が返される	AU はクラスタ管理 IP と通信する必要があります。IP を確認し、必要に応じて別の IP に変更してください
エラー：「 7-Mode のストレージシステムはサポートされていません」	この問題は、このデータコレクタを使用して 7-Mode ファイラーを検出した場合に発生することがあります。代わりに、IP を cdot ファイラーを指すように変更してください。
ZAPI コマンドの再試行後に失敗する	AU でクラスタとの通信に問題があります。ネットワーク、ポート番号、および IP アドレスを確認してください。また、AU マシンのコマンドラインからもコマンドを実行しようとします。
AU が ZAPI に接続できませんでした	IP/ ポートの接続を確認し、ZAPI の設定をアサートします。
AU が HTTP 経由で ZAPI に接続できませんでした	ZAPI ポートでプレーンテキストが受け入れるかどうかを確認します。AU が SSL ソケットにプレーンテキストを送信しようとする、通信に失敗します。
SSLException で通信が失敗します	AU が Filer 上のプレーンテキストポートに SSL を送信しようとしています。ZAPI ポートで SSL を受け入れるか、別のポートを使用するかを確認します。
追加の接続エラー： ZAPI 応答のエラーコード 13001：「database is not open」 ZAPI エラーコードが 60 で、応答に「API did not finish on time」が含まれている ZAPI の応答に「initialize_session () returned NULL environment」が含まれる ZAPI エラーコードが 14007 で、応答に「Node is not healthy」が含まれている	ネットワーク、ポート番号、および IP アドレスを確認してください。また、AU マシンのコマンドラインからもコマンドを実行しようとします。
ZAPI でソケットタイムアウトエラーが発生しました	ストレージシステムの接続を確認するか、タイムアウトを延長してください。
「 7-Mode データソースでは C モードクラスタはサポートされません」エラーが表示されます	IP をチェックし、IP を 7-Mode クラスタに変更してください。
「 Failed to connect to vFiler 」というエラーが表示されます	取得するユーザ機能に少なくとも次のものが含まれていることを確認します。 API -* security-api-vfiler の略 login-http-admin をクリックします Filer で実行されている ONTAPI バージョン 1.7 以上を確認します。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp E シリーズのデータコレクタ

NetApp E シリーズデータコレクタは、インベントリとパフォーマンスのデータを収集します。コレクタは、同じ設定を使用して同じデータを報告するファームウェア 7.x 以上をサポートしています。

用語集

Cloud Insight では、NetApp E シリーズデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	ディスク
ボリュームグループ	ディスクグループ
ストレージアレイ	ストレージ
コントローラ	ストレージノード
ボリュームグループ	ストレージプール
ボリューム	ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

E シリーズの用語（ランディングページ）

NetApp E シリーズのアセットランディングページにあるオブジェクトや参考資料に関連する用語を次に示します。これらの用語の多くは、他のデータコレクタにも適用されます。

ストレージ

- Model – デバイスのモデル名。
- Vendor : 新しいデータソースを設定する場合に表示されるベンダー名と同じです
- Serial Number – アレイのシリアル番号。NetApp clustered Data ONTAP などのクラスタアーキテクチャストレージシステムでは、このシリアル番号は個々の「ストレージノード」のシリアル番号よりも便利でない場合があります
- IP – 一般に、データソースで設定されている IP またはホスト名です
- マイクロコードバージョン–ファームウェア
- raw 容量–システム内のすべての物理ディスクの合計 2 進数で、役割に関係なく加算されます
- レイテンシ–読み取りと書き込みの両方について、ワークロードが直面しているホストの状況が表示されます。Cloud Insights がこの値を直接調達するのが理想的ですが、これは多くの場合ではありません。Cloud Insights は、このアップを提供するアレイの代わりに、通常、個々のボリュームの統計情報から導出される IOPS 加重計算を実行します。
- スループット–アレイのホスト側のスループットの合計理想的にはアレイから直接ソースを取得し、使用できない場合は、Cloud Insights がボリュームのスループットを合計してこの値を算出します

- 管理-デバイスの管理インターフェイスのハイパーリンクが含まれている可能性があります。インベントリレポートの一部として、Cloud Insights データソースによってプログラムによって作成されます

ストレージプール

- storage –このプールのストレージアレイの場所。必須
- Type –可能性のリストから説明的な値を入力します。最も一般的な構成は、「シン・プロビジョニング」または「RAID グループ」です。
- ノード：プールが特定のストレージノードに属するようなストレージアレイのアーキテクチャの場合、その名前は、そのストレージアレイのランディングページへのハイパーリンクとして表示されます
- Flash Pool を使用します。値はありますか、いいえです
- 冗長性- RAID レベルまたは保護方式。E シリーズでは、DDP プールの場合は「RAID 7」と報告されます
- 容量-使用済みの論理容量、使用可能な容量、および合計論理容量の値と、これらの要素で使用されている割合の値が表示されます。これらの値には、E シリーズの「予約済み」容量が含まれ、E シリーズのユーザインターフェイスで表示される値よりも数値と割合が高くなります
- オーバーコミット容量-効率化テクノロジーを使用して、ストレージプールの論理容量を超えるボリュームまたは内部ボリュームの合計容量を割り当てている場合、この割合の値は 0% を超えます。
- スナップショット-スナップショット専用のセグメント領域にストレージプールアーキテクチャが容量の一部を割り当てている場合に使用されるスナップショット容量と合計容量
- 利用率-このストレージプールに容量を追加しているディスクのビジー率の最大値を示した割合。ディスク利用率にアレイのパフォーマンスとの間に大きな相関関係があるとは限りません。ホストベースのワークロードがない場合は、ディスクのリビルドや重複排除処理などが原因で、利用率が高くなる可能性があります。また、多くのアレイのレプリケーション実装では、ボリュームワークロードとして表示されずにディスク使用率が向上する場合があります。
- IOPS –このストレージプールに容量の要因となっているすべてのディスクの合計 IOPS。特定のプラットフォームのディスク IOPS がない場合、この値は、このストレージプールにあるすべてのボリュームのボリューム IOPS の合計から取得されます
- Throughput –このストレージプールの容量の要因となっているすべてのディスクの合計スループット。特定のプラットフォームでディスクスループットを使用できない場合は、このストレージプールに配置されているすべてのボリュームの合計ボリューム数がこの値に基づいて算出されます

ストレージノード

- Storage –このノードが属するストレージアレイ。必須
- HA パートナー-通常、一方のノードだけにフェイルオーバーするプラットフォームでは、この画面が表示されます
- State –ノードの健全性。アレイが正常な状態でデータソースでインベントリを作成できる場合にのみ使用できます
- model - ノードのモデル名
- Version : デバイスのバージョン名。
- シリアル番号-ノードのシリアル番号
- メモリ-ベース 2 のメモリがあればそれ

- 利用率–通常は CPU 利用率番号、または NetApp ONTAP の場合はコントローラに負荷がかかる指標。現在、NetApp E シリーズでは利用率を利用できません
- IOPS –このコントローラのホスト主導の IOPS を表す数値。理想的なソースはアレイから直接取得され、使用できない場合は、このノードにのみ所属するボリュームのすべての IOPS を合計して算出されます。
- Latency –このコントローラのホストのレイテンシまたは応答時間を表す数値。使用できない場合はアレイから直接ソースを取得し、このノードにのみ所属するボリュームから IOPS の重み付き計算を実行することを推奨します。
- Throughput –このコントローラのホストで実行されるスループットを示す数値です。理想的なソースはアレイから直接取得され、使用できない場合は、このノードにのみ所属するボリュームのすべてのスループットを合計して算出されます。
- プロセッサ–CPU 数

要件

- アレイの各コントローラの IP アドレス
- ポート要件 2463

設定

フィールド	説明
アレイ SANtricity コントローラの IP をカンマで区切ったリスト	アレイコントローラの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは30分です
パフォーマンスポーリング間隔（最大 3600 秒）	デフォルトは300秒です

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp HCI 管理サーバのデータコレクタの設定

NetApp HCI 管理サーバデータコレクタは、NetApp HCI ホスト情報を収集します。管理サーバ内のすべてのオブジェクトに対する読み取り専用の権限が必要です。

このデータコレクタは、* NetApp HCI 管理サーバのみ * から取得します。ストレージシステムからデータを収集するには、も設定する必要があります ["NetApp SolidFire"](#) データコレクタ：

用語集

Cloud Insights では、このデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
仮想ディスク	ディスク
ホスト	ホスト
仮想マシン	仮想マシン
データストア	データストア
LUN	ボリューム
ファイバ・チャネル・ポート	ポート

これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているとは限りません

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- NetApp HCI 管理サーバの IP アドレス
- NetApp HCI 管理サーバの読み取り専用のユーザ名とパスワード
- NetApp HCI 管理サーバ内のすべてのオブジェクトに対する読み取り専用権限。
- NetApp HCI 管理サーバ上の SDK へのアクセス - 通常はセットアップ済みです。
- ポート要件： http - 80 https-443
- アクセスの検証：
 - 上記のユーザ名とパスワードを使用して、NetApp HCI 管理サーバにログインします
 - SDK が有効になっていることを確認します。telnet <VC_IP> 443

セットアップと接続

フィールド	説明
名前	データコレクタの一意の名前
Acquisition Unit の場合	Acquisition Unit の名前

設定

フィールド	説明
NetApp HCI ストレージクラスタの MVIP	管理仮想 IP アドレス
SolidFire 管理ノード (mNode)	管理ノードの IP アドレス
ユーザ名	NetApp HCI 管理サーバへのアクセスに使用するユーザ名
パスワード	NetApp HCI 管理サーバへのアクセスに使用するパスワード
vCenter ユーザ名	vCenter のユーザ名

フィールド	説明
vCenter のパスワード	vCenter のパスワード

高度な設定

詳細設定画面で、VM パフォーマンス * ボックスをオンにしてパフォーマンスデータを収集します。インベントリ収集は、デフォルトで有効になっています。

次のフィールドを設定できます。

フィールド	説明
インベントリのポーリング間隔（分）	デファントは 20 歳です
で VM をフィルタリングします	クラスタ、データセンター、または ESX ホストを選択します
「除外」または「含める」を選択してリストを指定します	VM を含めるか除外するかを指定します
デバイスリストをフィルタリングします	フィルタリングする VM のリスト（カンマ区切り、値にカンマを使用する場合はセミコロンで区切った）。ESX_host、クラスタ、およびデータセンターでのみフィルタリングします
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）	デフォルト値は 300 です

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー：フィルタリングする VM をリストに含めることはできません	[Include List] を選択した場合は、有効なデータセンター、クラスタ、またはホスト名をリストして、VM をフィルタリングしてください
エラー：IP で VirtualCenter への接続をインスタンス化できませんでした	考えられる解決策： * 入力された資格情報と IP アドレスを確認してください。 * Infrastructure Client を使用して、Virtual Center と通信してみてください。 * Managed Object Browser （MOB など）を使用して Virtual Center と通信してみます。

問題	次の操作を実行します
エラー：IP の VirtualCenter には、JVM で必要な非準拠の証明書があります	考えられる解決策： *推奨：より強力なRSAキー（1024ビットなど）を使用して、Virtual Center用の証明書を再生成します。 * 推奨されません。JVM java.security 設定を変更して、JDK.certPath.disableAlgorithms 制約を利用し、512 ビット RSA キーを許可します。「JDK 7 update 40 release notes」を参照してください "http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/7u40-relnotes-2004172.html"

追加情報はから入手できます "[サポート](#)" ページまたはを参照してください "[Data Collector サポートマトリックス](#)"。

NetApp SolidFire オールフラッシュアレイデータコレクタ

NetApp SolidFire オールフラッシュアレイデータコレクタは、iSCSI と Fibre Channel の両方の SolidFire 構成からのインベントリとパフォーマンスの収集をサポートします。

SolidFire データコレクタでは、SolidFire REST API を使用します。データコレクタが配置されている Acquisition Unit から、SolidFire クラスタ管理 IP アドレス上の TCP ポート 443 への HTTPS 接続を開始する必要があります。データコレクタには、SolidFire クラスタに対して REST API クエリを実行するためのクレデンシャルが必要です。

用語集

Cloud Insights では、NetApp SolidFire All-Flash Array データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ドライブ	ディスク
クラスタ	ストレージ
ノード	ストレージノード
ボリューム	ボリューム
ファイバ・チャネル・ポート	ポート
ボリュームアクセスグループ、LUN の割り当て	ボリュームマップ
iSCSI セッション	ボリュームマスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

このデータコレクタを設定するための要件は次のとおりです。

- 管理仮想 IP アドレス
- 読み取り専用のユーザ名とクレデンシャル
- ポート443

設定

フィールド	説明
管理仮想 IP アドレス（MVIP）	SolidFire クラスタの管理仮想 IP アドレス
ユーザ名	SolidFire クラスタへのログインに使用するユーザ名
パスワード	SolidFire クラスタへのログインに使用するパスワード

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	接続タイプを選択します
通信ポート	NetApp API に使用するポート
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは 20 分です
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは300秒です

トラブルシューティング

SolidFire からエラーが報告されると、Cloud Insights に次のように表示されます。

データの取得中に SolidFire デバイスからエラーメッセージを受信しました。呼び出しは <method>（<parameterString>）でした。デバイスからのエラーメッセージは次のとおりです（デバイスマニュアルを確認してください）。<message>_

ここで、

- method> は、GET や PUT などの HTTP メソッドです。
- parameterString> は、REST 呼び出しに含まれていたパラメータをカンマで区切ったリストです。
- <message> は、エラーメッセージとして返されたデバイスです。

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

NetApp StorageGRID データコレクタ

NetApp StorageGRID データコレクタでは、StorageGRID 構成からのインベントリやパフォーマンスの収集がサポートされます。



StorageGRID は、raw TB から管理対象ユニットへのレートが異なる場合に測定されます。フォーマットされていない StorageGRID の容量が 40TB 個になると、1 個のスペースが請求されます **"管理ユニット (MU)"**。

用語集

Cloud Insights では、NetApp StorageGRID コレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
StorageGRID	ストレージ
ノード	ノード
テナント	ストレージプール
バケット	内部ボリューム

要件

このデータソースの設定に関する要件は次のとおりです。

- StorageGRID ホストの IP アドレス
- Metric Query ロールとテナントアクセスロールが割り当てられているユーザのユーザ名とパスワード
- ポート443

設定

フィールド	説明
StorageGRID ホストの IP アドレス	StorageGRID アプライアンスの管理仮想 IP アドレス
ユーザ名	StorageGRID アプライアンスへのログインに使用する名前
パスワード	StorageGRID アプライアンスへのログインに使用するパスワード

高度な設定

フィールド	説明
インベントリポーリング間隔（分）	デフォルトは60分です
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは900秒です

シングルサインオン（SSO）

。"StorageGRID" ファームウェアバージョンには対応する API バージョンがあり、3.0 API 以降のバージョンではシングルサインオン（SSO）ログインがサポートされています。

ファームウェアバージョン	API のバージョン	シングルサインオン（SSO）のサポート
11.1.	2.	いいえ
11.2.	3.0	はい。
11.5.	3.3	はい。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Nutanix NX データコレクタ

Cloud Insights は、Nutanix データコレクタを使用して、Nutanix NX ストレージシステムのインベントリとパフォーマンスのデータを検出します。

用語集

Cloud Insights は、Nutanix データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ストレージプール	ストレージプール
Nutanix コンテナ	内部ボリューム
Nutanix コンテナ	ファイル共有
NFS 共有	共有

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- クラスタの外部データサービスの IP アドレス
- volume_groups が使用されていないかぎり、読み取り専用のユーザ名とパスワード。この場合は、Admin ユーザ名とパスワードが必要です
- ポート要件： HTTPS 443

設定

フィールド	説明
ブリズム外部 IP アドレス	クラスタの外部データサービスの IP アドレス
ユーザ名	管理者アカウントのユーザ名
パスワード	管理者アカウントのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
TCP ポート	Nutanix アレイへの接続に使用する TCP ポート。デフォルトは 9440. です。
インベントリのポーリング間隔（分）	インベントリのポーリング間隔。デフォルトは60分です。
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）	パフォーマンスのポーリング間隔デフォルトは300秒です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

OpenStack データコレクタ

OpenStack （ REST API / KVM ） データコレクタは、すべての OpenStack インスタンスのインベントリデータ、および必要に応じて VM のパフォーマンスデータを取得します。

要件

- OpenStack コントローラの IP アドレス
- OpenStack admin ロールのクレデンシャルと Linux KVM ハイパーバイザーへの sudo アクセス。admin アカウントや admin 相当の権限を使用していない場合は、データコレクタユーザ ID に基づいて緩和するデフォルトポリシーを特定するために、トライアルとエラーを使用する必要があります。
- パフォーマンス収集用にOpenStack Gnocchiモジュールをインストールして設定する必要があります。Gnocchiの設定は、各ハイパーバイザーのNova.confファイルを編集し、各ハイパーバイザーでNova Computeサービスを再起動することで行います。オプション名は、OpenStack の各リリースで変更されています。
 - Icehouse のあるホテル
 - Juno 社
 - キロ
 - リバティー
 - 三鷹
 - ニュートン
 - 八幡市
- CPU の統計情報の場合、コンピューティングノードの /etc/nova/nover.conf で [compute_monitors = ComputeDriverCPUMonitor] をオンにする必要があります。
- ポート要件
 - HTTP は 5000 、 Keystone サービスは 13000 、 HTTPS は 13000 です
 - KVM SSH の場合は 22

- Nova Compute Service の場合は 8774
 - Cinder ブロックサービスの場合は 8776
 - 8777 (ニョッキ・パフォーマンス・サービス用)
 - Glance Image Serviceの場合は9292
- *注*ポートは特定のサービスにバインドされ、大規模な環境ではコントローラまたは別のホストでサービスを実行できます。

設定

フィールド	説明
OpenStack Controller の IP アドレス	OpenStack Controller の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名
OpenStack 管理者	OpenStack 管理者のユーザ名
OpenStack パスワード	OpenStack 管理に使用するパスワード
OpenStack 管理者のテナント	OpenStack 管理者のテナント名
KVM sudo ユーザー	KVM Sudo ユーザー名
クレデンシャルタイプを指定するには、「Password」または「OpenSSH Key File」を選択してください	SSH 経由でデバイスに接続するために使用されるクレデンシャルのタイプ
Inventory Private Key への完全パス	Inventory Private Key への完全パス
KVM sudo パスワード	KVM sudo パスワード

高度な設定

フィールド	説明
SSH を使用してハイパーバイザーのインベントリ検出を有効にし	SSH を使用してハイパーバイザーインベントリの検出を有効にする場合は、このチェックボックス
OpenStack 管理 URL のポート	OpenStack 管理 URL のポート
HTTPS を使用する	セキュア HTTP を使用する場合に選択します
SSHポート	SSH に使用するポート
SSH プロセスの再試行回数	インベントリの再試行回数
インベントリポーリング間隔 (分)	インベントリのポーリング間隔。 デフォルトは20分です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
「 Configuration error 」と表示され、「 Policy does not allow 」または「 You are not authorized 」というエラーメッセージが表示されます。	* IPアドレスを確認します * ユーザー名とパスワードを確認してください

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Oracle ZFS Storage Appliance データコレクタ

Cloud Insights では、 Oracle ZFS Storage Appliance データコレクタを使用してインベントリとパフォーマンスのデータを収集します。

用語集

Cloud Insights は 'Oracle ZFS データコレクタを使用してインベントリ情報を取得しますCloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク (SSD)	ディスク
クラスタ	ストレージ
コントローラ	ストレージノード
LUN	ボリューム
LUN マップ	ボリュームマップ
イニシエータ、ターゲット	ボリュームマスク
共有	内部ボリューム

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータソースのすべてのケースを表しているとは限りません。

要件

- ZFS Controller-1 および ZFS Controller-2 のホスト名
- 管理者のユーザー名とパスワード
- ポート要件： 215 HTTP/HTTPS

必要なパフォーマンス指標

Oracle ZFSアプライアンスを使用すると、ストレージ管理者はパフォーマンス統計をキャプチャするための柔軟性を大幅に高めることができます。Cloud Insights では、次の指標を収集するように設定されたハイアベイラビリティペアの各コントローラについて、_Each_が必要です。

- smb2.ops [共有]
- nfs3.ops [共有]

- nfs4.ops [共有]
- nfs4-1.ops [共有]

これらのいずれかまたはすべてのコントローラをキャプチャしないと、「内部ボリューム」のワークロードにCloud Insights が対応していないかレポートが作成されない可能性があります。

設定

フィールド	説明
ZFS Controller-1 ホスト名	ストレージコントローラ 1 のホスト名
ZFS Controller-2 Hostname (ZFSコントローラ2ホスト名) の略	ストレージコントローラ2のホスト名
ユーザ名	ストレージシステム管理者ユーザアカウントのユーザ名
パスワード	管理者ユーザアカウントのパスワード

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	HTTPS または HTTP では、デフォルトのポートも表示されます
接続ポートを上書きします	空白の場合は、[Connection Type] フィールドでデフォルトのポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
インベントリのポーリング間隔	デフォルトは 60 秒です
パフォーマンスポーリング間隔 (秒)	デフォルトは300です。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
" 無効なログイン資格情報 "	ZFS ユーザーアカウントとパスワードを検証します
「 Configuration error 」というエラーメッセージが表示され、「 REST Service is disabled 」というメッセージが表示されます。	このデバイスで REST サービスが有効になっていることを確認します。

問題	次の操作を実行します
「 Configuration error 」と表示され、「 User Unauthorized for command 」というエラーメッセージが表示される。	<p>特定のロール（「 advanced_analytics 」など）が原因である可能性があります。設定済みのユーザー <username> には含まれません。</p> <p>可能性のある解決策：</p> <ul style="list-style-type: none"> *読み取り専用ロールを持つユーザー\$ {user} のAnalytics（統計）スコープを修正します。 -[Configuration]→[Users]画面で、ロールの上にマウスを置き、ダブルクリックして編集を許可します - Scope（スコープ）ドロップダウンメニューからAnalytics（分析）を選択します。使用可能なプロパティのリストが表示されます。 -一番上のチェックボックスをクリックすると、3つのプロパティがすべて選択されます。 -右側の[追加]ボタンをクリックします。 -ポップアップウィンドウの右上にある[適用]ボタンをクリックします。ポップアップウィンドウが閉じます。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Pure Storage FlashArray データコレクタ

Cloud Insights は、 Pure Storage FlashArray データコレクタを使用してインベントリデータとパフォーマンスデータを収集します。

用語集

Cloud Insights では、アセットのタイプごとに、アセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ドライブ（SSD）	ディスク
配列	ストレージ
コントローラ	ストレージノード
ボリューム	ボリューム
LUN マップ	ボリュームマップ
イニシエータ、ターゲット	ボリュームマスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- ストレージシステムの IP アドレス
- Pure ストレージシステムの Administrator アカウントのユーザ名とパスワード。

- ポート要件： HTTP / HTTPS / 443

設定

フィールド	説明
FlashArray ホストの IP アドレス	ストレージシステムの IP アドレス
ユーザ名	admin 権限があるユーザ名
admin 権限があるアカウントのパスワード	パスワード

高度な設定

フィールド	説明
接続タイプ	HTTP または HTTPS を選択します。デフォルトのポートも表示されます。
TCP ポートを上書きします	空白の場合は、[Connection Type] フィールドでデフォルトのポートを使用します。それ以外の場合は、使用する接続ポートを入力します
インベントリのポーリング間隔（分）	デフォルトは 60 分です
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは300です

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
「Invalid login credentials」というエラーメッセージが表示され、「Policy does not allow」または「you are not authorized」が表示されます。	Pure http インターフェイスで Pure のユーザアカウントとパスワードを検証します

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Red Hat Virtualization データコレクタ

Cloud Insights では、Red Hat 仮想化データコレクタを使用して、仮想化された Linux および Microsoft Windows のワークロードからインベントリデータを収集します。

用語集

Cloud Insights では、アセットのタイプごとに、アセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
ディスク	仮想ディスク
ホスト	ホスト
仮想マシン	仮想マシン
ストレージドメイン	データストア
Logical Unit の略	LUN

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているわけではありません。

要件

- REST API を使用した RHEV サーバのポート 443 経由の IP アドレス
- 読み取り専用のユーザ名とパスワード
- RHEV バージョン 3.0+

設定

フィールド	説明
RHEV サーバの IP アドレス	ストレージシステムの IP アドレス
ユーザ名	admin 権限があるユーザ名
admin 権限があるアカウントのパスワード	パスワード

高度な設定

フィールド	説明
HTTPS 通信ポート	RHEV への HTTPS 通信に使用するポート
インベントリのポーリング間隔 (分)	デフォルトは20分です。

トラブルシューティング

この Data Collector の追加情報は、から入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

Rubrik CDM Data Collectorの略

Cloud Insights では、Rubrikデータコレクタを使用して、Rubrikストレージアプライアンスからインベントリデータとパフォーマンスデータを取得します。

用語集

Cloud Insights では、Rubrikデータコレクタから次のインベントリ情報を取得します。Cloud Insights では、取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
クラスタ	ストレージ、ストレージプール
ノード	ストレージノード
ディスク	ディスク

注：これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータソースのすべてのケースを表しているとは限りません。

要件

このデータコレクタを設定するには、次のものがが必要です。

- Cloud Insights Acquisition Unitは、TCPポート443からRubrikクラスタへの接続を開始します。クラスタごとに1つのコレクタ。
- RubrikクラスタのIPアドレス。
- クラスタのユーザ名とパスワード。
- ポート要件： HTTPS 443

設定

フィールド	説明
IP	RubrikクラスタのIPアドレス
ユーザ名	クラスタのユーザ名
パスワード	クラスタのパスワード

高度な設定

インベントリのポーリング間隔（分）	デフォルトは 60 です
パフォーマンスポーリング間隔（秒）	デフォルトは300です

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
複数のストレージが作成されているというメッセージを受け取りました。	クラスタが正しく設定されており、コレクタが単一のクラスタを参照していることを確認します。
ディスクAPIからより多くのデータが返されたという警告が表示されました	追加のデータを取得するには、サポートに確認してください。

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページまたはを参照してください ["Data Collector サポートマトリックス"](#)。

VMware vSphere データコレクタの設定

VMware vSphere 用のデータコレクタは ESX ホスト情報を収集し、Virtual Center 内のすべてのオブジェクトに対する読み取り専用の権限が必要です。

用語集

Cloud Insights では、VMware vSphere データコレクタから次のインベントリ情報を取得します。取得したアセットのタイプごとに、そのアセットに使用される最も一般的な用語が表示されます。このデータコレクタを表示またはトラブルシューティングするときは、次の用語に注意してください。

ベンダー / モデルの用語	Cloud Insights の用語
仮想ディスク	ディスク
ホスト	ホスト
仮想マシン	仮想マシン
データストア	データストア
LUN	ボリューム
ファイバ・チャネル・ポート	ポート

これらは一般的な用語の対応のみを示したものであり、このデータコレクタのすべてのケースを表しているとは限りません

要件

このデータコレクタを設定するには、次の情報が必要です。

- Virtual Center サーバの IP アドレス
- Virtual Center の読み取り専用のユーザ名とパスワード
- Virtual Center 内のすべてのオブジェクトに対する読み取り専用権限が必要です。
- Virtual Center サーバの SDK へのアクセス - 通常はすでにセットアップされています。
- ポート要件： http - 80 https-443
- アクセスの検証：
 - 上記のユーザ名とパスワードを使用して、Virtual Center Client にログインします
 - SDK が有効になっていることを確認します。telnet <VC_IP> 443

セットアップと接続

フィールド	説明
名前	データコレクタの一意の名前
Acquisition Unit の場合	Acquisition Unit の名前

設定

フィールド	説明
仮想センターの IP アドレス	Virtual Center の IP アドレス
ユーザ名	Virtual Center へのアクセスに使用するユーザ名
パスワード	Virtual Center へのアクセスに使用するパスワード

高度な設定

詳細設定画面で、VM パフォーマンス * ボックスをオンにしてパフォーマンスデータを収集します。インベントリ収集は、デフォルトで有効になっています。

次のフィールドを設定できます。

フィールド	説明
インベントリのポーリング間隔（分）	デフォルトは20です
VM をフィルタリングします	クラスタ、データセンター、または ESX ホストを選択します
「除外」または「含める」を選択してリストを指定します	フィルタリストの作成（クラスタ、データセンター、ESX_host）
再試行回数	デフォルトは3です
通信ポート	デフォルトは443です
デバイスリストのフィルタ ...	<p>このリストには完全な文字列一致のみが含まれている必要があります。esx_host でフィルタリングする場合は、Cloud Insights と vSphere の両方で報告される ESX ホストの正確な「名前」をカンマで区切って指定する必要があります。「名前」には、IP アドレス、単純なホスト名、または Fully Qualified Domain Name（FQDN；完全修飾ドメイン名）を指定できます。この名前は、これらのホストが vSphere に最初に追加されたときの命名方法によって決まります。</p> <p>クラスタでフィルタリングする場合、ハイパーバイザーでCIによって報告Cloud Insights されたCloud Insights形式のクラスタ名を使用する- Cloud Insights ではvSphereクラスタ名の先頭にvSphereデータセンター名が付き、フォワードスラッシュ「DC1/clusterA」がデータセンターDC1内のクラスタA内のハイパーバイザーでレポートされるクラスタ名です。</p>
パフォーマンスのポーリング間隔（秒）	デフォルト値は 300 です

Cloud Insights アノテーションへのVMware タグのマッピング

VMware データコレクタを使用すると、VMware で設定されているタグを Cloud Insights のアノテーションに入力できます。アノテーションには VMware タグとまったく同じ名前を付ける必要があります。Cloud Insights では、常に同じ名前のテキスト型アノテーションが入力され、他の型（数値、ブーリアンなど）のアノテーションの入力が「最良の試行」となります。アノテーションのタイプが異なるためにデータコレクタにデータを

入力できない場合は、アノテーションを削除してテキストタイプで再作成する必要があります。

VMwareタグでは大文字と小文字が区別されますが、Cloud Insightsタグでは大文字と小文字が区別されません。そのため、Cloud Insightsで「owner」という名前のアノテーションを作成し、VMwareで「owner」、「Owner」、「owner」という名前のタグを作成すると、これらの「owner」のバリエーションはすべてCloud Insightの「owner」アノテーションにマッピングされます。

次の事項に注意してください。

- Cloud Insightsは現在、NetAppデバイスのサポート情報のみを自動公開しています。
- このサポート情報はアノテーション形式で保持されているため、クエリを実行したり、ダッシュボードで使用したりできます。
- ユーザがアノテーション値を上書きまたは空にした場合は、Cloud Insightsでアノテーションが更新されると再び値が自動入力されます。更新は1日に1回行われます。

トラブルシューティング

このデータコレクタで問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

在庫

問題	次の操作を実行します
エラー：フィルタリングする VM をリストに含めることはできません	[Include List] を選択した場合は、有効なデータセンター、クラスタ、またはホスト名をリストして、VM をフィルタリングしてください
エラー：IP で VirtualCenter への接続をインスタンス化できませんでした	考えられる解決策： * 入力された資格情報と IP アドレスを確認してください。 * VMware Infrastructure Client を使用して、Virtual Center との通信を試みます。 * Managed Object Browser （MOB など）を使用して Virtual Center と通信してみます。
エラー：IP の VirtualCenter には、JVM で必要な非準拠の証明書があります	考えられる解決策： *推奨：より強力なRSAキー（1024ビットなど）を使用して、Virtual Center用の証明書を再生成します。 * 推奨されません。JVM java.security 設定を変更して、JDK.certPath.disableAlgorithms 制約を利用し、512 ビット RSA キーを許可します。「JDK 7 update 40 release notes」を参照してください "http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/7u40-relnotes-2004172.html"

追加情報はから入手できます "[サポート](#)" ページまたはを参照してください "[Data Collector サポートマトリックス](#)"。

Data Collector Reference - サービス

ノードデータ収集

Cloud Insights は、エージェントをインストールするノードからメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]*で、オペレーティングシステム/プラットフォームを選択します。統合データコレクタ（Kubernetes、Docker、Apache など）をインストールすると、ノードのデータ収集も設定されることに注意してください。
2. 指示に従って、エージェントを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタがノードの指標として収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
ノードファイルシステム	ノード UUID デバイス パス を入力します	ノードIP ノード名 ノードOS モード	無料 空きinode inodeの合計 使用されているinode 合計 使用済み合計 使用済み
ノードディスク	ノード UUID ディスク	ノードIP ノード名 ノードOS	IO時間の合計 IOPSを実行中です 読み取りバイト数（1秒あたり） 読み取り時間合計 読み取り数（1秒あたり） Weighted IO Time Totalの略 書き込みバイト数（1秒あたり） 書き込み時間合計 1秒あたりの書き込み数 現在のディスクキューの長さ 書き込み時間 読み取り時間 IO時間

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
ノードCPU	ノード UUID CPU	ノードIP ノード名 ノードOS	システムCPU使用率 ユーザCPU使用率 アイドルCPU使用率 プロセッサCPU使用率 割り込みCPU使用率 DPC CPU使用率

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
ノード	ノード UUID	ノードIP ノード名 ノードOS	カーネル起動時間 カーネルコンテキストス イッチ（1秒あたり） カーネルエントロピーが 利用可能です カーネル割り込み（1秒あ たり） カーネルプロセスのフォ ーク（1秒あたり） メモリがアクティブです 使用可能なメモリの合計 使用可能なメモリ メモリがバッファされま した メモリキャッシュ メモリコミット制限 メモリはとしてコミット されます メモリが汚れています メモリ空き メモリの空き容量が大き い Memory High Totalの略 メモリのページサイズが 大きすぎます メモリ巨大なページ無料 Memory Huge Pages Total の略 メモリが不足しています Memory Low Totalの略 メモリマップ済み Memory Page Tablesの略 メモリ共有 メモリスラブ メモリスワップキャッシ ュ メモリスワップフリー メモリスワップの合計 メモリ合計 使用メモリの合計 使用されているメモリ メモリvmallocチャンク メモリvmallocの合計 メモリvmallocが使用され ています メモリが配線されていま す メモリライトバック合計 Memory Writeback tmp（ メモリライトバックtmp メモリキャッシュの障害 メモリ要求ゼロエラー メモリページ障害 メモリページ

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
ノードネットワーク	Network Interface の略 ノード UUID	ノード名 ノードIP ノードOS	受信したバイト数 送信されたバイト数 送信されたパケットが破棄されました Packets Outbound Errors (パケット送信エラー) 受信したパケットは破棄されました パケット受信エラー 受信したパケット 送信されたパケット

セットアップ (Setup)

セットアップおよびトラブルシューティングの情報は、にあります ["エージェントの設定"](#) ページ

ActiveMQ データコレクタ

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して ActiveMQ からのメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、 + Data Collector *をクリックします。[ActiveMQ]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



ActiveMQ Configuration

Gathers ActiveMQ metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-activemq.conf file.

```
[[inputs.activemq]]
  ## Required ActiveMQ Endpoint, port
  ## USER-ACTION: Provide address of ActiveMQ, HTTP port for ActiveMQ
  server = "<INSERT_ACTIVEMQ_ADDRESS>"
  port = <INSERT_ACTIVEMQ_PORT>
```

- 2 Replace <INSERT_ACTIVEMQ_ADDRESS> with the applicable ActiveMQ server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 3 Replace <INSERT_ACTIVEMQ_PORT> with the applicable ActiveMQ server HTTP port.
- 4 Replace <INSERT_ACTIVEMQ_USERNAME> and <INSERT_ACTIVEMQ_PASSWORD> with the applicable ActiveMQ credentials.
- 5 Modify 'webadmin' if needed (if ActiveMQ server changes web admin root path).
- 6 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 7 Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["ActiveMQ のドキュメント"](#)

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
ActiveMQ キュー	ネームスペース キュー ポート サーバ	ノード名 ノードIP ノード UUID	消費者数 デキューカウント enqueueカウント キューサイズ
ActiveMQ サブスクライバ	クライアント ID 接続ID ポート サーバ ネームスペース	はアクティブです 宛先 ノード名 ノードIP ノード UUID ノードOS セレクタ サブスクリプション。	デキューカウント ディスパッチ数 ディスパッチキューサイズ enqueueカウント 保留中のキューサイズ
ActiveMQ トピック	トピック ポート サーバ ネームスペース	ノード名 ノードIP ノード UUID ノードOS	消費者数 デキューカウント enqueueカウント サイズ

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Apache Data Collector

このデータコレクタを使用すると、環境内の Apache サーバからデータを収集できます。

前提条件

- Apache HTTP Server がセットアップされ、適切に実行されている必要があります
- エージェントのホスト / VM に対する sudo 権限または管理者権限が必要です
- 通常、`apache_mod_status_module` は、Apache サーバの「`/server-status?auto`」場所にページを公開するように設定されています。使用可能なすべてのフィールドを収集するには、`ExtendedStatus` オプションを有効にする必要があります。サーバの設定方法については、Apache モジュールのドキュメントを参照してください。 https://httpd.apache.org/docs/2.4/mod/mod_status.html#enable


インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。Apacheを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、`Show Instructions` をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順

3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Apache Configuration
Gathers Apache metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?[Need Help?](#)

Ubuntu & Debian

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps[Need Help?](#)

- 1 Ensure that the Apache HTTP Server system you're going to gather metrics on has the 'mod_status' module enabled and exposed. For details refer to the [following document](#).
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-apache.conf file.

```
[[inputs.apache]]
  ## An array of URLs to gather from, must be directed at the machine
  ## readable version of the mod_status page including the auto query string.
  ## USER-ACTION: Provide address of apache server, port for apache server, confirm path for
  server-status.
  ## Please provide <insert> machine IP address and <insert> port number > localhost address if ...
```

- 3 Replace <INSERT_APACHE_ADDRESS> with the applicable Apache server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_APACHE_PORT> with the applicable Apache server port.
- 5 Modify the '/server-status' path in accordance to the Apache server configuration.
- 6 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

Telegraf の Apache の HTTP Server 用プラグインは 'OD_status' モジュールを有効にする必要があります。これを有効にすると、Apache の HTTP サーバは、ブラウザで表示したり、Apache の HTTP サーバ設定の状態を抽出するためにスクレイピングされた HTML エンドポイントを公開します。

互換性：

構成は Apache の HTTP Server バージョン 2.4.38 に対して開発されました。

mod_status を有効にします。

'OD_status' モジュールを有効にして公開するには、次の 2 つの手順を実行します。

- イネーブルモジュール
- モジュールから統計情報を公開しています

イネーブルモジュール：

モジュールのロードは '/usr/local/apache/conf/httpd.conf' の下の config ファイルによって制御されます。構成ファイルを編集し、次の行のコメントを解除します。

```
LoadModule status_module modules/mod_status.so
Include conf/extra/httpd-info.conf
```

モジュールからの統計情報の公開：

'OD_status' の公開は '/usr/local/apache2/conf/extra/httpd-info.conf' の下の config ファイルによって制御されます。設定ファイルに次のものがあることを確認してください (少なくとも、他のディレクティブが存在することを確認してください)。

```
# Allow server status reports generated by mod_status,
# with the URL of http://servername/server-status
<Location /server-status>
    SetHandler server-status
</Location>

#
# ExtendedStatus controls whether Apache will generate "full" status
# information (ExtendedStatus On) or just basic information
(ExtendedStatus
# Off) when the "server-status" handler is called. The default is Off.
#
ExtendedStatus On
```

'OD_status' モジュールの詳細な手順については、を参照してください ["Apache のドキュメント"](#)

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Apache	ネームスペース サーバ	ノードIP ノード名 ポート 親サーバー構成の生成 親サーバーのMPM生成 サーバの稼働時間 が停止しています	多忙な労働者 要求あたりのバイト数 1秒あたりのバイト数 CPU Children Systemの略 CPU Children Userの略 CPU負荷 CPUシステム CPUユーザ 非同期接続が終了しています 非同期接続のキープアライブ 非同期接続の書き込み 接続合計 リクエストごとの期間 アイドル状態の従業員 負荷平均（過去1m） 負荷平均（過去15m） 負荷平均（過去5m） プロセス 1秒あたりの要求数 合計アクセス数 合計期間 合計KB スコアボード終了 スコアボードのDNSルックアップ スコアボードの仕上げ スコアボードアイドルク リーンアップ スコアボードキープア ライブ スコアボードログ スコアボードが開きます スコアボードの読み取り スコアボード送信 スコアボードが開始され ました スコアボード待機中

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

総領事データ収集

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して、総領事からのメトリックを収集しま

す。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。Consulを選択します。

収集用にエージェントを設定していない場合は、にプロンプトが表示されます ["エージェントをインストールします"](#) お客様の環境で実現します。

エージェントがすでに設定されている場合は、適切な OS またはプラットフォームを選択し、[* Continue (続行)]をクリックします。

2. [Consul Configuration] 画面の指示に従って、データコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["総領事からのご説明"](#)。

接続のためのオブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
総領事	ネームスペース IDを確認します サービスノード	ノードIP ノードOS ノード UUID ノード名 サービス名 [名前 (Name)] を サービス ID ステータス	重要 パス 警告

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Couchbase Data Collector

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して Couchbase から指標を収集します。

インストール


1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[Couchbase]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エ](#)

エージェントのインストール" 手順

3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。

**Couchbase**

Couchbase Configuration
Gathers Couchbase metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps[Need Help?](#)

1 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-couchbase.conf file.

```
## Read metrics from one or many couchbase clusters
[[inputs.couchbase]]
  ## specify servers via a url matching:
  ## [protocol://][:password]@address[:port]
  ## e.g.
  ## http://username:password@127.0.0.1:8090
```

2 Replace <INSERT_USERNAME> and <INSERT_PASSWORD> with couchbase server account credentials.

3 Replace <INSERT_COUCHBASE_ADDRESS> with the applicable Couchbase address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.

4 Replace <INSERT_COUCHBASE_PORT> with the applicable Couchbase port.

5 Restart the Telegraf service.

Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf

セットアップ（ Setup ）

情報は、に記載されています ["Couchbase ドキュメント"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Couchbase Node	ネームスペース クラスター Couchbaseノードのホスト名	ノード名 ノードIP	メモリ空き メモリ合計
Couchbase バケット	ネームスペース バケット クラスター	ノード名 ノードIP	使用済みデータ データフェッチ 使用されているディスク アイテム数 使用されているメモリ 1秒あたりの処理数 使用済みクォータ

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

CouchDB データコレクタ

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して CouchDB から指標を収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、 + Data Collector *をクリックします。[CouchDB]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



CouchDB Configuration

Gathers CouchDB metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

RHEL & CentOS

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-couchdb.conf file.

```
## Read CouchDB Stats from one or more servers
[[inputs.couchdb]]
  ## Works with CouchDB stats endpoints out of the box
  ## Multiple Hosts from which to read CouchDB stats:
  ## USER-ACTION: Provide comma-separated list of couchdb IP(s) and port(s).
```

- 2 Replace <INSERT_COUCHDB_ADDRESS> with the applicable CouchDB address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 3 Replace <INSERT_COUCHDB_PORT> with the applicable CouchDB port.
- 4 Modify the URL if CouchDB monitoring is exposed at different path
- 5 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています "CouchDB のドキュメント"。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
CouchDB	ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP	認証キャッシュヒット 認証キャッシュミス データベースの読み取り データベースへの書き込み データベースが開きます OSファイルを開きます 最大要求時間 最小要求時間 httpdリクエストメソッド コピー httpdリクエストメソッド 削除 httpdリクエストメソッド GET httpdリクエストメソッド ヘッド httpdリクエストメソッド Post httpdリクエストメソッド PUT ステータスコード200 ステータスコード201 ステータスコード202 ステータスコード301 ステータスコード304. ステータスコード400 ステータスコード401 ステータスコード403 ステータスコード404 ステータスコード405 ステータスコード409 ステータスコード412 ステータスコード500

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Docker Data Collector

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Docker から指標を収集します。

インストール


1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[Docker]を選択します。

収集用にエージェントを設定していない場合は、にプロンプトが表示されます ["エージェントをインストールします"](#) お客様の環境で実現します。

エージェントがすでに設定されている場合は、適切な OS またはプラットフォームを選択し、[* Continue


(続行)]をクリックします。

2. Docker Configuration 画面の指示に従って、データコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Docker Configuration
Gathers Docker metrics.

What Operating System or Platform Are You Using? [Need Help?](#)

 RHEL & CentOS

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps [Need Help?](#)

1

Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-docker.conf file.

```
[[inputs.docker]]
  ## Docker Endpoint
  ## To use TCP, set endpoint = "tcp://[[ip]]:[port]". By default, Docker uses port 2375 for
  unencrypted and 2376 for encrypted
  ## To use environment variables (ie, docker-machine), set endpoint = "ENV"
```

2

Replace <INSERT_DOCKER_ENDPOINT> with the applicable Docker endpoint.

3

Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).

4

Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

Telegraf Docker 用入力プラグインは、指定された UNIX ソケットまたは TCP エンドポイントを介してメトリックを収集します。

互換性

Docker バージョン 1.12.6 に対して構成が開発されました。

セットアップ中です

UNIX ソケット経由で **Docker** にアクセスする

Tegraf エージェントが BareMetal 上で実行されている場合は、次のコマンドを実行して、テレグラフ UNIX ユーザを Docker UNIX グループに追加します。

```
sudo usermod -aG docker telegraf
```

Telegraf エージェントが Kubernetes ポッド内で実行されている場合は、ソケットをポッドにボリュームとしてマッピングし、そのボリュームを `/var/run/docker.sock` にマウントすることで、Docker Unix ソケットを公開します。たとえば、PodSpec に次の情報を追加します。

```
volumes:
...
- name: docker-sock
hostPath:
path: /var/run/docker.sock
type: File
```

次に、次の項目をコンテナに追加します。

```
volumeMounts:
...
- name: docker-sock
mountPath: /var/run/docker.sock
```

Kubernetes プラットフォーム用に提供されている Cloud Insights インストーラは、このマッピングを自動的に処理します。

TCP エンドポイントを介して **Docker** にアクセスする

デフォルトでは、Docker は暗号化されていないアクセスにポート 2375 を使用し、暗号化されたアクセスにポート 2376 を使用します。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Docker Engine の略	ネームスペース Docker Engine の略	ノード名 ノードIP ノード UUID ノードOS Kubernetesクラスタ Dockerバージョン 単位	メモリ コンテナ コンテナが一時停止しました 実行中のコンテナ コンテナが停止しました CPU ルーチンを実行します イメージ リスナーイベント 使用されているファイル 記述子 使用可能なデータ データ合計 使用済みデータ メタデータが使用可能です メタデータ合計 使用されているメタデータ プールのブロックサイズ

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Docker コンテナ	ネームスペース コンテナ名 Docker Engine の略	Kubernetesコンテナハッシュ Kubernetesコンテナポート Kubernetesコンテナの再起動数 Kubernetes Container Termination Message Pathの略 Kubernetes Container Termination Message Policyの略 Kubernetesポッド終了の猶予期間 コンテナイメージ コンテナのステータス コンテナバージョン ノード名 Kubernetesコンテナログパス Kubernetesコンテナ名 Kubernetes Dockerタイプ Kubernetesポッド名 Kubernetesポッドネームスペース KubernetesポッドUID KubernetesサンドボックスID ノードIP ノード UUID Dockerバージョン Kubernetes IO設定を確認しました Kubernetes IO構成ソース OpenShift IO SCC Kubernetes概要の略 Kubernetesの表示名 OpenShiftタグ Komposeサービス ポッドテンプレートハッシュ コントローラリビジョン ハッシュ ポッドテンプレート生成使用許諾 スキーマビルド日 スキーマライセンス スキーマ名 スキーマURL スキーマVCS URL スキーマベンダー スキーマバージョン スキーマスキーマバージョン	Memory Active Anonymousの略 メモリアクティブファイル メモリキャッシュ メモリ階層の制限 メモリ非アクティブ匿名 メモリ非アクティブファイル メモリ制限 Memory Mapped Fileの略 Memory Max Usageの略 メモリページ障害 メモリページの重大な障害 メモリがページインされました メモリがページアウトされました メモリ常駐設定サイズ メモリ常駐セットサイズが大きすぎます Memory Total Active Anonymousの略 Memory Total Active Fileの略 メモリ合計キャッシュ Memory Total Inactive Anonymousの略 Memory Total Inactive Fileの略 Memory Total Mapped Fileの略 Memory Total Page Faultの略 Memory Total Page Major Faultの略 ページインされたメモリの合計 ページアウトされたメモリの合計 Memory Total Resident Set Sizeの略 メモリ合計常駐セットサイズが大きすぎます Memory Total Unevictableの略 Memory Unevictable（アクセス不能メモリ）の略 メモリ使用量 メモリ使用率 終了コード ウームは殺されたピッド

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Docker コンテナブロック IO	ネームスペース コンテナ名 デバイス Docker Engine の略	Kubernetesコンテナハッシュ Kubernetesコンテナポート Kubernetesコンテナの再起動数 Kubernetes Container Termination Message Pathの略 Kubernetes Container Termination Message Policyの略 Kubernetesポッド終了の猶予期間 コンテナイメージ コンテナのステータス コンテナバージョン ノード名 Kubernetesコンテナログパス Kubernetesコンテナ名 Kubernetes Dockerタイプ Kubernetesポッド名 Kubernetesポッドネームスペース KubernetesポッドUID KubernetesサンドボックスID ノードIP ノード UUID Dockerバージョン Kubernetes Configを確認 Kubernetes構成ソース OpenShift SCC Kubernetes概要の略 Kubernetesの表示名 OpenShiftタグ スキーマスキーマバージョン ポッドテンプレートハッシュ コントローラリビジョン ハッシュ ポッドテンプレート生成 Komposeサービス スキーマビルド日 スキーマライセンス スキーマ名 スキーマベンダー 顧客ポッド Kubernetes StatefulSetポッド名 テナント WebConsoleの略	IO Service Bytes Recursive Asyncの略 IO Service Bytes Recursive Readの略 IO Service Bytes Recursive Syncの略 IOサービスバイト数の再帰的合計 IO Service Bytes Recursive Writeの略 IO Serviced Recursive Asyncの略 IO Serviced Recursive Readの略 IO Serviced Recursive Syncの略 IOサービス再帰合計 IO Serviced Recursive Writeの略

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Docker コンテナネットワーク	ネームスペース コンテナ名 ネットワーク Docker Engine の略	コンテナイメージ コンテナのステータス コンテナバージョン ノード名 ノードIP ノード UUID ノードOS Kubernetesクラスタ Dockerバージョン コンテナID	RXがドロップされました Rxバイト Rxエラー Rxパケット 送信がドロップされました 送信バイト数 TXエラー 送信パケット数

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
Docker コンテナの CPU	ネームスペース コンテナ名 CPU Docker Engine の略	Kubernetesコンテナハッシュ Kubernetesコンテナポート Kubernetesコンテナの再起動数 Kubernetes Container Termination Message Pathの略 Kubernetes Container Termination Message Policyの略 Kubernetesポッド終了の猶予期間 Kubernetes Configを確認 Kubernetes構成ソース OpenShift SCC コンテナイメージ コンテナのステータス コンテナバージョン ノード名 Kubernetesコンテナログパス Kubernetesコンテナの名前 Kubernetes Dockerタイプ Kubernetesポッド名 Kubernetesポッドネームスペース KubernetesポッドUID KubernetesサンドボックスID ノードIP ノード UUID ノードOS Kubernetesクラスタ Dockerバージョン Kubernetes概要の略 Kubernetesの表示名 OpenShiftタグ スキーマバージョン ポッドテンプレートハッシュ コントローラリビジョン ハッシュ ポッドテンプレート生成 Komposeサービス スキーマビルド日 スキーマライセンス スキーマ名 スキーマベンダー 顧客ポッド Kubernetes StatefulSetポッド名	スロットリング期間 調整された期間の調整 スロットル調整時間 カーネルモードでの使用 ユーザーモードでの使用方法 使用率 使用システム 使用量の合計

問題	次の操作を実行します
設定ページの手順に従っても、Cloud Insights に Docker 指標が表示されない。	<p>Telegrafエージェントログで、次のエラーが報告されているかどうかを確認します。</p> <p>来い! プラグイン[inputs.docker]のエラー：Dockerデーモンソケットに接続しようとしているときに権限が拒否されました</p> <p>もしそうなら、上記のようにTelegrafエージェントがDocker Unixソケットにアクセスできるようにするために必要な手順を実行します。</p>

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Elasticsearch Data Collector

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Elasticsearch から指標を収集します。

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[Elasticsearch]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、*Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Elasticsearch Configuration

Gathers Elasticsearch metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Ubuntu & Debian

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-elasticsearch.conf file.

```
[[inputs.elasticsearch]]
  ## USER-ACTION: Provide comma-separated list of Elasticsearch servers.
  ## Note that for scenarios in which metrics from multiple Elasticsearch clusters are being
  ## sent to Cloud Insights, the Elasticsearch cluster names must be unique.
  ## Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address
```

- 2 Replace <INSERT_ELASTICSEARCH_ADDRESS> with the applicable Elasticsearch address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 3 Replace <INSERT_ELASTICSEARCH_PORT> with the applicable Elasticsearch port.
- 4 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["Elasticsearch のドキュメント"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Elasticsearch クラスタ	ネームスペース クラスタ	ノードIP ノード名 クラスタのステータス	マスターノード数 合計ノード数 ファイルシステムの使用 可能データ（バイト） ファイルシステムの空き 容量（バイト） ファイルシステムデータ 合計（バイト） JVMスレッド OS割り当て済みのプロセ ッサ OS利用可能なプロセッサ OSメモリ空き容量（バイ ト） OSメモリフリー OSメモリ合計（バイト） 使用済みOSメモリ（バイ ト） 使用されているOSメモリ プロセスCPU インデックス完了サイズ （バイト） インデックス数 インデックスドキュメン ト数 インデックスドキュメン トが削除されました Indicesフィールドデータ の削除 インデックスフィールド データメモリサイズ（バ イト） インデックスクエリキャ ッシュ数 インデックスキャッシュ サイズ Indices Segments Count の略 インデックスセグメント ドキュメント値メモリ（ バイト） インデックスシャードイ ンデックスプライマリー 平均 インデックスシャードイ ンデックスプライマリー 最大 Indices shards Index Primaries Min インデックスシャードイ ンデックスレプリケーシ ョン平均 インデックスシャードイ ンデックスレプリケーシ

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
Elasticsearch ノード	ネームスペース クラスタ ESノードID ESノードIP ESノード	ゾーン ID	機械学習が有効になりました 機械学習メモリ 機械学習の最大オープンジョブ数 X-Packがインストールされています ブレーカーアカウンティング推定サイズ（バイト） ブレーカーアカウンティング制限サイズ（バイト） ブレーカー会計オーバーヘッド ブレーカー会計が作動しました ブレーカーフィールドデータ推定サイズ（バイト） ブレーカーフィールドのデータ制限サイズ（バイト） ブレーカフィールドデータオーバーヘッド ブレーカーフィールドデータがトリップしました ブレーカの飛行中の推定サイズ（バイト） ブレーカインフライト制限サイズ（バイト） ブレーカインフライトオーバーヘッド ブレーカインフライトが停止しました ブレーカ親推定サイズ（バイト） ブレーカ親制限サイズ（バイト） Breakers親の頭上 ブレーカの親がトリップしました ブレーカー要求推定サイズ（バイト） ブレーカー要求制限サイズ（バイト） ブレーカー要求オーバーヘッド ブレーカー要求が作動しました ファイルシステムの使用可能データ（バイト） ファイルシステムの空き容量（バイト）

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Flink Data Collector の使用

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用してフロークからメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[Flink]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Flink Configuration

Gathers Flink metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Install Jolokia on your Flink JobManager(s) and Flink Task Manager(s). For details refer to the following [document](#).
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-flink.conf file.

```
## *****  
## JobManager  
## *****  
[[inputs.jolokia2_agent]]  
  ## USER-ACTION: Provide address(es) of flink Job Manager(s), port for jolokia, add one URL  
  ## for each Job Manager to monitor metrics
```

- 3 Replace <INSERT_FLINK_JOBMANAGER_ADDRESS> with the applicable Flink Job Manager address(es). Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_FLINK_TASKMANAGER_ADDRESS> with the applicable Flink Task Manager address(es). Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 5 Replace <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the applicable jolokia port.
- 6 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 7 Modify 'Cluster' if needed for Flink cluster designation.
- 8 Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ (Setup)

フルリンク展開では、次のコンポーネントが使用されます。

JobManager : Flink プライマリシステム。一連の TaskManager を調整しますハイアベイラビリティ設定では、システムに複数の JobManager が存在します。

TaskManager : Flink 演算子が実行される場所です。

Flink プラグインは、テレグラムの Jolokia プラグインに基づいています。すべての Flink コンポーネントから情報を収集するための要件など、JMX はすべてのコンポーネントで Jolokia を介して設定および公開する必要があります。

互換性

Flink バージョン 1.7.0 に対して設定が開発されました。

セットアップ中です

Jolokia エージェント JAR

個々のコンポーネントについては、Jolokia エージェント jar ファイルのバージョンをダウンロードする必要があります。テスト対象のバージョンは、でした ["Jolokia 代理店 1.6.0"](#)。

以下の手順では、ダウンロードした jar ファイル（jolokia-jvm-1.6.0-agent.jar）が「/opt/Flink/lib/」の下に配置されると想定しています。

JobManager

JobManager で Jolokia API を公開するように設定するには、ノードで次の環境変数を設定して JobManager を再起動します。

```
export FLINK_ENV_JAVA_OPTS="-javaagent:/opt/flink/lib/jolokia-jvm-1.6.0-agent.jar=port=8778,host=0.0.0.0"
```

Jolokia （ 8778 ） には別のポートを選択できます。Jolokia をロックする内部 IP を持っている場合は、「 catch all 」 0.0.0.0 を自分の IP で置き換えることができます。この IP には、テレグラムプラグインからアクセスする必要があります。

TaskManager の略

Jolokia API を公開するように TaskManager を設定するには ' ノードに次の環境変数を設定し 'TaskManager を再起動します

```
export FLINK_ENV_JAVA_OPTS="-javaagent:/opt/flink/lib/jolokia-jvm-1.6.0-agent.jar=port=8778,host=0.0.0.0"
```

Jolokia （ 8778 ） には別のポートを選択できます。Jolokia をロックする内部 IP を持っている場合は、「 catch all 」 0.0.0.0 を自分の IP で置き換えることができます。この IP には、テレグラムプラグインからアクセスする必要があります。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Flink タスクマネージャ	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 タスクマネージャID ノードIP	Network Available Memory Segmentsの略 Network Total Memory Segmentsの略 ガベージコレクションPS MarkSweep数 ガベージコレクションPS MarkSweep Timeの略 ガベージコレクションPS スカベンジ数 ガベージコレクションPS スカベンジ時間 ヒープメモリがコミット されました ヒープメモリの初期化 ヒープメモリ最大 ヒープメモリ使用済み スレッドカウントデーモン スレッド数のピーク スレッド数 スレッド数合計が開始 されました
フリンクジョブ	クラスタ ネームスペース サーバ ジョブ ID	ノード名 ジョブ名 ノードIP Last Checkpoint External Pathの略 再起動時間	ダウンタイム 完全に再起動します 前回のチェックポイント アライメントがバッファ リングされました 前回のチェックポイント 期間 前回のチェックポイント サイズ 完了したチェックポイン トの数 失敗したチェックポイン トの数 進行中のチェックポイン トの数 チェックポイントの数 アップタイム

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Flink ジョブマネージャー	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP	ガベージコレクションPS MarkSweep数 ガベージコレクションPS MarkSweep Timeの略 ガベージコレクションPS スカベンジ数 ガベージコレクションPS スカベンジ時間 ヒープメモリがコミット されました ヒープメモリの初期化 ヒープメモリ最大 ヒープメモリ使用済み 登録されているタスクマ ネージャの数 実行中のジョブの数 使用可能なタスクスロッ ト タスクスロットの合計 スレッドカウントデーモ ン スレッド数のピーク スレッド数 スレッド数合計が開始さ れました

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Flink タスク	クラスタ ネームスペース ジョブ ID タスク ID	サーバ ノード名 ジョブ名 サブタスクインデックス タスク試行ID タスク試行番号 タスク名 タスクマネージャID ノードIP Current Input Watermark の略	Pool Usageのバッファ Buffers in Queue Length の略 Buffers Out Pool Usageの 略 バッファアウトキュー長 ローカルのバッファ数 Number Buffers in Local Per Secondカウント ローカル/秒レートのバッ ファ数 リモートのNumber Buffers（バッファ数） Number Buffers in Remote Per Second（リ モート/秒）カウント Number Buffers in Remote Per Second Rate （リモート/秒レート） Number Buffers Outの略 Number Buffers Out Per Secondカウント Number Buffers Out Per Second Rateの略 ローカルのバイト数 1秒あたりのローカルバイ ト数 ローカル/秒レートのバイ ト数 リモートのバイト数 1秒あたりのリモートバイ ト数 Remote Per Second Rate のバイト数 送信されたバイト数 Number Bytes Out Per Second Count（1秒 1秒あたりの送信バイト数 レート のレコード数 1秒あたりのレコード数 1秒あたりのレコード数 レコード数が出ている Number Records Out Per Second Countの略 Number Records Out Per Second Rateの略

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Flink タスクオペレータ	クラスタ ネームスペース ジョブ ID オペレータID タスク ID	サーバ ノード名 ジョブ名 演算子名 サブタスクインデックス タスク試行ID タスク試行番号 タスク名 タスクマネージャID ノードIP	Current Input Watermark の略 Current Output Watermark の略 のレコード数 1秒あたりのレコード数 1秒あたりのレコード数 レコード数が出ている Number Records Out Per Second Countの略 Number Records Out Per Second Rateの略 遅延レコード数がドロッ プされました 割り当て済みパーティシ ョン Bytes Consumed Rate コミットレイテンシの平 均 コミットレイテンシ最大 コミット率 コミットに失敗しました コミットに成功しました 接続完了率 接続数 接続作成レート カウント フェッチレイテンシの平 均 フェッチレイテンシの最 大値 フェッチレート 取得サイズ平均 フェッチサイズ最大 フェッチスロットル時間 平均 フェッチスロットル時間 最大 ハートビートレート 受信バイトレート IO比率 IO時間の平均 (ns) IO待機比率 IO待機時間の平均 (ns) 参加率 ジョイン時間平均 前回のハートビート前 Network IO Rateの略 Outgoing Byte Rateの略 レコード消費率 最大遅延レコード リクエストあたりのレコ ード平均 リクエスト率

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Hadoop Data Collector

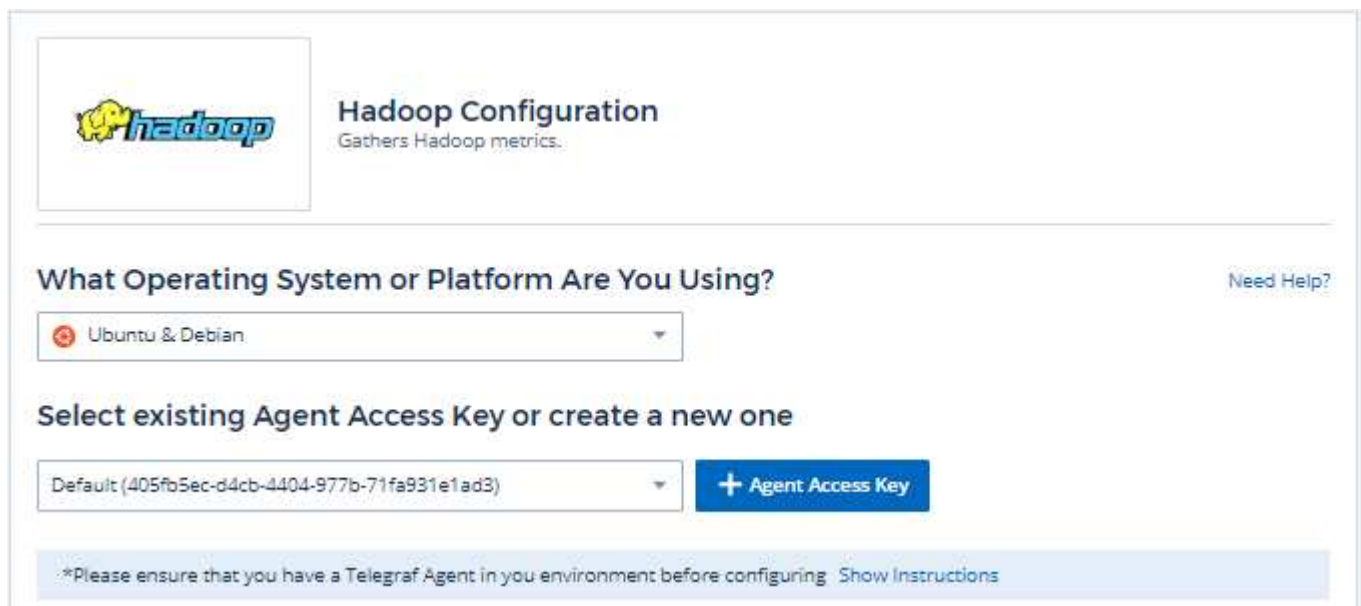
Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Hadoop からの指標を収集します。


インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。Hadoopを選択します。

Telegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



 **Hadoop Configuration**
Gathers Hadoop metrics.

What Operating System or Platform Are You Using? [Need Help?](#)

Ubuntu & Debian

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3) [+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Install Jolokia on your Hadoop NameNode, Secondary NameNode, DataNode(s), ResourceManager, NodeManager(s) and JobHistoryServer. For details refer to the following [document](#).
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-hadoop.conf file.

```
#####  
# NAMENODE #  
#####  
[[inputs.jolokia2_agent]]  
  ## USER-ACTION: Provide address(es) of Hadoop NameNode, port for jolokia  
  ## Please provide a real address to address and refrain from using a loopback address
```

- 3 Replace <INSERT_HADOOP_NAMENODE_ADDRESS> with the applicable Hadoop NameNode address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address. Replace corresponding <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the NameNode's assigned Jolokia port.
- 4 Replace <INSERT_HADOOP_SECONDARYNAMENODE_ADDRESS> with the applicable Hadoop Secondary NameNode address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address. Replace corresponding <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the Secondary NameNode's assigned Jolokia port.
- 5 Replace <INSERT_HADOOP_DATANODE_ADDRESS> with the applicable Hadoop DataNode address(es). Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address. Replace corresponding <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the DataNode's assigned Jolokia port.
- 6 Replace <INSERT_HADOOP_RESOURCEMANAGER_ADDRESS> with the applicable Hadoop ResourceManager address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address. Replace corresponding <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the ResourceManager's assigned Jolokia port.
- 7 Replace <INSERT_HADOOP_NODEMANAGER_ADDRESS> with the applicable Hadoop NodeManager address(es). Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address. Replace corresponding <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the NodeManager's assigned Jolokia port.
- 8 Replace <INSERT_HADOOP_JOBHISTORYSERVER_ADDRESS> with the applicable Hadoop Job History Server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address. Replace corresponding <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the Job History Server's assigned Jolokia port.
- 9 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 10 Modify 'Cluster' if needed for Hadoop cluster designation.
- 11 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

Hadoop を完全に導入するには、次のコンポーネントが必要です。

- NameNode : Hadoop 分散型ファイルシステム (HDFS) プライマリシステム。一連の DataNode を調整します。

- セカンダリ NameNode : メイン NameNode のウォームフェイルオーバー。Hadoop では、NameNode への昇格は自動的に行われません。セカンダリ NameNode は、必要に応じてプロモート可能な状態にするために、NameNode から情報を収集します。
- DataNode : データの実際の所有者。
- ResourceManager : コンピューティングのプライマリシステム (yarn)。一連の NodeManager を調整します。
- NodeManager : コンピューティング用のリソース。アプリケーションを実行するための実際の場所。
- JobHistoryServer : ジョブ履歴に関連するすべての要求の処理を担当します。

Hadoop プラグインは、テレグラムの Jolokia プラグインに基づいています。すべての Hadoop コンポーネントから情報を収集するための要件など、JMX はすべてのコンポーネントで Jolokia 経由で設定および公開する必要があります。

互換性

構成は Hadoop バージョン 2.9.2 に対して開発されました。

セットアップ中です

Jolokia エージェント JAR

個々のコンポーネントについては、Jolokia エージェント jar ファイルのバージョンをダウンロードする必要があります。テスト対象のバージョンは、でした ["Jolokia 代理店 1.6.0"](#)。

以下の手順では、ダウンロードした jar ファイル (jolokia-jvm-1.6.0-agent.jar) が「 /opt/hadoop /lib/ 」の下に配置されると想定しています。

NameNode

Jolokia API が公開されるように NameNode を設定するには、 <hadoop home>/etc/hadoop /hadoop -env.sh で次のセットアップを行います。

```
export HADOOP_NAMENODE_OPTS="$HADOOP_NAMENODE_OPTS
-javaagent:/opt/hadoop/lib/jolokia-jvm-1.6.0
-agent.jar=port=7800,host=0.0.0.0 -Dcom.sun.management.jmxremote
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8000
-Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_HOME/conf/jmxremote.p
assword"
You can choose a different port for JMX (8000 above) and Jolokia (7800).
If you have an internal IP to lock Jolokia onto you can replace the "catch
all" 0.0.0.0 by your own IP. Notice this IP needs to be accessible from
the telegraf plugin. You can use the option '-
Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false' if you don't want to
authenticate. Use at your own risk.
```

セカンダリ NameNode

セカンダリ NameNode で Jolokia API を公開するように設定するには、<hadoop home>/etc/hadoop /hadoop -env.sh で次のように設定します。

```
export HADOOP_SECONDARYNAMENODE_OPTS="$HADOOP_SECONDARYNAMENODE_OPTS
-javaagent:/opt/hadoop/lib/jolokia-jvm-1.6.0
-agent.jar=port=7802,host=0.0.0.0 -Dcom.sun.management.jmxremote
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8002
-Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_HOME/conf/jmxremote.p
assword"
You can choose a different port for JMX (8002 above) and Jolokia (7802).
If you have an internal IP to lock Jolokia onto you can replace the "catch
all" 0.0.0.0 by your own IP. Notice this IP needs to be accessible from
the telegraf plugin. You can use the option '-
Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false' if you don't want to
authenticate. Use at your own risk.
```

DataNode

Jolokia API が公開されるように DataNode を設定するには、<hadoop home>/etc/hadoop /hadoop -env.sh に以下のセットアップを行います。

```
export HADOOP_DATANODE_OPTS="$HADOOP_DATANODE_OPTS
-javaagent:/opt/hadoop/lib/jolokia-jvm-1.6.0
-agent.jar=port=7801,host=0.0.0.0 -Dcom.sun.management.jmxremote
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8001
-Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_HOME/conf/jmxremote.p
assword"
You can choose a different port for JMX (8001 above) and Jolokia (7801).
If you have an internal IP to lock Jolokia onto you can replace the "catch
all" 0.0.0.0 by your own IP. Notice this IP needs to be accessible from
the telegraf plugin. You can use the option '-
Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false' if you don't want to
authenticate. Use at your own risk.
```

ResourceManager の略

ResourceManager で Jolokia API を公開するように設定するには、<hadoop HOME>/etc/hadoop /hadoop -env.sh で次の設定を行うことができます。

```
export YARN_RESOURCEMANAGER_OPTS="$YARN_RESOURCEMANAGER_OPTS
-javaagent:/opt/hadoop/lib/jolokia-jvm-1.6.0
-agent.jar=port=7803,host=0.0.0.0 -Dcom.sun.management.jmxremote
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8003
-Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_HOME/conf/jmxremote.p
assword"
```

You can choose a different port for JMX (8003 above) and Jolokia (7803). If you have an internal IP to lock Jolokia onto you can replace the "catch all" 0.0.0.0 by your own IP. Notice this IP needs to be accessible from the telegraf plugin. You can use the option '-Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false' if you don't want to authenticate. Use at your own risk.

NodeManager

Jolokia API を公開するように NodeManager を設定するには、<hadoop home>/etc/hadoop /hadoop -env.sh で次の設定を行うことができます。

```
export YARN_NODEMANAGER_OPTS="$YARN_NODEMANAGER_OPTS
-javaagent:/opt/hadoop/lib/jolokia-jvm-1.6.0
-agent.jar=port=7804,host=0.0.0.0 -Dcom.sun.management.jmxremote
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8004
-Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_HOME/conf/jmxremote.p
assword"
```

You can choose a different port for JMX (8004 above) and Jolokia (7804). If you have an internal IP to lock Jolokia onto you can replace the "catch all" 0.0.0.0 by your own IP. Notice this IP needs to be accessible from the telegraf plugin. You can use the option '-Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false' if you don't want to authenticate. Use at your own risk.

JobHistoryServer

JobHistoryServer で Jolokia API を公開するように設定するには、<hadoop home>/etc/hadoop /hadoop -env.sh で次の設定を行うことができます。

```
export HADOOP_JOB_HISTORYSERVER_OPTS="$HADOOP_JOB_HISTORYSERVER_OPTS
-javaagent:/opt/hadoop/lib/jolokia-jvm-1.6.0
-agent.jar=port=7805,host=0.0.0.0 -Dcom.sun.management.jmxremote
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8005
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_HOME/conf/jmxremote.p
assword"
```

You can choose a different port for JMX (8005 above) and Jolokia (7805). If you have an internal IP to lock Jolokia onto you can replace the "catch all" 0.0.0.0 by your own IP. Notice this IP needs to be accessible from the telegraf plugin. You can use the option '-Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false' if you don't want to authenticate. Use at your own risk.

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Hadoop セカンダリ NameNode	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP コンパイル情報 バージョン	GCカウント GCコピー数 GCマークスイープコンパ クトカウント GC番号情報のしきい値を 超えました GC番号警告しきい値を超 えました GC時間 GCコピー時間 GCマークスイープコンパ クト時間 GC合計エクストラスリー プ時間 エラー数をログに記録し ます ログ致命的数 ログ情報数 警告数をログに記録しま す メモリヒープがコミット されました メモリヒープ最大 使用されているメモリヒ ープ メモリ最大 メモリのヒープがコミッ トされていません メモリ非ヒープ最大 メモリのヒープが使用さ れていません ブロックされたスレッド スレッド新規 スレッド実行可能 スレッドが終了しました スレッドの待機時間 待機中のスレッド

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Hadoop ノードマネージャ	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP	割り当て済みのコンテナ メモリ割り当て Memory Allocated Oportunisticの略 仮想コア割り当てオポチュニスティック 仮想コアが割り当てられました 使用可能なメモリ 使用可能な仮想コア ディレクトリがローカルではありません ディレクトリの不正なログ クリーニング前のキャッシュサイズ コンテナ起動時間平均時間 Container Launch Duration Number of Operations（コンテナ起動時間） コンテナが完了しました コンテナが失敗しました コンテナの初期化 コンテナを強制終了します コンテナをリリース コンテナの再構築 障害発生時にコンテナがロールバックされました 実行中のコンテナ ディスク使用率が良好なローカルディレクトリ Disk Utilization Good Log Directoriesの略 バイトがプライベート削除されました Bytes Deleted Public コンテナはOpportunityを実行しています 削除されたバイト数の合計 接続をシャッフルします 出力バイトをシャッフルします 出力のシャッフルに失敗しました シャッフル出力OK GCカウント GCコピー数 GCマークスイープコンパクトカウント GC番号情報のしきい値を

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Hadoop ResourceManager	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP	ApplicationMaster起動遅延平均 ApplicationMaster起動遅延番号 ApplicationMaster登録遅延平均 ApplicationMaster Register Delay Numberの略 NodeManagerアクティブ番号 NodeManagerの運用停止番号 NodeManagerの運用停止番号 NodeManagerの番号が失われました NodeManagerがリブートしました NodeManagerシャットダウン番号 NodeManagerの正常な番号 NodeManagerのメモリ制限 NodeManager仮想コア数の制限 使用済み容量 アクティブアプリケーション アクティブユーザー 割り当て済みアグリゲートコンテナ アグリゲートコンテナがプリアンプトされました アグリゲートコンテナが解放されました アグリゲートメモリの秒数がプリアンプトされました 割り当て済みアグリゲートノードのローカルコンテナ アグリゲートオフスイッチコンテナの割り当て済み アグリゲートのAckローカルコンテナの割り当て済み容量 アグリゲート仮想コア（秒）がプリアンプトされました 割り当て済みのコンテナ 割り当てられたメモリ

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Hadoop DataNode	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP クラスタID バージョン	トランシーバ数 送信が進行中です キャッシュ容量 使用されているキャッシュ 容量 使用されるDFS 推定損失合計容量 前回のボリューム障害率 キャッシュされた番号を ブロックする ブロック番号のキャッシ ュに失敗しました ブロック番号のキャッシ ュ解除に失敗しました ボリューム番号に失敗し ました 残り容量 GCカウント GCコピー数 GCマークスweepコンパ クトカウント GC番号情報のしきい値を 超えました GC番号警告しきい値を超 えました GC時間 GCコピー時間 GCマークスweepコンパ クト時間 GC合計エクストラスリー プ時間 エラー数をログに記録し ます ログ致命的数 ログ情報数 警告数をログに記録しま す メモリヒープがコミット されました メモリヒープ最大 使用されているメモリヒ ープ メモリ最大 メモリのヒープがコミッ トされていません メモリ非ヒープ最大 メモリのヒープが使用さ れていません ブロックされたスレッド スレッド新規 スレッド実行可能 スレッドが終了しました スレッドの待機時間

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Hadoop NameNode	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP 最後に書き込まれたトラ ンザクションID 最後にロードされた編集 からの時間 HAの状態 File System Stateの略 ブロックプールID クラスタID コンパイル情報 個別のバージョン数 バージョン	ブロック容量 合計ブロック数 合計容量 使用済み容量 Capacity Used Non DFS の略 ブロックが壊れています 推定損失合計容量 超過をブロックします ハートビートの期限が切 れました ファイル合計 File System Lock Queue Lengthの略 ブロックが見つかりませ ん 第1因子のレプリケーショ ンが欠落しているブロッ ク クライアントがアクティ ブです データノードが故障して います 稼働を停止しているデー タノードが故障していま す ライブを運用停止するデ ータノード データノードの運用停止 暗号化ゾーン番号 データノードがメンテナ ンスに移行しています 作成中のファイル メンテナンス中のデー タノードが停止しました データノードはメンテナ ンス中です Data Nodes Liveの略 ストレージが古い レプリケーション保留タ イムアウト データノードメッセージ が保留中です 削除を保留中のブロック レプリケーションを保留 中のブロック ミスレプリケートされた ブロックが延期されまし た スケジュールされたレプ リケーションをブロック します Snapshot スナップショット可能な

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Hadoop ジョブ履歴サーバ	クラスタ ネームスペース サーバ	ノード名 ノードIP	GCカウント GCコピー数 GCマークスイープコンパクトカウント GC番号情報のしきい値を超えました GC番号警告しきい値を超えました GC時間 GCコピー時間 GCマークスイープコンパクト時間 GC合計エクストラスリープ時間 エラー数をログに記録します ログ致命的数 ログ情報数 警告数をログに記録します メモリヒープがコミットされました メモリヒープ最大 使用されているメモリヒープ メモリ最大 メモリのヒープがコミットされていません メモリ非ヒープ最大 メモリのヒープが使用されていません ブロックされたスレッド スレッド新規 スレッド実行可能 スレッドが終了しました スレッドの待機時間 待機中のスレッド

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

HAProxy Data Collector

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して HAProxy からのメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[HAProxy]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します "[エージェントのインストール](#)" 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



HAProxy Configuration

Gathers HAProxy metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Ubuntu & Debian

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Ensure that the HAProxy system you're going to gather metrics on has 'stats enable' option. For details refer to the following [document](#).
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-haproxy.conf file.

```
# Read metrics of HAProxy, via socket or HTTP stats page
[[inputs.haproxy]]
  ## An array of address to gather stats about. Specify an ip on hostname
  ## with optional port. ie localhost, 10.10.3.33:1936, etc.
  ## Make sure you specify the complete path to the stats endpoint
  ## ex: localhost:1936/stats; 10.10.3.33:1936/hostname?stats
```

- 3 Replace <INSERT_HAPROXY_ADDRESS> with the applicable HAProxy server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_HAPROXY_PORT> with the applicable HAProxy server port.
- 5 Modify the 'haproxy?stats' path in accordance to the HAProxy server configuration.
- 6 Modify 'username' and 'password' in accordance to the HAProxy server configuration (if credentials are required).
- 7 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 8 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

Telegraf の HAProxy 用プラグインは、HAProxy Stats の有効化に依存しています。これは HAProxy に組み込まれている構成ですが、すぐに有効にすることはできません。有効にすると 'HAProxy はブラウザで表示でき

る HTML エンドポイントを公開したり、すべての HAProxy 構成のステータスを抽出するためにスクレイピングしたりできます

互換性：

構成は HAProxy バージョン 1.9.4 に対して開発されました。

設定：

統計情報を有効にするには、haproxy 設定ファイルを編集し、「金庫」セクションの後に次の行を追加します。この行には、ユーザー自身のユーザー名とパスワード、および / または haproxy URL を使用します。

```
stats enable
stats auth myuser:mypassword
stats uri /haproxy?stats
```

次に、stats を有効にした単純な構成ファイルの例を示します。


```
global
  daemon
  maxconn 256

defaults
  mode http
  stats enable
  stats uri /haproxy?stats
  stats auth myuser:mypassword
  timeout connect 5000ms
  timeout client 50000ms
  timeout server 50000ms

frontend http-in
  bind *:80
  default_backend servers

frontend http-in9080
  bind *:9080
  default_backend servers_2

backend servers
  server server1 10.128.0.55:8080 check ssl verify none
  server server2 10.128.0.56:8080 check ssl verify none

backend servers_2
  server server3 10.128.0.57:8080 check ssl verify none
  server server4 10.128.0.58:8080 check ssl verify none
```

最新の手順の詳細については、を参照してください ["HAProxy のドキュメント"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
HAProxy フロントエンド	ネームスペース 住所 プロキシ	ノードIP ノード名 プロキシID モード プロセスID セッションレート制限 サーバID セッション制限 ステータス	受信バイト数 バイトアウト キャッシュヒット キャッシュルックアップ 圧縮バイトがバイパスされました 圧縮バイト数 圧縮バイトが送信されました 圧縮応答 接続レート 接続レート最大 接続合計 接続ルールによって拒否された要求 セキュリティ上の懸念により拒否されたリクエスト セキュリティ上の懸念により拒否された応答 セッションルールによって拒否された要求 エラーを要求します 応答1xx 応答は2xx 応答は3xx 応答は4xx 応答は5xx 応答その他 要求が傍受されました セッションレート セッションレート最大 リクエスト率 要求レート最大 リクエストの合計 セッション セッションの最大数 セッションの合計 書き換えを要求します

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
HAProxy サーバ	ネームスペース 住所 プロキシ サーバ	ノードIP ノード名 完了までの時間を確認します フォール設定を確認します 健全性の値を確認します 立ち上がり設定を確認します ステータスを確認します プロキシID 最終変更時刻 前回のセッション時間 モード プロセスID サーバID ステータス 重量	アクティブサーバ バックアップサーバ 受信バイト数 バイトアウト チェックダウン チェックに失敗しました クライアントが中止されました 接続 接続平均時間 ダウンタイムの合計 拒否された応答 接続エラー 応答エラー 応答1xx 応答は2xx 応答は3xx 応答は4xx 応答は5xx 応答その他 サーバ選択合計 キューの現在 キューの最大数 キュー平均時間 1秒あたりのセッション数 1秒あたりのセッションの最大数 接続の再利用 応答時間平均 セッション セッションの最大数 サーバ転送が中止されます セッションの合計 セッション合計時間平均 再ディスパッチを要求します 再試行を要求します 書き換えを要求します

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
HAProxy バックエンド	ネームスペース 住所 プロキシ	ノードIP ノード名 プロキシID 最終変更時刻 前回のセッション時間 モード プロセスID サーバID セッション制限 ステータス 重量	アクティブサーバ バックアップサーバ 受信バイト数 バイトアウト キャッシュヒット キャッシュルックアップ チェックダウン クライアントが中止されました 圧縮バイトがバイパスされました 圧縮バイト数 圧縮バイトが送信されました 圧縮応答 接続 接続平均時間 ダウンタイムの合計 セキュリティ上の懸念により拒否されたリクエスト セキュリティ上の懸念により拒否された応答 接続エラー 応答エラー 応答1xx 応答は2xx 応答は3xx 応答は4xx 応答は5xx 応答その他 サーバ選択合計 キューの現在 キューの最大数 キュー平均時間 1秒あたりのセッション数 1秒あたりのセッションの最大数 リクエストの合計 接続の再利用 応答時間平均 セッション セッションの最大数 サーバ転送が中止されます セッションの合計 セッション合計時間平均 再ディスパッチを要求します 再試行を要求します 書き換えを要求します

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

JVM Data Collector （ JVM データ収集）

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して JVM からメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、 + Data Collector *をクリックします。JVMを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Java Configuration

Gathers JVM metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

RHEL & CentOS

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Install Jolokia on your JVMs. For details refer to the following [document](#).
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-jvm.conf file.

```
# Read JMX metrics through Jolokia
[[inputs.jolokia2_agent]]
  # USER-ACTION: Provide address(es) of JVM, port for jolokia, add one URL for each JVM in
  # your cluster
  # Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address (i.e.
  # 127.0.0.1 or 0.0.0.0)
```

- 3 Replace <INSERT_JVM_ADDRESS> with the applicable JVM address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the applicable JVM jolokia port.
- 5 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 6 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報については、を参照してください "[JVMのドキュメント](#)".

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
JVM	ネームスペース JVM	OSアーキテクチャ OS名 OSバージョン ランタイム仕様 ランタイム仕様ベンダー ランタイム仕様バージョン アップタイム ランタイムVM名 ランタイムVMベンダー ランタイムVMバージョン ノード名 ノードIP	クラスが読み込まれました クラスロード合計 クラスがアンロードされました メモリヒープがコミットされました メモリヒープ初期化 使用メモリヒープの最大値 使用されているメモリヒープ メモリのヒープがコミットされていません メモリ非ヒープ初期化 メモリ非ヒープ最大 メモリのヒープが使用されていません Memory Objects Pending Finalizationの略 OSプロセッサが使用可能です OS Committed Virtual Memory Sizeの略 OS Free Physical Memory Sizeの略 OS Free Swap Space Size (OS空きスワップスペースサイズ) OS最大ファイル記述子数 OS Open File Descriptors Count (OSオープンファイル記述子数) OSプロセッサCPU負荷 OSプロセッサCPU時間 OSシステムCPU負荷 OSシステム負荷平均 OS合計物理メモリサイズ [OS Total Swap Space Size]をクリックします スレッドデーモン数 スレッドのピーク数 スレッド数 スレッド合計開始数 ガベージコレクタコピーコレクション数 ガベージコレクタのコピー収集時間 ガベージコレクタマークスイープ収集数 ガベージコレクタマークスイープ収集時間 ガベージコレクタG1旧世代コレクション数

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Kafka Data Collector の利用

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して Kafka から指標を収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。Kafkaを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Kafka Configuration

Gathers Kafka metrics...

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Install Jolokia on your Kafka brokers. For details refer to the following [document](#).
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-kafka.conf file.

```
# Read JMX metrics through Jolokia
[[inputs.jolokia2_agent]]
  ## USER-ACTION: Provide address(es) of kafka broker(s), port for jolokia, add one URL for
  ## each broker in your cluster
  ## Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address (i.e.
  ## 127.0.0.1)
```

- 3 Replace <INSERT_KAFKA_BROKER_ADDRESS> with the applicable Kafka broker address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_JOLOKIA_PORT> with the applicable Kafka broker jolokia port.
- 5 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 6 Modify 'Cluster' if needed for Kafka cluster designation.
- 7 Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ (Setup)

Kafka プラグインは、テレグラムの Jolokia プラグインに基づいています。すべての Kafka ブローカーから情報を収集するため、JMX はすべてのコンポーネントで Jolokia 経由で設定および公開する必要があります。

互換性

Kafka バージョン 0.11.0.2 の構成向けに開発されました。

セットアップ中です

以下の手順はすべて、Kafka のインストール場所が「/opt/Kafka」であることを前提としています。以下の手順を使用して、設置場所を変更できます。

Jolokia エージェント JAR

Jolokia エージェント jar ファイルのバージョン "[ダウンロードしました](#)"。テスト対象のバージョンは Jolokia エージェント 1.6.0 でした。

以下の手順では、ダウンロードした jar ファイル（jolokia-jvm-1.6.0-agent.jar）が「/opt/Kafka/libs/」の下に配置されると想定しています。

Kafka Brokers のようになります

Kafka Brokers で Jolokia API を公開するように設定するには、「Kafka -run-class.sh」コールの直前に、<Kafka_home>/bin/Kafka-server-start.sh に次の項目を追加します。

```
export JMX_PORT=9999
export RMI_HOSTNAME=`hostname -I`
export KAFKA_JMX_OPTS="-javaagent:/opt/kafka/libs/jolokia-jvm-1.6.0-
agent.jar=port=8778,host=0.0.0.0
-Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=/opt/kafka/config/jmxremote.p
assword -Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false
-Djava.rmi.server.hostname=$RMI_HOSTNAME
-Dcom.sun.management.jmxremote.rmi.port=$JMX_PORT"
```

上記の例では 'hostname-i' を使用して 'RMI_HOSTNAME' 環境変数を設定しています。複数の IP マシンでは、RMI 接続に使用する IP を収集するために、これを調整する必要があります。

JMX (9999 以上) とジョロキア (8778) には別のポートを選択できます Jolokia をロックする内部 IP を持っている場合は、「catch all」0.0.0.0 を自分の IP で置き換えることができます。この IP には、テレグラムプラグインからアクセスできる必要があります。認証を行わない場合は、オプション「-Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false」を使用できます。自己責任で使用してください。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Kafka Broker	クラスタ ネームスペース ブローカー	ノード名 ノードIP	レプリカマネージャフェ ッチャー最大遅延 Zookeeperクライアント接 続 ZooKeeperクライアント 接続（15mレート） ZooKeeperクライアント 接続（5mレート） ZooKeeperクライアント 接続（平均速度） ZooKeeperクライアント 接続（1mレート） レプリカマネージャのパ ーティション数 スレッドカウントデーモ ン スレッド数のピーク 現在のスレッド数 スレッド数合計が開始さ れました オフラインパーティショ ン Produce Requests Total Time（50パーセンタイル 値） Produce Requests Total Time（75パーセンタイル 値） Produce Requests Total Time（95パーセンタイル 値） Produce Requests Total Time（98パーセンタイル 値） Produce Requests Total Time（999パーセンタイ ル値） Produce Requests Total Time（99パーセンタイル 値） Produce Requests Total Timeの略 Produce Requests Total Time Max Produce Requests Total Time Meanの略 Produce Requests Total Time Min Produce Requests Total Time stddev レプリカマネージャISRが 縮小されます レプリカ・マネージャ のISRが縮小（15mレート

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Kibana データコレクタ

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Kibana から指標を収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。「きばな」を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Kibana Configuration

Gathers Kibana metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Ubuntu & Debian

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-kibana.conf file.

```
[[inputs.kibana]]
  ## specify a list of one or more Kibana servers
  ## USER-ACTION: Provide address of kibana server(s), port(s) for kibana server
  ## Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address (i.e.
  localhost or 127.0.0.1).
```

- 2 Replace <INSERT_KIBANA_ADDRESS> with the applicable Kibana server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 3 Replace <INSERT_KIBANA_PORT> with the applicable Kibana server port.
- 4 Replace 'username' and 'password' with the applicable Kibana server authentication credentials as needed, and uncomment the lines.
- 5 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 6 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["Kibana のドキュメンテーション"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
キバナ	ネームスペース 住所	ノードIP ノード名 バージョン ステータス	同時接続 ヒープ最大 ヒープが使用されました 1秒あたりの要求数 応答時間平均 最大応答時間 アップタイム

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Memcached Data Collector

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Memcached からメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、 + Data Collector *をクリックします。Memcachedを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Memcached Configuration

Gathers Memcached metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-memcached.conf file.

```
[[inputs.memcached]]
  ## USER-ACTION: Provide comma-separated list of Memcached IP(s) and port(s).
  ## Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address
  (i.e. localhost or 127.0.0.1).
  ## When configuring with multiple Memcached servers, enter them in the format ["server1"
```

- 2 Replace <INSERT_MEMCACHED_ADDRESS> with the applicable Memcached server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 3 Replace <INSERT_MEMCACHED_PORT> with the applicable Memcached server port.
- 4 Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["Memcached Wiki"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
Memcached	ネームスペース サーバ	ノードIP ノード名	接続を受け入れています 認証要求を処理しました 認証に失敗しました 使用済みバイト数 読み取りバイト数（1秒あたり） 書き込みバイト数（1秒あたり） キャス・バヴァル CASヒット CASミス フラッシュ要求（1秒あたり） 要求の取得（1秒あたり） 要求の設定（1秒あたり） タッチ要求（1秒あたり） 接続歩留まり（1秒あたり） 接続構造 接続を開きます 現在保存されているアイテム Decr Requests Hits（1秒あたり） Decr Requests Misses（1秒あたり） Delete Requests Hits（1秒あたり） Delete Requests Misses（1秒あたり） 削除されたアイテム 有効な削除 期限切れのアイテム GETヒット数（1秒あたり） Get Misses（1秒あたり） 使用されているハッシュバイト数 ハッシュが拡張されています ハッシュパワーレベル Incr Requests Hits（1秒あたり） Incr Requests Misses（1秒あたり） サーバ最大バイト数 リッスン無効番号 再生されました ワーカースレッド数 オープンされている接続の総数 保存されている合計アイテム数 [ヒット]に触れます

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

MongoDB データコレクタ

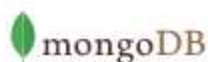
Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して MongoDB からの指標を収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[MongoDB]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



MongoDB Configuration

Gathers MongoDB metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

RHEL & CentOS

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Open mongod.conf. Locate the line beginning with "bindIp", and append the address of the node on which the Telegraf agent resides. After saving the change, restart the MongoDB server.
- 2 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-mongodb.conf file.

```
[[inputs.mongodb]]
  ## An array of URLs of the form:
  ## "mongodb://" [user ":" pass "@"] host [ ":" port]
  ## For example:
  ## mongodb://user:auth_key@10.10.3.30:27017,
  ## mongodb://10.10.3.30:27017
```

- 3 Replace <INSERT_MONGODB_ADDRESS> with the applicable MongoDB server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_MONGODB_PORT> with the applicable MongoDB port.
- 5 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["MongoDB のドキュメント"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
MongoDB	ネームスペース ホスト名		
MongoDB データベース	ネームスペース ホスト名 データベース名		

トラブルシューティング

情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

MySQL データコレクタ

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して MySQL からのメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、 + Data Collector *をクリックします。MySQLを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。 **[+Agent Access Key]** ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



MySQL Configuration

Gathers MySQL metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-mysql.conf file.

```
[[inputs.mysql]]
  ## USER-ACTION: Provide comma-separated list of mysql credentials, IP(s), and port(s)
  ## e.g. servers = ["user:passwd@tcp(127.0.0.1:3306)?tls=false"]
  ## Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address
  (i.e. localhost or 127.0.0.1).
```

- 2 Review and verify the contents of the configuration file.
- 3 Replace <INSERT_USERNAME> and <INSERT_PASSWORD> with the applicable MySQL credentials.
- 4 Replace <INSERT_PROTOCOL> with the applicable MySQL connection protocol. The typical protocol is tcp.
- 5 Replace <INSERT_MYSQL_ADDRESS> with the applicable MySQL server address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 6 Replace <INSERT_MYSQL_PORT> with the applicable MySQL server port. The typical port is 3306.
- 7 Modify the 'tls' parameter in accordance to the MySQL server configuration.
- 8 Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています "MySQL のドキュメント"。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
MySQL	ネームスペース MySQLサーバ	ノードIP ノード名	<p>中止されたクライアント数（1秒あたり）</p> <p>中断された接続数（1秒あたり）</p> <p>受信バイト数（1秒あたり）</p> <p>転送バイト数（1秒あたり）</p> <p>管理コマンド数（1秒あたり）</p> <p>コマンドはイベントを変更します</p> <p>コマンドは機能を変更します</p> <p>コマンドはインスタンスを変更します</p> <p>コマンドは手順を変更します</p> <p>コマンドはサーバーを変更します</p> <p>コマンドはテーブルを変更します</p> <p>コマンドはテーブルスペースを変更します</p> <p>コマンドはユーザーを変更します</p> <p>コマンド解析 （Commands Analyze コマンドはキーキャッシュに割り当てます コマンドが開始されます コマンドBinlog コマンド手順を呼び出します コマンド変更DB コマンドマスターを変更します [コマンド][リプレゼンテーションフィルタを変更] コマンドチェック コマンドチェックサム コマンドCommit コマンドCreate DB コマンドイベントを作成します コマンド機能を作成します コマンドインデックスを作成します コマンドCreate手順 コマンドサーバーを作成します コマンドテーブルを作成します</p>

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

netstat Data Collector の場合

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して netstat 指標を収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。netstatを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。

Netstat Configuration

Gathers netstat metrics of the host where telegraf agent is installed.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-netstat.conf file.

```
# Read TCP metrics such as established, time wait and sockets counts.
[[inputs.netstat]]
# no configuration
[inputs.netstat.tags]
  CloudInsights = "true"
```
- Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ（Setup）

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
netstat	ノード UUID	ノードIP ノード名	

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

nginx データコレクタ

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Nginx からメトリックを収集しま

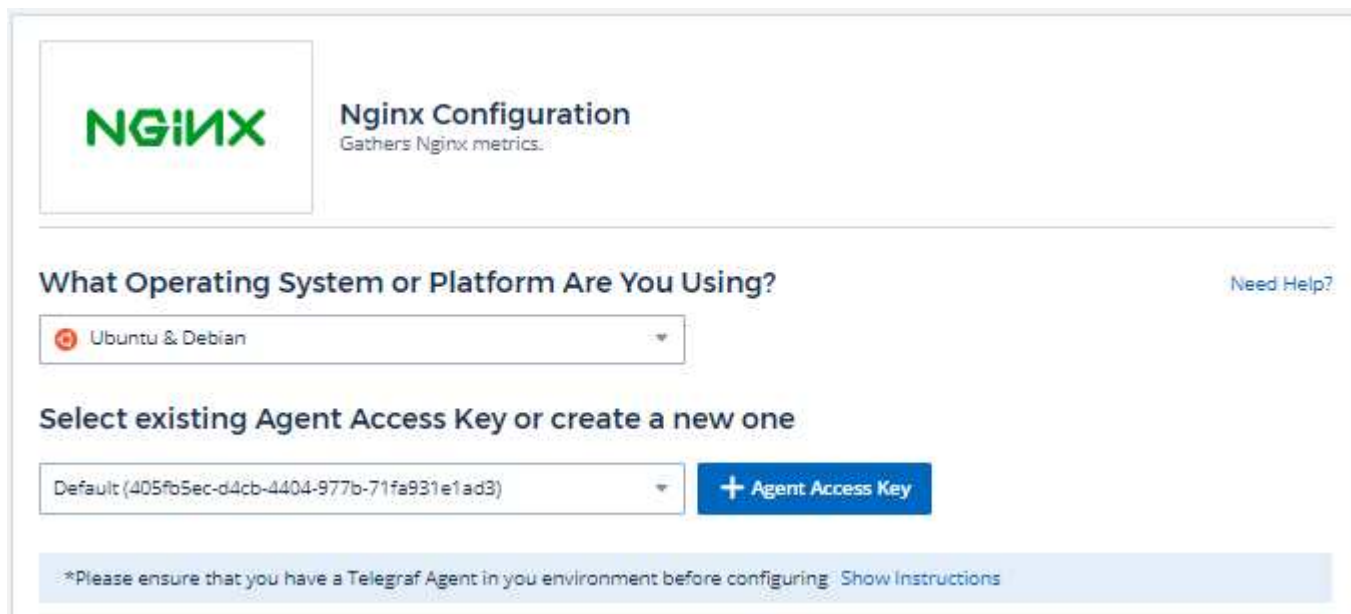
す。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。[Nginx]を選択します。

Telegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、 *Show Instructions* をクリックしてを展開します "[エージェントのインストール](#)" 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



NGINX Nginx Configuration
Gathers Nginx metrics.

What Operating System or Platform Are You Using? [Need Help?](#)

Ubuntu & Debian

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3) [+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 If you already have a URL enabled to provide Nginx metrics, go directly to the plugin configuration.
- 2 Nginx metrics are available through a status page when the HTTP stub status module is enabled. Refer to the below link for verifying/enabling `http_stub_status_module`.

```
http://nginx.org/en/docs/http/nginx_http_stub_status_module.html
```

- 3 After verifying the module is enabled, modify the Nginx configuration to set up a locally-accessible URL for the status page:

```
server {  
    listen    <PORT NUMBER>;  
    Please specify actual machine IP address, and refrain from using a loopback address (i.e.  
    localhost or 127.0.0.1)  
    server_name <IP ADDRESS>;  
    location /nginx_status {  
        stub_status on;  
    }  
}
```

- 4 Reload the configuration:

```
nginx -s reload
```

- 5 Copy the contents below into a new `.conf` file under the `/etc/telegraf/telegraf.d/` directory. For example, copy the contents to the `/etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-nginx.conf` file.

```
[[inputs.nginx]]  
  ## USER-ACTION: Provide Nginx status url  
  ## Please specify actual machine IP address where nginx_status is enabled, and refrain from  
  using a loopback address (i.e. localhost or 127.0.0.1).  
  ## When configuring with multiple Nginx servers, enter them in the format ["url1", "url2",  
  "url3"]
```

- 6 Replace `<INSERT_NGINX_ADDRESS>` with the applicable Nginx address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 7 Replace `<INSERT_NGINX_PORT>` with the applicable Nginx port.
- 8 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

nginx メトリックの収集では、Nginx が必要です "[HTTP_STUB_STATE_MODULE](#)" を有効にします。

追加情報は、にあります "[nginx のドキュメント](#)"。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
nginx	ネームスペース サーバ	ノードIP ノード名 ポート	受け入れます アクティブ 処理されます 読書 リクエスト 待機中です 書くこと

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

PostgreSQL データコレクタ

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して PostgreSQL からのメトリックを収集します。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。PostgreSQLを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、*Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



PostgreSQL Configuration

Gathers PostgreSQL metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

RHEL & CentOS

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Copy the contents below into a new .conf file under the /etc/telegraf/telegraf.d/ directory. For example, copy the contents to the /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-postgresql.conf file.

```
[[inputs.postgresql]]
# USER-ACTION: Provide credentials for access, address of PostgreSQL server, port for
PostgreSQL server, one DB for access
address = "postgres://<INSERT_USERNAME>:<INSERT_PASSWORD>@<INSERT_POSTGRESQL_ADDRESS>:
<INSERT_POSTGRESQL_PORT>/<INSERT_DB>"
```

- 2 Replace <INSERT_USERNAME> and <INSERT_PASSWORD> with the applicable PostgreSQL credentials.
- 3 Replace <INSERT_POSTGRESQL_ADDRESS> with the applicable PostgreSQL address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.
- 4 Replace <INSERT_POSTGRESQL_PORT> with the applicable PostgreSQL port.
- 5 Replace <INSERT_DB> with the applicable PostgreSQL database.
- 6 Modify 'Namespace' if needed for server disambiguation (to avoid name clashes).
- 7 Restart the Telegraf service.

```
systemctl restart telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["PostgreSQL のドキュメント"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
PostgreSQL サーバ	ネームスペース データベース サーバ	ノード名 ノードIP	割り当てられたバッファ バッファバックエンド バッファークバックエンド ファイル同期 バッファチェックポイント バッファクリーニング Checkpoints Sync Timeの略 Checkpoints Write Timeの略 チェックポイントリクエスト チェックポイントに時間が設定されました MAX Written Clean
PostgreSQL データベース	ネームスペース データベース サーバ	データベースOID ノード名 ノードIP	Blocks Read Timeの略 Blocks Write Timeの略 ブロックヒット 読み取りをブロックします コンフリクト デッドロック クライアント番号 一時ファイルのバイト数 一時ファイル番号 行を削除しました 行がフェッチされました 挿入された行 返される行数 行を更新しました コミットされたトランザクション ロールバックされたトランザクション

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Puppet Agent データコレクタ

Cloud Insights では、このデータコレクタを使用して Puppet Agent から指標を収集します。


インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、 + Data Collector *をクリックします。[Puppet]を選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択

します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、*Show Instructions* をクリックしてを展開します "[エージェントのインストール](#)" 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Puppet Agent Configuration
Gathers Puppet agent metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

+ Agent Access Key

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps[Need Help?](#)

1

Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-puppetagent.conf file.

```
## Reads last_run_summary.yaml file and converts to measurements
[[inputs.puppetagent]]
  ## Location of puppet last run summary file
  ## USER-ACTION: Modify the location if last_run_summary.yaml is on different path
  location = "/var/lib/puppet/state/last_run_summary.yaml"
```

2

Modify 'location' if last_run_summary.yaml is on different path

3

Modify 'Namespace' if needed for puppet agent disambiguation (to avoid name clashes).

4

Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ（ Setup ）

情報は、に記載されています ["Puppet のドキュメント"](#)

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「 dataPoints 」：
Puppet Agent	ネームスペース ノード UUID	ノード名 場所 ノードIP バージョン設定文字列 バージョンPuppet	合計を変更します イベント失敗 イベント成功 イベント合計 リソースが変更されました リソースに失敗しました リソースを再起動できませんでした リソースOutofsync リソースが再起動しました リソースがスケジュールされました リソースがスキップされました リソース合計 タイムアンカー Time Configretrievalの略 タイムcron タイム・エグゼクティブ 時間ファイル（Time File ） Time Filebucketの略 タイムラストラン タイムパッケージ タイムスケジュール タイムサービス 時間Sshauthorizedキー 合計時間 タイムユーザー

トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

Redis Data Collector の場合

Cloud Insights は、このデータコレクタを使用して Redis から指標を収集します。Redis は、データベース、キャッシュ、メッセージブローカーとして使用されるオープンソースのインメモリデータ構造ストアで、文字列、ハッシュ、リスト、セットなどのデータ構造をサポートしています。

インストール

1. [Observability]>[Collectors]で、+ Data Collector *をクリックします。Redisを選択します。

Tegraf エージェントがインストールされているオペレーティングシステムまたはプラットフォームを選択します。

2. Agent for Collection をまだインストールしていない場合、または別のオペレーティングシステムまたはプラットフォームに Agent をインストールする場合は、*Show Instructions* をクリックしてを展開します ["エージェントのインストール"](#) 手順
3. このデータコレクタで使用するエージェントアクセスキーを選択します。[+Agent Access Key] ボタンをクリックすると、新しいエージェントアクセスキーを追加できます。ベストプラクティス：別のエージェントアクセスキーを使用するのは、たとえば OS/ プラットフォーム別にデータコレクタをグループ化する場合だけです。
4. 設定手順に従ってデータコレクタを設定します。手順は、データの収集に使用するオペレーティングシステムまたはプラットフォームのタイプによって異なります。



Redis Configuration

Gathers Redis metrics.

What Operating System or Platform Are You Using?

[Need Help?](#)

Windows

Select existing Agent Access Key or create a new one

Default (405fb5ec-d4cb-4404-977b-71fa931e1ad3)

[+ Agent Access Key](#)

*Please ensure that you have a Telegraf Agent in you environment before configuring. [Show Instructions](#)

Follow Configuration Steps

[Need Help?](#)

- 1 Configure Redis to accept connections from the address of the node on which the Telegraf agent resides. Open the Redis configuration file.

```
vi /etc/redis.conf
```

- 2 Locate the line that begins with 'bind 127.0.0.1', and append the address of the node on which the Telegraf agent resides

```
bind 127.0.0.1 <NODE_IP_ADDRESS>
```

- 3 Copy the contents below into a new .conf file under the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\ folder. For example, copy the contents to the C:\Program Files\telegraf\telegraf.d\cloudinsights-redis.conf file.

```
# Read metrics from one or many redis servers
[[inputs.redis]]
  ## specify servers via a url matching:
  ## [protocol://][:password]@address[:port]
  ## e.g.
  ## tcp://username:password@127.0.0.1:6379
```

- 4 Replace <INSERT_REDIS_ADDRESS> with the applicable Redis address. Please specify a real machine address, and refrain from using a loopback address.

- 5 Replace <INSERT_REDIS_PORT> with the applicable Redis port.

- 6 Restart the Telegraf service.

```
Stop-Service -Name telegraf -ErrorAction SilentlyContinue; Start-Service -Name telegraf
```

セットアップ (Setup)

情報は、に記載されています ["Redis 文書"](#)。

オブジェクトとカウンタ

次のオブジェクトとそのカウンタが収集されます。

オブジェクト：	識別子：	属性：	「dataPoints」：
Redis	ネームスペース サーバ		




































トラブルシューティング

追加情報はから入手できます ["サポート"](#) ページ

オブジェクトアイコンリファレンス

Cloud Insights で使用されるオブジェクトアイコンのクイックリファレンスです。

インフラストラクチャアイコン：

Storage	Networking	Compute	Application	Misc.
 Backend Storage Array	 Fabric	 Datastore	 Application	 Unknown
 Backend Volume	 iSCSI Network Portal	 Host		 Generic
 Disk	 iSCSI Session	 Virtual Machine		 Violation
 Internal Volume	 NAS	 VMDK		 Failure
 Masking	 NPV Switch			
 Path	 NPV Chassis			
 Q-Tree	 Port			
 Quota	 Switch			
 Share	 Zone			
 Storage	 Zone Members			
 Storage Node				
 Storage Pool				
 Tape				
 Volume				
 Virtual Storage Array				
 Virtual Volume				

Kubernetesのアイコン：



Cluster



Namespace



Workload



Node



Pod

Kubernetesのネットワークパフォーマンスの監視とマップアイコン：



著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。